山梨県韮崎市

Okidono SITE Ⅲ

隠岐殿遺跡Ⅲ

—中田町中条地区畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

山梨県中北農務事務所
韮崎市教育委員会
財団法人山梨文化財研究所

山梨県韮崎市

Okidono SITE Ⅲ

隠岐殿遺跡 Ⅲ

—中田町中条地区畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

山梨県中北農務事務所
韮崎市教育委員会
財団法人山梨文化財研究所

１．隠岐殿遺跡航空写真

２．Ｂ区航空写真

例　言

1．本書は、山梨県韮崎市中田町中条地内に所在する、隠岐殿遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、畑地帯総合整備事業に伴う本調査であり、山梨県中北農務事務所の委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が、発掘調査および整理作業にあたった。

事業内容は、国宝重要文化財等保存整備費補助事業及び山梨県文化財保存事業費補助事業の対象である畑地の整備事業と県直轄事業である農業用道路の新設工事があり、本書は農業用道路新設分の調査報告を掲載しており、畑地整備事業分の調査結果は、『隠岐殿遺跡Ⅱ』として、別に報告する。

3．本書に掲載部分の調査経費は、山梨県中北農務事務所が負担した。

4．発掘調査は、平成21年８月26日より10月13日まで実施し、整理作業は、平成21・22年度に実施した。

5．本書の執筆・編集は、宮澤公雄が行った。

6．本書に掲載の遺構写真は宮澤が、遺物写真は中川美治が撮影した。

7．発掘調査および整理作業において一部の調査・業務について、以下の機関に委託ならびに協力を得た。

基準点・航空測量	テクノプラニング株式会社
石器実測	株式会社アルカ
鉄器保存処理	財団法人山梨文化財研究所
陶磁器類鑑定	藤澤良祐（愛知学院大学）
	堀内秀樹（東京大学大学院人文社会系研究科埋蔵文化財調査室）
石材鑑定	河西学（財団法人山梨文化財研究所）

8．本書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、韮崎市教育委員会が保管している。

9．本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関･各位から多大なるご指導･ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。

韮崎市教育委員会、山梨県教育委員会学術文化財課、ＪＡ梨北新府共撰所

稲垣自由、閏間俊明、末木健、堤充紀、中山誠二、藤澤良祐、保坂和博、堀内秀樹、山下孝司

10．参考文献は、執筆者順に第４章末にまとめて掲載した。

凡　例

1．遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第Ⅷ系のX＝－28,760.000、Y＝－6,530.000（北緯35度44分15秒、東経138度25分51秒）を基点（X＝0、Y＝0）とした座標値である。なお、各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。

なお、真北方向角は0度2分25秒となる。

2．遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺　構

竪穴住居　―　1/30、1/60

溝　―　1/30、1/50、1/60、1/100

性格不明遺構　―　1/40

土　坑　―　1/40

ピット　―　1/40

遺　物

土　器　―　2/3、1/3、1/4、1/6

石・金属製品　―　1/1、1/2

3．遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。

石　焼土

4．遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは平面図については上向き、垂直分布図は垂直方向を基準としている。

▲縄文土器　●弥生土器・土師器　◆石器・石製品

■陶磁器　⧗金属製品

5．遺物図版中で使用したスクリーントーンの凡例は、以下の通りである。

赤彩土器

6．遺構同一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。

7．出土遺物分布図中の出土遺物実測図は、任意の縮尺であり統一していない。また、接合関係を表現した線のうち、実線は接合関係にあるもの、破線は同一個体と判断されるが直接接合しないものを表す。

8．遺構図版中および遺物観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修　1990『新版　標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）によっている。

9．本書で用いた地図は、韮崎市発行の韮崎市管内図（1:10,000および1:2,500）である。

目　次

例　言
凡　例
第１章　序　説 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
　第３節　調査の方法 …… 5
　第４節　遺跡概要 …… 5
　第５節　基本層序 …… 6

第２章　遺跡の立地と環境 …… 7
　第１節　遺跡の地理的位置 …… 7
　第２節　遺跡の歴史的環境 …… 7

第３章　遺構と遺物 …… 11
　第１節　竪穴住居跡 …… 11
　第２節　溝　跡 …… 13
　第３節　性格不明遺構 …… 16
　第４節　土坑・ピット …… 16

第４章　まとめ …… 21

参考文献 …… 21

おわりに …… 23

表　目　次

第１表　土坑一覧表 …… 17
第２表　ピット一覧表 …… 18
第３表　出土遺物観察表（土器） …… 19
第４表　出土遺物観察表（土製品） …… 20
第５表　出土遺物観察表（金属製品） …… 20
第６表　出土遺物観察表（石器） …… 20

図版目次

第１図　隠岐殿遺跡の位置 …… 2
第２図　調査区配置図 …… 3
第３図　Ｂ区全体図 …… 4
第４図　遺跡基本土層 …… 6
第５図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 8
第６図　１号住居 …… 24
第７図　２号住居（１） …… 25
第８図　２号住居（２） …… 26
第９図　３・４号住居 …… 27
第10図　５号住居（１） …… 28
第11図　５号住居（２） …… 29
第12図　６号住居 …… 30
第13図　７号住居（１） …… 31
第14図　７号住居（２） …… 32
第15図　溝（１） …… 33
第16図　溝（２） …… 34
第17図　溝（３） …… 35
第18図　溝（４） …… 36
第19図　溝（５） …… 37
第20図　性格不明遺構･土坑･ピット（１） …… 38
第21図　土坑・ピット（２） …… 39
第22図　土坑・ピット（３） …… 40
第23図　土坑・ピット（４） …… 41
第24図　土坑・ピット（５） …… 42
第25図　土坑・ピット（６） …… 43
第26図　土坑・ピット（７） …… 44
第27図　土坑・ピット（８） …… 45
第28図　土坑・ピット（９） …… 46
第29図　土坑・ピット(10) …… 47
第30図　土坑・ピット(11) …… 48
第31図　出土遺物（１） …… 49
第32図　出土遺物（２） …… 50
第33図　出土遺物（３） …… 51

写真図版目次

巻頭１　１　隠岐殿遺跡航空写真
　　２　Ｂ区航空写真
図版１　１　表土剥ぎ（１）
　　２　表土剥ぎ（２）
　　３　１号住居
　　４　１号住居　炉
　　５　１号住居　遺物出土状況（１）
　　６　１号住居　遺物出土状況（２）
　　７　１号住居　遺物出土状況（３）
　　８　２号住居
図版２　１　２号住居　遺物出土状況（１）
　　２　２号住居　遺物出土状況（２）
　　３　２号住居　遺物出土状況（３）
　　４　２号住居　遺物出土状況（４）
　　５　３号住居
　　６　４号住居
　　７　４号住居　遺物出土状況
　　８　５号住居
図版３　１　６号住居
　　２　６号住居　炉
　　３　６号住居　遺物出土状況（１）
　　４　６号住居　遺物出土状況（２）
　　５　７号住居
　　６　７号住居　炉
　　７　７号住居　遺物出土状況(１)
　　８　７号住居　遺物出土状況(２)

図版４　１　１号土坑
２　２号土坑
３　６号土坑
４　６号土坑　遺物出土状況
５　７号土坑
６　８号土坑
７　12号土坑
８　13号土坑

図版５　１　14号土坑
２　14号土坑　遺物出土状況
３　１号溝
４　２号溝
５　３・４号溝
６　７号溝
７　７号溝内ピット
８　調査風景

第1章　序　説

第1節　調査に至る経緯

遺跡の所在する韮崎市中田町は、塩川によって形成された平坦地と台地とからなる。平坦地は水田地帯となっているが、近年急速な宅地化が進行している。一方、八ヶ岳泥流と呼ばれる火砕流が形成した台地は、七里岩台地と呼ばれており、宅地化がそれほど進行しておらず広大な畑地として利用されており、「新府の桃」として広く知られる果樹栽培ならびに根菜類の栽培が盛んに行われている。

山梨県では、農業の振興を図る目的で、畑地帯総合整備事業として畑地の集約、耕作放棄地の解消ならびに農業用道路の整備を行う計画を立案した。

この計画予定地内は周知の埋蔵文化財包蔵地である隠岐殿遺跡内にあるため、韮崎市教育委員会では2008年８月に開発予定地内の試掘調査を実施した。試掘調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居跡と思われる遺構や遺物などが確認されたため、発掘調査が必要であると判断した。

調査対象面積も広く、韮崎市教育委員会単独では設定された調査期間内に調査を完了することが困難であるとの判断から、2008年11月に韮崎市教育委員会および事業主体である山梨県中北農務事務所より財団法人山梨文化財研究所に対し、隠岐殿遺跡の発掘調査の依頼があり三者で協議した結果、協定ならびに委託契約を結び、韮崎市教育委員会および財団法人山梨文化財研究所で調査区を分割し、発掘調査および整理作業にあたることとした。

埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を山梨県中北農務事務所、韮崎市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所の間において締結し、山梨県中北農務事務所、財団法人山梨文化財研究所の間において発掘調査に関する委託契約を締結し事業にあたった。

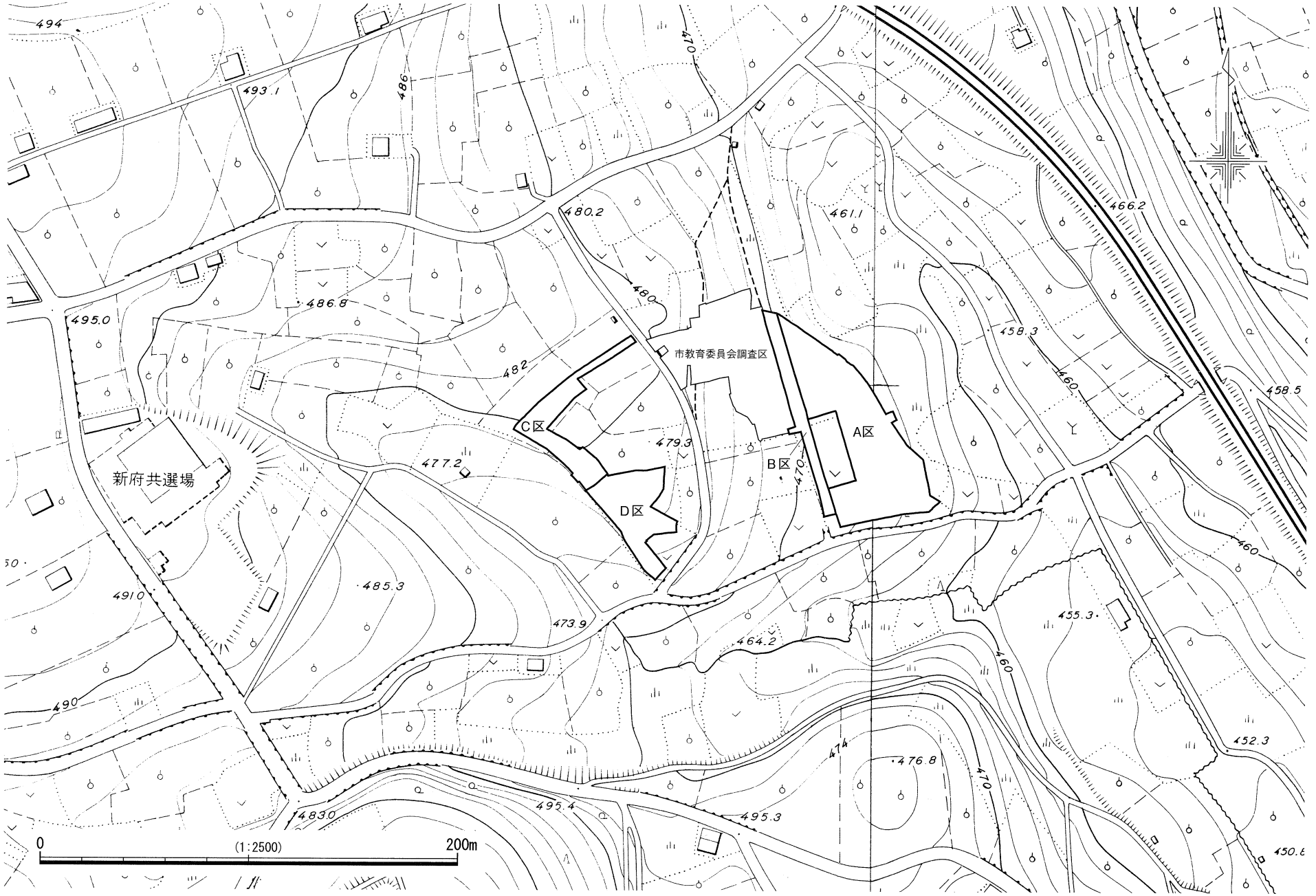
調査体制

調　査　主　体　財団法人山梨文化財研究所
調 査 担 当 者　宮澤公雄（財団法人山梨文化財研究所）
調 査 補 助 員　中山千恵、望月秀和（財団法人山梨文化財研究所）

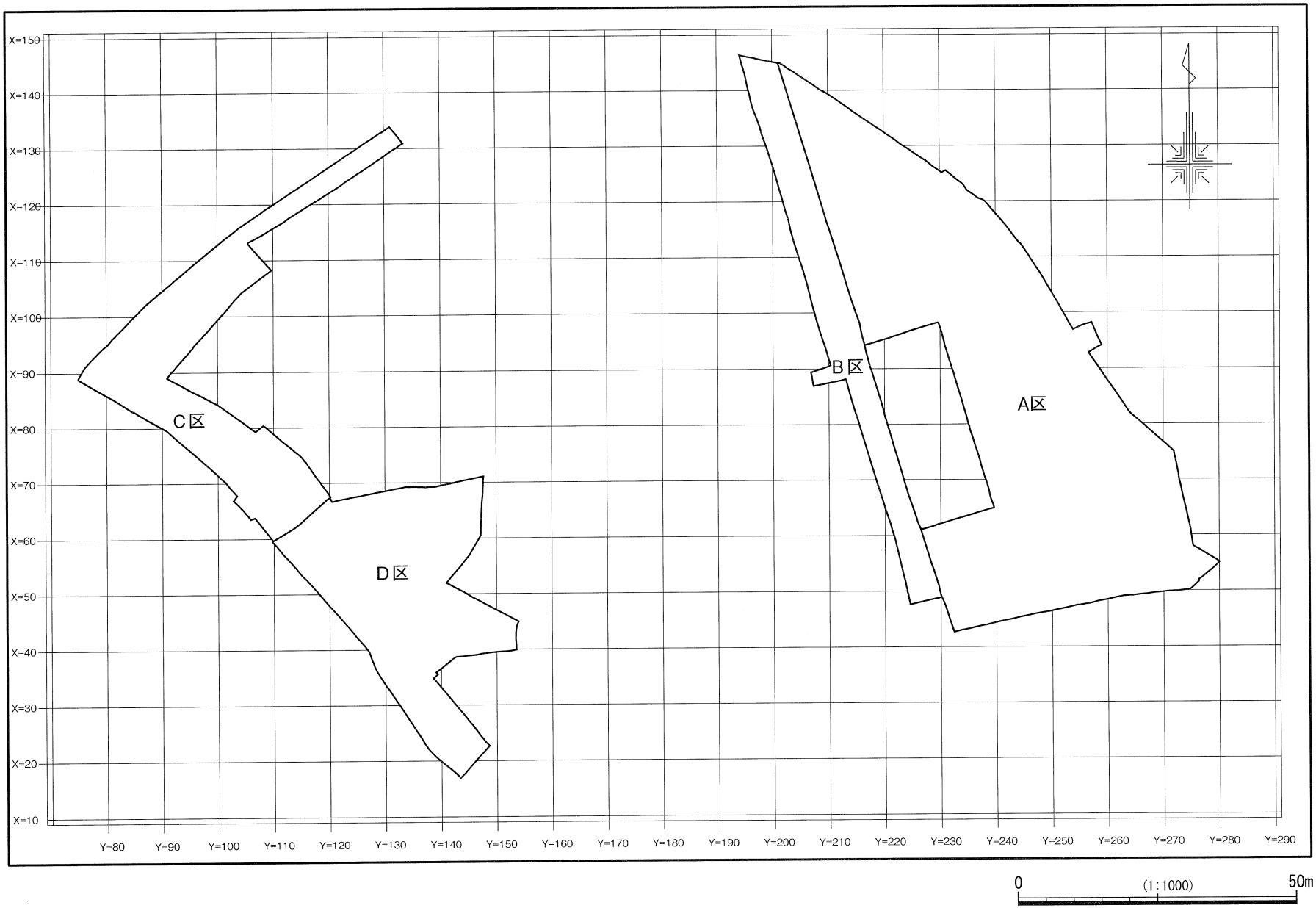
発掘調査参加者　網干祐馬、伊井實、河西町男、神田久美子、清水千三、清水恵、菅沼芳治、高橋主税、武井美智子、田中健二、筒井聡、東條幹雄、中川美治、中川博子、中澤久雄、永沢淳子、長沢晴雄、波木井祥和、萩原忠、深澤友子、福井光幸、保坂清文、宮川美季
整理作業参加者　伊藤美香、大村明子、角屋さえ子、櫛原ゆかり、梶原薫、神田久美子、小林典子、斉藤ひろみ、崎田貴子、佐野眞雪、須田泰美、武井美知子、田中真紀美、中川博子、中川美治、永沢淳子、永田恵、原野ゆかり、林紀子、平賀早苗、藤井多恵子、渡辺美伸
事　務　局　横田杏子、柳本千恵子

第2節　調査経過

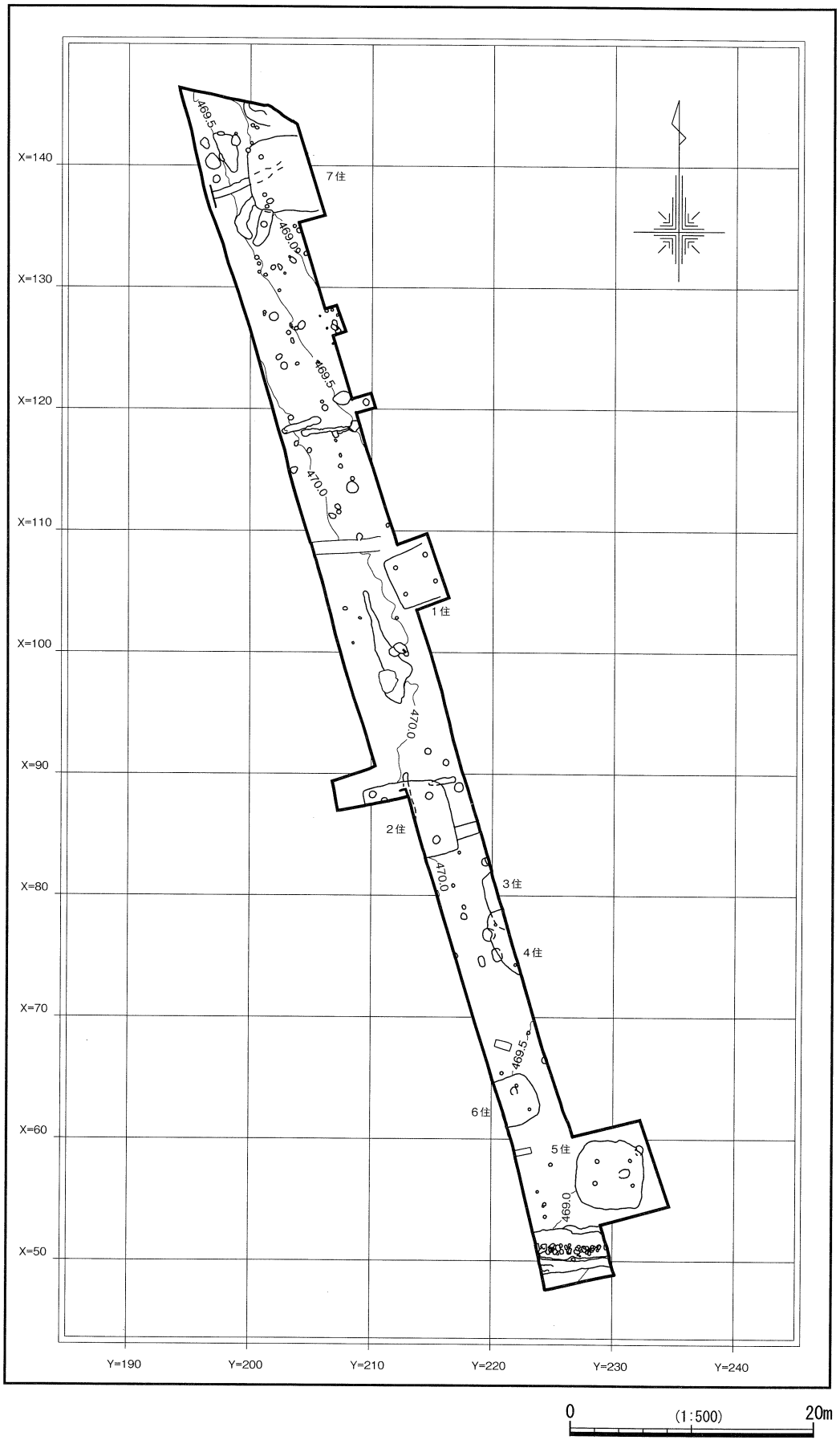
2009年　８月26日　調査区北側表土剥ぎ
　　９月１日　遺構確認作業
　　９月３日　遺構調査開始
　　９月８日　１号住居完掘
　　９月17日　上層遺構写真測量
　　９月18日　３・４号住居調査



第１図　隠岐殿遺跡の位置


X=150
X=140
X=130
X=120
X=110
X=100
X=90
X=80
X=70
X=60
X=50
X=40
X=30
X=20
X=10
Y=80
Y=90
Y=100
Y=110
Y=120
Y=130
Y=140
Y=150
Y=160
Y=170
Y=180
Y=190
Y=200
Y=210
Y=220
Y=230
Y=240
Y=250
Y=260
Y=270
Y=280
Y=290
A区
B区
C区
D区
0
(1:1000)
50m

第２図　調査区配置図


X=140
X=130
X=120
X=110
X=100
X=90
X=80
X=70
X=60
X=50
Y=190
Y=200
Y=210
Y=220
Y=230
Y=240
7住
1住
2住
3住
4住
5住
6住
469.5
469.0
470.0
0
(1:500)
20m

第３図　Ｂ区全体図

9月24日　調査区南側表土剥ぎ
9月25日　５号住居（Ａ区１号住居）調査
9月26日　７号溝（Ａ区１号溝）調査
9月28日　調査区南側写真測量
9月29日　２号住居完掘
10月10日　７号住居完掘
10月11日　写真測量、機材撤収
10月12日　埋め戻し
10月13日　現地事務所撤去
10月14日　現地作業終了確認

第３節　調査の方法

事業対象地内のうち、本調査区は農業用道路敷設用地にあたるため、試掘調査によって遺構、遺物が確認された範囲を発掘調査の対象範囲とした。

発掘調査予定地は、台地上の流れ山と谷に向かう緩やかな斜面上からなっており、緩斜面上の北側を韮崎市教育委員会が調査を行い、緩斜面上の南側ならびに台地上を財団法人山梨文化財研究所が担当して調査にあたることにした。

財団法人山梨文化財研究所が担当した地区については、便宜上、緩斜面上の南東地区をＡ区、同じく緩斜面上の事業用地中央を南北に走る農業用道路予定地をＢ区、台地上の北側をＣ区、南側をＤ区として発掘調査にあたり、ここに報告する調査区はＢ区にあたる。

発掘調査の方法については、先行調査していたＡ・Ｃ・Ｄ区に準じたので、詳細は『隠岐殿遺跡Ⅱ』を参照されたい。

重機による表土剥ぎ終了後、事業対象地内全体を被うように国土座標にあわせて南北方向をＸ軸、東西方向をＹ軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした。先行調査で用いていた世界測地系座標Ｘ＝－28,760.000ｍ、Ｙ＝－6,530.000ｍを原点（Ｘ＝０、Ｙ＝０）とし、調査区内に５ｍメッシュの杭打ちを行った。

第４節　遺跡概要

本遺跡は、釜無川と塩川に挟まれた、通称「七里岩台地」と呼ばれる河岸段丘上に位置し、現在は果樹園や畑地が営まれている地域にある。

隠岐殿遺跡は、東西900ｍ、南北400ｍの範囲とされており、埋蔵文化財包蔵地の多い市内においても、新府城跡、能見城などとともに最大規模を誇る遺跡である。

本遺跡は、これまで発掘調査が実施されたことはなく、市教育委員会の遺跡台帳には縄文時代から古代の遺跡として登録されているが、遺跡の内容は明らかではなかった。

発掘調査の結果、市教育委員会調査区では、中世の礎石立建物２棟、掘立柱建物１棟が検出され、輸入陶磁器をはじめ、茶入れ、天目茶碗、茶壺などの国産陶磁器などが多数出土している。建物の性格は明らかにできないが、出土した遺物から16世紀中頃のものとみられ、武田勝頼が天正９（1581）に築城した新府城との関連が注目されるところとなった。

財団法人山梨文化財研究所が担当した地区は、上位の流山地形上の平坦面から傾斜面、下位の緩斜面に分けることが出来、緩斜面上のＡ・Ｂ区、上位の流山上のＣ・Ｄ区の発掘調査を行った。

Ａ区は、標高469ｍを中心とした東面緩斜面上に占地し、縄文時代中期２軒、弥生時代後期から古墳時代前期22軒の竪穴住居と古代および中世と考えられる竪穴状遺構３棟、中世の掘立柱建物２棟、幅3.5ｍほ

どもある大型の溝などが発見された。

本報告としたＢ区は、農業用道路新設用地で、Ａ区の西側ならびに市教育委員会調査地点の東側に位置する。中世の建物群の東側、斜面下方に位置することから、中世段階の造成面が確認された。造成面は、黒褐色土を押し出し最大で30cmほどの堆積がみられた。造成面は平坦ではなく地形に沿った堆積をみせ、Ｂ区東側のＡ区との調査区境あたりでみられなくなる。造成面の上層からは、中世以降と思われる土坑、溝が、下層からは、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居６軒、土坑などが発見された。

Ｃ区は、標高481ｍの流山上および西面斜面上に立地し、縄文時代中期５軒、縄文時代後期２軒、古墳時代前期３軒、平安時代１軒の竪穴住居、縄文土器を多量に廃棄した性格不明遺構などが発見された。また、斜面上の堆積土中から縄文土器が多量に出土した。北側に広がる流山状地形平坦面に展開すると考えられる集落から廃棄されたものと考えられる。

Ｄ区は、Ｃ区の南側に位置し、標高479ｍを中心とした流山上から南面傾斜地上に広がり、古墳時代前期の竪穴住居３軒、幅2.3ｍほどの大型の溝などが発見され、大型の溝は、Ａ区で発見された大型の溝の延長線上にあり、同一のものと判断された。

第５節　基本層序

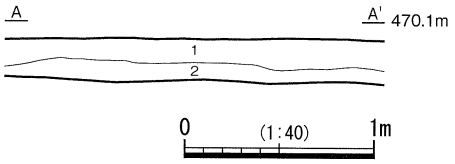
隠岐殿遺跡内における発掘調査対象地区は、上位の流山地形と下位の緩斜面にあたり、起伏が激しいため調査地点によって表土から遺構確認面の深さおよび土質には大きな差がある。

下位の緩斜面にあたるＡ・Ｂ区では、表土・耕作土が20～30cm堆積しており、その下層が暗褐色土の遺構確認面となる（第４図）。Ｂ区の北側の一部では、中世段階の屋敷構築に伴う造成面が続いており、２面にわたる調査を実施した。Ａ区でも北側は、造成によって斜面下方に押し出された土砂が厚く堆積しており、遺構確認面まで１ｍほどもあった。

下位の斜面上における表土ならびに地山土はしまりのある土質であり、乾燥すると非常に硬化し、遺構確認作業ならびに遺構掘削にも影響を与えた。

流山地形の平坦面から西傾斜面に位置するＣ区は、平坦面では耕作土である表土下20～30cmでローム層の遺構確認面となり、遺構の残存状況は良好ではなかった。一方、西向きの斜面は、流山頂上からの土層の堆積が厚く、遺構確認面まで１ｍを超える地点もあった。

流山地形の平坦面から南向き斜面にあたるＤ区では、耕作土である表土下10～20cmで遺構確認面となる。平坦面上ではローム層が残り遺構確認は比較的容易であったが、斜面上にあたる南側では、拳大から人頭大の礫を多量に含んだ暗褐色土の地山となっている。



1層　暗褐色土層(10YR3/3)　粘性あり、しまりは強い。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともにあり。

第４図　遺跡基本土層

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の地理的位置

本遺跡の所在する韮崎市は、山梨県の北西部、甲府盆地の北西部に位置している。東西にやや長い市域は、河川の開析などによって複雑な地形を呈しており、大きく３地域に分けることができる。

市域の東側は、茅ヶ岳の南西麓地域にあたり、緩やかな南西斜面を利用して果樹栽培を中心とした農業が行われている。市域の西側は、南アルプス連峰、巨摩山地が連なり、市域を貫流する釜無川右岸の河岸段丘上に展開する地域である。

市域の中央部は、釜無川と塩川が南北に貫流している。八ヶ岳山麓から延びる韮崎岩屑流で構成された台地が、この両河川によって浸食された韮崎台地と塩川の氾濫原にあたる低地とからなる。韮崎台地は、侵食によるほぼ垂直に切り立った断崖が形成されており、その長さから七里岩と呼ばれている。低地の氾濫原は、完新世段丘の形成によって藤井平と呼ばれる肥沃な穀倉地帯が形成されており、「藤井五千石」などともいわれている。

『甲斐国志』古跡部第十には、

穴山ヨリ南小田川・駒井・坂井・中条・下条・韮崎等ノ数村ヲ里人ハ藤井庄五千石ト云其田膏ユニ名アリ慶長古高六千百余石後又千五六百石ヲ増ス西ハ片山新府ノ台、東ハ塩川ヲ帯ビ北ハ桐樹川ヲ界ヒトシ藤井渠ヲ穿ツ水利自在ヲ得テ夏時水田トシ冬陸田トナス且諸村ノ末ニ居リ余水聚来ルヲ以テ田地殊ニ肥饒ナリ

と記されており、当時から著名な穀倉地帯であったことがわかる。

一方、河岸段丘上は、古くから畑地として利用されており、古くは養蚕、現在では果樹および根菜類の栽培が盛んとなっている。段丘上は岩屑流による流れ山地形となっており、起伏に富んでいる。流れ山地形によって形成された窪地は、湧水地・湿地となり、周辺に遺跡が立地する例が多い。また、流れ山地形の岩塊は、中世の城館や烽火台などとしても多く利用されている。

本遺跡は、河岸段丘上の中央、標高469ｍ付近に立地している。

遺跡周辺では、現在もモモを主体とする果樹栽培が盛んで、大規模な耕作が行われている。

第２節　遺跡の歴史的環境

七里岩台地上には、縄文時代から中世にかけての多くの遺跡が分布しており、とりわけ縄文時代の遺跡は学史に残る著名な遺跡も分布している。

本地域は、畑地としての土地利用が主体であるため、数多くの発掘調査が行われているわけではないが、学術調査や工場建設、道路整備、個人住宅建設などに伴って発掘調査が実施され、河岸段丘上における遺跡のあり方が解明されつつある。

縄文時代の遺跡として著名なものに、坂井遺跡（第６図38）がある。坂井遺跡は、大正14年の土器の発見を契機として、志村滝蔵氏らによって昭和31年まで発掘調査が実施されたもので、山梨県内における発掘調査の先駆けとなった調査例である。この調査によって出土した縄文時代中期を中心とした出土品は、坂井考古館に保管展示されている。宿尻遺跡（同２）は、２度にわたる発掘調査が実施され、中期初頭から後期前半の住居跡などが調査されている。そのほか、縄文時代の遺跡として、伊藤窪第２遺跡（同７）、中条上野１遺跡、中条上野第２遺跡、坂井天神前遺跡（同３）などが知られる。

台地上における弥生時代の遺跡としては、穴山小学校遺跡（宿尻遺跡と同一の遺跡）、伊藤窪遺跡（同８）、坂井遺跡などが知られるが、遺跡のあり方としては希薄である。一方、低位段丘面の「藤井平」にはこの時期の遺跡が濃密に分布している。宮ノ前遺跡（同56）、上横屋遺跡（同74）、下横屋遺跡（同75）、後田堂ノ前遺跡（同70）、後田第２遺跡（同71）などが知られている。宮ノ前遺跡の微高地縁辺部の埋没旧河道か

第５図　遺跡の位置と周辺の遺跡

らは、弥生時代前期中葉から後葉に並行する水田跡が発見されており、東日本でも最古の水田跡とされている。上横屋遺跡においても後期の住居跡などが調査されている。上横屋遺跡の南側に隣接する下横屋遺跡からは、後期の住居跡やガラス小玉を副葬した土器棺墓などが発見されている。

古墳時代の遺跡は、台地上では本遺跡をはじめとして前期の遺跡が顕著にみられる。坂井南遺跡（同42）は、工場建設などに伴って８度にわたる発掘調査が実施されている。調査によって古墳時代前期の竪穴住居跡100軒、方形周溝墓12基、掘立柱建物跡３棟などが発見された。峡北地域で最大規模の遺跡であり、集落と墓域がセットで発見された貴重な例となった。宿尻遺跡では、前期の竪穴住居跡が３軒調査されている。宿尻第２遺跡では、前期の竪穴住居跡39軒、掘立柱建物跡16棟などが調査され、坂井南遺跡に匹敵するような大規模集落遺跡である可能性がある。伊藤窪第２遺跡でも竪穴住居跡２軒が調査されている。台地上における中・後期の遺跡はほとんど知られておらず、低位段丘上で多くの遺跡が立地するようになる。

坂井南遺跡東側の低位段丘上の三宮地遺跡（同67）の範囲に立地する火雨塚古墳（同66）は、墳丘は削平されているが横穴式石室の一部が残っている。かつてはその他にも古墳が点在していたとも言われ、群集墳を形成していたことも考えられる。後期の集落としては、坂井堂ノ前遺跡（同65）２軒、上横屋遺跡22軒、後田堂ノ前遺跡４軒、後田第２遺跡６軒などが発掘調査されている。中でも上横屋遺跡は、３次にわたる発掘調査を実施しており、第１次調査では竪穴住居跡15軒、古墳時代以降の掘立柱建物跡３棟などが発見され、１号住居跡およびその周辺から金環２点、隣接する１号土坑からは青銅製釧などが出土している。第２次調査では、古墳時代後期の竪穴住居跡７軒が発見され、そのうち10号住居跡からは、専用鞴が２点出土するなどしており、後期の鍛冶遺構を伴う施設が調査されている。

台地上における奈良･平安時代の遺跡も希薄であり、古墳時代後期に始まる低位段丘への集落域の移行は、奈良・平安時代においてもその傾向に変化がない。その中にあって、坂井南遺跡の第２次調査Ｃ区では、平安時代の竪穴住居跡５軒が調査されている。

「藤井平」における奈良・平安時代の遺跡は濃密で、宮ノ前遺跡、堂ノ前遺跡（同63）、後田堂ノ前遺跡、坂井堂ノ前遺跡、後田第２遺跡、三宮地遺跡、中田小学校遺跡（同49）などが発掘調査されており、平坦面全域に集落遺跡が広がりをみせるようになる。そのうち宮ノ前遺跡では、竪穴住居跡400軒以上、掘立柱建物跡50棟以上が発見されており、正倉と思われる大型倉庫も検出されている。出土遺物にも円面硯や三彩陶器などがあり、巨麻郡衙の一部ないし隣接する遺跡だと考えられている。その北側に隣接する宮ノ前第２遺跡（同55）では、四面庇付の寺院跡と考えられる建物から瓦塔などが検出されている。

数々の発掘調査によって、この藤井平の地が弥生時代以降、水田経営を生業としながら、連綿と集落を営んできたことが理解され、巨麻郡の中において重要な役割を果たしてきた地域であることが明らかとなっている。

中世になると台地上も再び活況を呈するようになり、当該期の遺跡も数多く知られている。新府城跡（同24）は、1575（天正３）年、長篠の戦で織田・徳川連合軍に敗れた武田勝頼が、領国支配強化のため、甲府の躑躅ヶ崎館からこの地へ城を移したものである。築城は1582（天正10）年から開始され、年末には勝頼が躑躅ヶ崎館から新府城へ移住し、その後、３ヶ月ほどで武田氏は滅亡している。新府城は国指定史跡として、現在も整備に伴う発掘調査が進められている。新府城から北西へ２㎞の距離にある能見城跡は、『甲斐国志』巻之四十七古跡部第十に「新府中ノ墟・・・・・・穴山ハ外郭ノ内ナリ能見城ト云ウ狐山高爽ニシテ四望開ケ看楼ヲ置ベシ・・・某西北ヨリ東ノ方黒駒ノ内ヘ係リ旧塁アリ」とあり新府城の外郭とされる。能見城（同3）および能見城防塁は、武田勝頼によって造られたものか、徳川家康によって構築されたものかは明らかではない。その他、堂ヶ坂の砦、重久の烽火台などが知られている。また、新府城築城に際しては、穴山の伊藤窪、次第窪、石水に家臣団屋敷を配したといわれ、現在でも屋敷跡と思われる土塁が残されているが、詳細は明らかではない。坂井南遺跡の第１次調査において、16世紀代の集石土坑２基、第７次調査によって大窯製品を伴う竪穴状遺構３棟、館跡の堀と思われる遺構などが調査されている。

藤井平においても中世以降の遺跡が立地しており、松雲寺塁跡（同45）、水上氏屋敷跡（同46）、駒井氏

屋敷（同60）、北下條塁址（同68）、蔵之前塁址、殿田屋敷跡などの屋敷跡ないし伝承地が数多く知られている。

遺跡一覧（番号は第５図に対応）

1　隠岐殿遺跡
2　宿尻遺跡
3　能見城跡
4　夏目石水遺跡
5　石水遺跡
6　南原遺跡
7　伊藤窪第２遺跡
8　伊藤窪遺跡
9　中本田遺跡
10　蓬田遺跡
11　中道遺跡
12　下木戸遺跡
13　伊藤窪第３遺跡
14　石水稲倉遺跡
15　中田山道遺跡
16　山道第２遺跡
17　山道遺跡
18　旧新府中学校跡
19　藤塚遺跡
20　藤塚長林遺跡
21　田向遺跡
22　蕨島堤
23　上祖母石高砂堤
24　新府城跡
25　城山遺跡
26　丸山塁址
27　上野丸山遺跡
28　中条上野古道遺跡
29　長林遺跡
30　駒井上野遺跡
31　駒井天神前遺跡
32　駒井天神前第２遺跡
33　坂井天神前遺跡
34　西御門第２遺跡
35　西御門遺跡
36　西御門第３遺跡
37　駒井天神前第３遺跡
38　坂井遺跡
39　坂井丸山遺跡
40　堂坂上遺跡
41　坂井南大原遺跡
42　坂井南遺跡
43　青木下河原堤
44　塩川下河原堤防
45　松雲寺塁址
46　水上氏屋敷跡
47　中田中條宿遺跡
48　水上氏屋敷跡第２
49　中田小学校遺跡
50　金山遺跡
51　中田中條前田遺跡
52　立口遺跡
53　立岩遺跡
54　下木戸第２遺跡
55　宮ノ前第２遺跡
56　宮ノ前遺跡
57　北後田遺跡
58　宮ノ前第３遺跡
59　宮ノ前第５遺跡
60　駒井氏屋敷跡
61　駒井砂宮神遺跡
62　宮ノ前第４遺跡
63　堂ノ前遺跡
64　後田遺跡
65　坂井堂ノ前遺跡
66　火雨塚古墳
67　三宮地遺跡
68　北下條塁址
69　北下條後田遺跡
70　後田堂ノ前遺跡
71　後田第２遺跡
72　榎田遺跡
73　北下條殿田遺跡
74　上横屋遺跡
75　下横屋遺跡

第３章　遺構と遺物

本遺跡からは、Ａ～Ｄ区合わせて、縄文時代から平安時代にかけての竪穴住居44軒、竪穴状遺構３軒、掘立柱建物３棟、溝30条、土坑195基、ピット279基、性格不明な遺構４基などが発見された。

微細な土器片などは、調査日ごとに遺構単位で取り上げを行ったが、それ以外は、個々に光波測量機によって位置を記録しながら取り上げ作業を行った。

第１・２表の土坑・ピット一覧表以外の記載に用いる遺物点数は、微細な遺物を除外した光波測量機による取り上げを行った遺物点数である。

第１節　竪穴住居跡

１号住居（第６図）

位　置　X＝106、Y＝213グリット

主　軸　N－22°－W

遺構概要　西側に21号ピット、８号溝が隣接する。

東側は斜面下方にあたり、削平を受け残存していない。東西は現存長3.48ｍ、南北4.33ｍを測る隅丸方形のプランを呈するものと思われる。深さは北側で0.07ｍ、南側で0.11ｍ、西側で0.2ｍである。柱穴は対角線上付近に４本を配している。残存する掘り込みは浅く、深さは北西0.35ｍ、北東0.32ｍ、南西0.29ｍ、南東0.26ｍとなる。

炉　北西の柱穴付近に長径1.2ｍ、短径0.59ｍ、深さ0.08ｍの掘り込みがみられた。不整の長楕円形を呈しており、土層の断面観察によって、炉の作り替えが行われたことが明らかとなり、北側の炉が新しく南北0.82ｍの規模である。

遺物出土状況（第６図）　住居の残存状況が悪いために遺物は少なく、45点ほどが出土しているにすぎない。中央付近でＳ字甕、南側の隅寄りで台付甕の脚部、西壁際で壺が出土している。

出土遺物（第31図）　第31図１は壺型土器の頸部である。有段口縁となるかどうかは不明。同２・３はＳ字甕の口縁部ならびに脚部である。

時　期　古墳時代前期末

２号住居（第７図）

位　置　X＝86、Y＝213グリット

主　軸　N－13°－W

遺構概要　東に６号土坑、南に24号ピットが隣接し、北側に掘削されていた５・６号溝に切られる。南西側は調査区外となり、ほぼ半分は未調査である。

東西6.6ｍ、南北6.47ｍを測る隅丸方形のプランを呈する。南東および北西隅はやや角が立った状況を示す。深さは北側で0.2ｍ、東側で0.23ｍ、南側で0.17ｍとなる。柱穴は対角線上付近に３本確認され、南西は調査区外のため未確認である。深さは北西0.72ｍ、北東0.8ｍ、南東0.84ｍであった。また、北西隅付近で径0.5ｍのピットが確認されたが、性格不明。

炉は、調査区外にあると思われ、未確認である。

遺物出土状況（第８図）　住居全体から遺物が出土しているが、60点ほどと少ない。南東隅付近からは、壺、小型壺が出土している。北西隅付近では壺、高坏ないし器台の脚部などが出土している。北壁際では砥石が出土している。

出土遺物（第31･33図）　壺型土器が２点出土しており、単純口縁のも（第31図４）と、有段口縁のもの（同５）がみられる。また、小型の壺もみられる（同６）。Ｓ字甕は口縁部の破片資料であるが出土している（同

7）。同8は高坏ないし器台の脚部である。石器には砥石（第33図15）と打製石斧（同14）がある。
時　期　古墳時代前期末

3号住居（第9図）
位　置　X＝80、Y＝220グリット
主　軸　N－18°－W
遺構概要　北に11号土坑、西に26・27号ピットが隣接し、南側で重複する4号住居を切る。東側はほとんどが調査区外となり未調査である。

確認された規模は、東西1.18m、南北4.96mで、小判型のプランを呈するものと思われる。深さは、北側で0.39m、西側で0.45mである。

住居の南壁寄りで床面から焼土の広がりが確認されたが、柱穴や炉などの付属施設は確認されなかった。
遺物出土状況（第9図）　調査範囲が狭小であったために出土遺物は少なく、30点ほどが出土しているにすぎず、小破片が多い。住居南側でS字甕が北側で長頸瓶の頸部が出土している。
出土遺物（第31図）　第31図9は、内外面とも赤彩された長頸壺の口縁だと思われる。4号住居と重複関係にあることから、本住居に伴うものではない可能性もある。同10・11はS字甕の口縁部である。
時　期　古墳時代前期末

4号住居（第9図）
位　置　X＝76、Y＝221グリット
主　軸　N－26°－W
遺構概要　西に12号土坑が隣接し、北側で重複する3号住居、西側で重複する7・8号土坑に切られる。

東側は調査区外となっており、遺構のほとんどは未調査である。

確認された規模は、東西1.14m、南北5.5mで、小判型のプランを呈するものと思われる。深さは、北側で0.02m、南側で0.15m、西側で0.4mである。柱穴は北西側と南側で2本確認された。深さはそれぞれ0.06m、0.16mである。

柱穴や炉などの付属施設は確認されなかった。
遺物出土状況（第9図）　調査範囲は狭小なうえ、3号住居に北側を削平されているために出土遺物は少なく、10点足らずである。住居中央よりやや北側で甕が潰れた状態で床面直上で出土している。
出土遺物（第31図）　第31図12は、無文の甕である。器壁は摩耗が激しく明瞭ではないが、頸部付近にハケの痕跡を認めることができる。
時　期　弥生時代後期

5号住居（第10図）
位　置　X＝57、Y＝229グリット
主　軸　N－85°－W
遺構概要　A区1号住居と同一の遺構。

B区においては、住居南西隅が調査区内となったため、別名称を付して調査した。遺構・遺物の詳細は『隠岐殿遺跡Ⅱ』を参照のこと。
時　期　古墳時代前期末

6号住居（第12図）
位　置　X＝63、Y＝221グリット
主　軸　N－24°－W

遺構概要　北に38号ピットが隣接し、西側は調査区外となる。

東西は現存長で3.23 m、南北4 mの隅丸方形プランを呈する。深さは、北側で0.37 m、東側で0.34 m、南側で0.33 mである。柱穴は東側の列が確認されたが、西側の列は調査区外にあたるようで未確認である。

深さは、北東で0.37 m、南東で0.47 mである。

炉　住居の中央よりやや北側に位置する。長径0.61 m、短径0.55 m、深さ0.09 mの不整円形を呈する。南側には比較的大型の礫を枕石として配している。

遺物出土状況（第12図）　住居の東半しか調査することが出来ず、出土遺物も25点ほどとわずかである。遺物は住居北側に集中する傾向にあり、壺や甕の破片が出土している。

出土遺物（第32図）　第32図には有段口縁壺の口縁部、同13・14は壺の底部である。

時　期　古墳時代前期末

7号住居（第13図）

位　置　X＝139、Y＝202グリット

主　軸　N－6°－W

遺構概要　北に1・2・4号ピット、1号溝、南に18号土坑、62・72号ピット、西に1号不明遺構、21号土坑が隣接する。南西の9・10号溝を切り、北側の5号ピット、上層を東西に走る2号溝に切られる。

急傾斜面のため、斜面下方にあたる東側は削平され、残存していない。残存する東西長5.02 m、南北長6.1 mを測る隅丸方形を呈する。深さは、北側で0.16 m、南側で0.42 m、西側で0.49 mである。柱穴は、対角線状にあたる付近に4本確認された。深さは北西0.27 m、北東0.24 m、南西0.36 m、南東0.22 mである。

炉　住居西側に炉の痕跡が並んで2ヶ所確認された。北側の炉は、長径0.4 m、短径0.36 m、深さ0.1 mの規模である。南側の炉は、長径0.36 m、短径0.3 m、深さ0.02 mであった。炉の新旧関係は不明。

貯蔵穴　南西隅付近に長径0.57 m、短径0.42 m、深さ0.18 mの規模の土坑が確認され、位地から貯蔵穴の可能性も高いが、掘り込みが浅く断定はできない。また、壁との間に小型のピットが確認されたが、性格は不明である。

遺物出土状況（第14図）　住居の残存状況は悪く、90点ほどの遺物が出土しているが、縄文土器の破片も多く、住居に伴うであろう土師器は小破片で図示できるものはほとんどない。

出土遺物（第32図）　第32図15は、有段口縁壺の頸部である。

時　期　古墳時代前期末

第2節　溝　跡

1号溝（第15図）

位　置　X＝145、Y＝199～X＝143、Y＝202グリット

主　軸　不明

遺構概要　調査区の北端に位置し、北側、東側は調査区外へと延びる。中世の造成面を遺構確認面としている。

現存長4.3 m、幅は、東側で1.25 m、中央部で0.82 m、西側で0.42 m、深さは、東側で0.1 m、中央部で0.1 m、西側で0.02 mを測る。遺構は東西に掘削されているが、西側でほぼ直角に屈曲する。

出土遺物はない。

時　期　不明

2号溝（第15図）

位　置　X＝137、Y＝196～X＝140、Y＝203グリット

主　軸　N－64°－E

遺構概要　北側に1号不明遺構、南側に9・10号溝が隣接する。西側は調査区外へ延びる。

遺構は、7号住居上に掘削されており、住居を切る。1号溝同様、中世の造成面を遺構確認面としている。

現存長7.7 m、幅は、東側で0.52 m、中央部で0.6 m、西側で1.6 m、深さは、東側で0.1 m、中央部で0.1 m、西側で0.06 mを測る。

遺物出土状況（第15図）　縄文土器の破片が7点ほど出土しているが、本遺構の構築時期を示すものではない。遺物は、小破片のため図示できるものはない。

時　期　古墳時代前期以降

3号溝（第16図）

位　置　X＝118、Y＝204グリット

主　軸　N－72°－E

遺構概要　北側に8・14号ピット、南側に9号ピット、4号溝が隣接する。

全長3.29 m、幅は、東側で0.55 m、西側で0.58 m、深さは、東側で0.05 m、西側で0.05 mを測る。

遺物出土状況（第16図）　縄文土器がわずか1点出土したのみである。小破片のため図示できない。

時　期　不明

4号溝（第16図）

位　置　X＝118、Y＝204～X＝118、Y＝208グリット

主　軸　N－82°－E

遺構概要　北側に3号溝、南側に29号ピットが隣接する。東側は調査区外へと延びる。南側で重複する9号土坑を切り、東側で重複する10号土坑に切られる。

現存長4.95 m、幅は、東側で0.54 m、西側で0.42 m、深さは、東側で0.05 m、西側で0.06 mを測る。

出土遺物はない。

時　期　不明

5号溝（第16図）

位　置　X＝89、Y＝212～X＝86、Y＝213グリット

主　軸　N－11°－W

遺構概要　調査区のほぼ中央に位置する。南西は調査区外へと延びる。2号住居上に掘削されており、住居を切る。

全長4.6 m、幅は、北側で0.47 m、南側で0.35 m、深さは、北側で0.06 m、南側で0.06 mを測る。覆土は非常に軟質で、畑堺に位置していることから、畑堺の根切り溝の可能性が高い。

遺物出土状況（第15図）　縄文土器がわずか1点出土したのみである。中期後半のものと思われるが、小破片のため図示できるものではない。

時　期　近世以降

6号溝（第17図）

位　置　X＝89、Y＝215グリット

主　軸　N－80°－E

遺構概要　北側に23号ピット、南側に6号土坑が隣接する。西側で重複する2号住居を切る。

全長2.21 m、幅0.5 m、深さ0.1 mを測る。5号溝同様、覆土は非常に軟質で、畑堺に位置していることから、畑堺の根切り溝の可能性が高い。

出土遺物はない。

時　期　近世以降か

7号溝（第18図）

位　置　X＝50、Y＝224～X＝55、Y＝279グリット

主　軸　N－88°－E

遺構概要　北側に5号住居（A区1号住居）、37号ピットが隣接する。西側は調査区外へ延びる。A区1号溝と同一の溝である。本調査区にも遺構が延びていたために、別名称を付して調査した。A区29・43・44号土坑を切り、A区2号竪穴状遺構に切られる。

A区も含めた現存長56.5 m、幅は、東側で3.3 m、中央部で3.4 m、西側で3.6 m、深さは、東側で0.53 m、中央部で0.47 m、西側で0.71 mを測る。

A区で検出された状況と同様に、溝は再掘削の痕跡が認められ、底部にはピット状の浅い掘り込みをもつ。溝の詳細は、『隠岐殿遺跡Ⅱ』を参照のこと。

遺物出土状況（第18図）　溝の覆土中より陶磁器類が出土しているが、近世以降のものが多い。いずれも小破片で図示できるようなものはない。

時　期　中世から近世か

8号溝（第17図）

位　置　X＝104、Y＝209～X＝96、Y＝212グリット

主　軸　N－18°－W

遺構概要　東側に1号住居、21号ピット、西側に20号ピットが隣接する。中央付近で4号土坑に切られ、南側でカクランを受ける。

全長9.66 m、幅は、北側で0.37 m、中央付近で0.89 m、南側で1.55 m、深さは、北側で0.02 m、中央付近で0.03 m、南側で0.03 mを測る。

出土遺物はない。

時　期　不明

9号溝（第19図）

位　置　X＝135、Y＝201グリット

主　軸　N－13°－E

遺構概要　西側に10号溝、南側に6号ピットが隣接する。中央付近で18号土坑を切り、北側を7号住居に切られる。

全長3.1 m、幅1.04 m、深さ0.38 mを測る。溝は南側で東へ向かって屈曲する。

出土遺物はない。

時　期　古墳時代前期以前

10号溝（第19図）

位　置　X＝135、Y＝199グリット

主　軸　N－30°－E

遺構概要　北側に2号溝、東側に9号溝が隣接する。北東側で7号住居に切られる。

全長3.7 m、幅は、北側で0.75 m、中央部で0.98 m、南側で0.73 m、深さは、北側で0.13 m、中央部で0.09 m、南側で0.23 mを測る。

遺物出土状況（第19図）　覆土中より、縄文土器の小破片が3点出土したのみである。いずれも中期後半のものであるが、図示できるものはない。

時　期　古墳時代前期以前

第３節　性格不明遺構

１号性格不明遺構（第 20 図）

位　置　X = 141、Y = 198 グリット

主　軸　N − 20° − W

遺構概要　東側に７号住居、３号ピット、南側に２号溝、西側に 17･19 号土坑、73･74 号ピットが隣接する。20・21 号土坑、75 号ピットと重複し、いずれをも切る。

東西 1.48 m、南北 3.53 m、深さ 0.59 m を測る。溝状のプランを呈するが、長さに比して幅があることから、不明遺構として調査したが、溝の可能性も高い。性格は不明。

出土遺物はない。

時　期　不明

第４節　土坑・ピット

本調査によって、21 基の土坑と 76 基のピットが発見された。土坑とピットの区分は、径 50cmほどを境界として大きいものを土坑、小さいものをピットとした。ただし、プラン確認の段階で遺構名称を付しているため、プラン確認の困難な遺跡であることもあり、調査の進捗によって当初予想した規模と異なる遺構も多々あった。よって、調査結果をもって厳密に区分したものではなく、両者の規模に齟齬が生じている場合もある。個々の遺構データについては、第１・２表にまとめた。

土坑・ピットのうち、１・２号土坑、１～７号ピットは、中世の造成面を遺構確認面としていることから、中世以降に掘削されたものである。

ここではいくつかの特徴的な遺構について概観する。

土坑

遺構の概要（第１表・第 20 ～ 23 図）

土坑は、21 基調査されているが、出土遺物がないものが多い。その中で、６号土坑は、径 0.75 m、深さ 0.2 m足らずの小さな土坑であるが、覆土中より陶器片がまとまって出土した。陶器は、大窯製品の祖母懐の茶壺（第 32 図 16）である。

８号土坑は、長径 1.09 m、短径 0.74 m を測る隅丸長方形の土坑であるが、覆土中央付近から寛永通寶（第 33 図 11）が１点出土している。

ピット

遺構の概要（第２表・第 24 ～ 30 図）

ピットは、76 基が調査されているが、建物配置を示すような柱穴列は確認できていない。また、遺物を出土した遺構も少なく、数基にとどまる。出土遺物の多くは縄文土器で、中期のものと思われる。いずれも小破片であり、図示できるようなものはない。

第１表　土坑一覧表

（　　）の中の数値は残存値　単位：m

遺構名	グリッド	形態	上端	下端	深さ	主軸	出土遺物	備考
			長径×短径	長径×短径				
１号土坑	127-201	楕円形	0.72×0.69	0.42×0.38	0.40	N-45° -E	土器２	
２号土坑	123-202	楕円形	0.59×0.54	0.48×0.44	0.20	N-20° -W	土器２	
３号土坑	113-208	不整楕円形	0.96×0.92	0.87×0.79	0.12	N-18° -W	土器３	
４号土坑	100-211	不整	0.77×(0.69)	0.65×(0.61)	0.05	N-87° -E	土器１	５号土坑に切られる
５号土坑	100-212	不整	1.22×(0.78)	0.93×0.64	0.09	N-70° -W		４号土坑を切り、30号ピットと重複
６号土坑	88-217	不整円形	0.76×0.74	0.56×0.53	0.19	N-72° -E	土器１、陶器８	
７号土坑	76-219	不整楕円形	1.07×1.03	0.53×0.48	0.50	N-26° -W	土器２	４号住居を切る
８号土坑	75-220	隅丸長方形	1.09×0.74	0.89×0.62	0.29	N-17° -W	土器９、金属製品１	４号住居を切る
９号土坑	117-206	不整	(0.54)×0.42	(0.51)×0.36	0.03	N-23° -W		４号溝に切られる
10号土坑	118-208	不整	(0.99)×0.78	0.76×0.54	0.09	N-29° -E		４号溝と重複。東側調査区外
11号土坑	82-219	不整	0.67×(0.61)	(0.51)×0.45	0.33	N-70° -E	土器３	32号ピットと重複。東側調査区外
12号土坑	74-219	隅丸長方形	0.87×0.50	0.79×0.39	0.11	N-14° -W		
13号土坑	66-224	不整	0.55×(0.36)	0.52×(0.34)	0.07	N-75° -E		東側調査区外
14号土坑	120-207	不整楕円形	1.47×1.10	1.27×0.94	0.30	N-84° -E	土器24	
15号土坑	126-204	不整楕円形	0.74×0.54	0.59×0.33	0.18	N-32° -E	土器30	54号ピットを切る
16号土坑	132-203	不整楕円形	(0.59)×0.37	0.43×0.27	0.12	N-50° -W		70号ピットと隣接
17号土坑	138-197	不整楕円形	0.66×0.56	0.56×0.44	0.20	N-32° -E	土器５	
18号土坑	135-201	不整円形	0.51×0.49	0.27×0.25	0.18	N-20° -W		９号溝に切られる
19号土坑	140-196	不整楕円形	1.29×1.07	0.67×0.47	0.50	N-59° -W	土器８	
20号土坑	140-197	不整	0.70×(0.26)	0.37×(0.12)	0.43	—		１号不明遺構に切られる
21号土坑	142-198	不整	0.90×(071)	0.73×(0.64)	0.07	N-20° -W		１号不明遺構に切られる

第２表　ピット一覧表

（　　）の中の数値は残存値　単位：m

遺構名	グリッド	形態	上端	下端	深さ	出土遺物	備　考
			長径×短径	長径×短径			
１号ピット	143-200	楕円形	0.32×0.24	0.26×0.13	0.13		
２号ピット	143-200	不整楕円形	0.29×0.26	0.14×0.12	0.15		
３号ピット	142-198	楕円形	0.21×0.17	0.09×0.09	0.18		
４号ピット	141-200	円形	0.23×0.10	0.23×0.10	0.13		８号溝を切る
５号ピット	141-199	不整円形	0.37×0.36	0.25×0.25	0.16		7号住居北西隅を切る
６号ピット	132-200	不整円形	0.36×0.34	0.17×0.11	0.16		
７号ピット	124-202	不整楕円形	0.57×0.38	0.50×0.32	0.2	土器７	
８号ピット	119-203	不整円形	0.44×0.40	0.32×0.29	0.07		
９号ピット	117-203	不整楕円形	0.44×0.30	0.23×0.15	0.16	土器２	４号溝に切られる
10号ピット	116-204	不整楕円形	0.44×0.33	0.37×0.25	0.06	土器２	４号溝を切る
11号ピット	116-207	楕円形	0.30×0.17	0.17×0.10	0.04		
12号ピット	115-207	不整楕円形	0.36×0.33	0.24×0.24	0.05		
13号ピット	114-208	円形	0.34×0.31	0.26×0.26	0.04	土器３	
14号ピット	114-203	不整	0.60×0.50	0.34×0.21	0.15	土器５	
15号ピット	111-207	不整楕円形	0.51×0.38	0.39×0.26	0.14	土器１	
16号ピット	111-206	不整楕円形	0.62×0.40	0.50×0.27	0.1	土器８	
17号ピット	110-211	不整楕円形	0.35×0.27	0.15×0.12	0.11		
18号ピット	109-208	不整楕円形	(0.60)×0.48	0.28×0.26	0.15	土器１	９号溝に切られる
19号ピット	103-207	不整楕円形	0.37×0.29	0.30×0.22	0.02		
20号ピット	102-209	不整楕円形	0.25×0.16	0.17×0.08	0.03		１号不明遺構に切られる
21号ピット	102-212	不整楕円形	0.26×0.21	0.12×0.12	0.07		１号不明遺構に切られる
22号ピット	91-214	円形	0.50×0.50	0.43×0.40	0.07		
23号ピット	90-216	円形	0.52×0.48	0.45×0.40	0.06		
24号ピット	83-217	不整楕円形	0.23×0.20	0.12×0.08	0.17		
25号ピット	80-216	不整楕円形	0.29×0.23	0.17×0.14	0.45	土器１	
26号ピット	79-217	不整楕円形	0.35×0.29	0.28×0.26	0.05		
27号ピット	78-217	不整楕円形	0.56×0.48	0.43×0.33	0.1		
28号ピット	100-208	不整隅丸長方形	0.28×0.15	0.07×0.05	0.11		
29号ピット	117-207	不整隅丸長方形	0.22×0.15	0.15×0.08	0.04		
30号ピット	99-212	不整	0.36×(0.33)	(0.26)×0.20	0.05		５号土坑と重複
31号ピット	111-207	不整円形	0.36×0.34	0.21×0.21	0.06	土器１	
32号ピット	82-219	不整	0.57×(0.26)	0.30×(0.21)	1.04		11号土坑と重複。東調査区外
33号ピット	57-224	不整楕円形	0.31×0.26	0.23×0.19	0.08		
34号ピット	55-223	不整円形	0.19×0.20	0.14×0.13	0.04		
35号ピット	54-224	不整円形	(0.27)×0.27	0.15×0.14	0.09		36号ピットと隣接
36号ピット	54-224	不整円形	0.17×0.15	0.06×0.05	0.07		35号ピットと隣接
37号ピット	53-224	円形	0.25×0.25	0.17×0.17	0.08		
38号ピット	65-220	円形	0.26×0.27	0.20×0.23	0.03		
39号ピット	68-223	不整楕円形	0.27×0.23	0.20×0.16	0.07		
40号ピット	120-209	不整楕円形	0.57×0.51	0.52×0.46	0.04		
41号ピット	120-206	不整円形	0.50×0.47	0.44×0.41	0.04		
42号ピット	120-205	不整円形	0.26×0.25	0.19×0.15	0.03		
43号ピット	123-205	不整円形	0.14×0.13	0.04×0.03	0.04		44号ピットと隣接
44号ピット	123-205	不整楕円形	0.15×0.14	0.05×0.03	0.07		43号ピットと隣接
45号ピット	126-207	不整	0.44×(0.30)	0.16×0.06	0.19		46号ピットに切られる
46号ピット	126-206	不整	(0.61)×0.45	0.23×0.13	0.09		45号ピットを切り、47号ピットに切られる
47号ピット	127-206	不整	(0.50)×0.40	0.34×0.22	0.1	土器１	46号ピットを切る
48号ピット	127-207	不整楕円形	0.22×0.17	0.16×0.12	0.06		
49号ピット	128-206	不整円形	0.23×0.21	0.18×0.16	0.04		
50号ピット	128-206	不整隅丸長方形	0.26×0.21	0.14×0.13	0.06		
51号ピット	125-206	不整楕円形	0.14×0.13	0.05×0.04	0.02		
52号ピット	126-206	不整楕円形	0.16×0.12	0.10×0.08	0.02		
53号ピット	127-205	不整楕円形	0.13×0.11	0.04×0.03	0.05		
54号ピット	126-203	楕円形	0.32×0.30	0.18×0.14	0.16		15号土坑に切られる
55号ピット	126-203	不整円形	0.12×0.11	0.07×0.05	0.04		
56号ピット	126-203	不整円形	0.18×0.17	0.05×0.05	0.04		
57号ピット	125-203	不整楕円形	0.47×0.23	0.32×0.14	0.08	土器４	
58号ピット	126-203	不整円形	0.36×0.35	0.22×0.19	0.06		
59号ピット	127-201	不整楕円形	(0.21)×0.16	0.12×0.07	0.05		60号ピットと隣接
60号ピット	127-201	不整楕円形	0.26×(0.22)	0.19×0.16	0.04		59号ピットと隣接
61号ピット	132-204	不整楕円形	0.41×0.35	0.28×0.19	0.14		
62号ピット	134-203	不整楕円形	0.40×0.35	0.23×0.19	0.18		
63号ピット	129-202	不整円形	0.24×0.22	0.19×0.19	0.04		
64号ピット	131-202	不整円形	0.18×0.18	0.13×0.13	0.03		
65号ピット	131-202	不整楕円形	0.54×0.28	0.42×0.10	0.19	土器１	
66号ピット	131-201	不整楕円形	0.42×0.36	0.32×0.16	0.21		
67号ピット	131-201	不整	0.31×0.24	0.09×0.05	0.11		
68号ピット	131-200	不整円形	0.26×0.23	0.20×0.18	0.11		
69号ピット	131-200	不整円形	0.28×0.25	0.16×0.15	0.16	土器１	
70号ピット	132-203	不整	(0.19)×0.15	(0.10)×0.06	0.04		16号土坑と隣接
71号ピット	133-203	不整楕円形	0.37×0.32	0.11×0.10	0.15		
72号ピット	135-203	不整円形	0.26×0.26	0.11×0.11	0.1		
73号ピット	141-196	不整	－×0.67	－×0.50	0.13		74号ピットを切る
74号ピット	141-196	不整	－×0.47	－×0.30	0.18		73号ピットに切られる
75号ピット	142-197	不整	0.57×(0.30)	0.34×(0.20)	0.18		１号不明遺構に切られる
76号ピット	75-216	不整	0.42×(0.24)	0.35×(0.18)	0.05	土器２	西半調査区外

第３表　出土遺物観察表（土器）

１．法量（　　）は復元実測値、［　　］は現存値である。
２．残存率は、図示されたうちのもの／個体全体のうちのものを示す。また、これらの数値は目測によるものである。

遺構名	図版番号	種類	器種	器形	法量(cm)			整形			色調	胎土	含有物	焼成	残存率(%)	産地	時代	備考
					口径	底径	器高	内面	外面	底部								
１号住	31-1	土師器	甕		－	－	[3.7]	ナデ	ナデ		明褐(7.5YR5/6)	密	赤・黒・白色粒子、雲母	良	－			
１号住	31-2	土師器	甕	Ｓ字甕	(16.0)	－	[7.7]	ナデ	ナデ、ハケメ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	－			外面摩耗している
１号住	31-3	土師器	甕	Ｓ字甕(台部)	－	底径 9.7	[7.2]	ナデ、ヘラケズリ	ハケメ、ナデ	ナデ、指頭痕	橙(5YR6/8)	密	白・黒色粒子、赤色粒子大、雲母	良	－			外面摩耗している
２号住	31-4	土師器	壺		(19.0)	－	[23.3]	ナデ、ハケメ	ナデ		にぶい黄橙(10YR6/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母、小礫	良	30/－			
２号住	31-5	土師器	壺	有段口縁壺	－	－	[4.6]	ナデ	ナデ		明黄褐(10YR7/6)	密	白・黒・赤色粒子、小礫	良	－			
２号住	31-6	土師器	壺	小形壺	(6.6)	－	[4.6]	ナデ	ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・赤色粒子、雲母	良	60/40			
２号住	31-7	土師器	甕	Ｓ字甕	(16.0)	－	[3.8]	ナデ	ナデ、ハケメ		明褐(7.5YR5/6)	やや粗	白・黒・赤色粒子、雲母	良	－			
２号住	31-8	土師器	器台		－	底径 (11.0)	[3.1]	ナデ	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/8)	密	白・赤・黒色粒子、雲母、小礫	良	－			
３号住	31-9	土師器	壺	長頸壺	(8.0)	－	[7.4]	ハケメ、ヘラケズリ	ナデ		明赤褐(2.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母、小礫	良	－			赤彩
３号住	31-10	土師器	甕	Ｓ字甕	(15.0)	－	[4.4]	ナデ	ナデ、ハケメ		明赤褐(5YR5/8)	密	白・黒色粒子、赤色粒子大、雲母	良	－			
３号住	31-11	土師器	甕	Ｓ字甕	(15.0)	－	[2.0]	ナデ	ナデ		明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母、小礫	良	－			
４号住	31-12	弥生	甕		18.3	底径 6.0	18.3	ナデ	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、赤色粒子大、雲母、小礫	良	90/90			内外面少々剥離している　焼きむらあり
５号住	32-1	土師器	壺	小形壺	(12.0)	－	[9.4]	ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ		明赤褐(5YR5/6)	密	白・赤・黒色粒子	良	70/40			
５号住	32-2	土師器	壺		(18.2)	－	[3.3]	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙(10YR7/4)～明黄褐(10YR7/6)	やや密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	15/－			磨耗
５号住	32-3	土師器	壺		(15.0)	－	[4.7]	ナデ	ナデ、折り返し口縁		にぶい黄橙(10YR6/3)～にぶい黄橙(10YR5/3)	密	赤色粒子多、白・黒色粒子、雲母	良	20/－			
５号住	32-4	土師器	甕		16.3	－	[16.8]	ナデ			内-にぶい黄橙(10YR6/4) 外-にぶい橙(5YR6/3)	やや粗	白・黒色粒子、１～３㎜の礫	良	80/60			口唇部刺突文　外面摩滅
５号住	32-5	土師器	壺		(14.4)	－	[3.3]	ハケメ	ナデ、ハケメ		明褐(7.5YR5/6)～黒褐(7.5YR3/2)	密	白色粒子多、黒色粒子、雲母	良	15/－			
５号住	32-6	土師器	甕	Ｓ字甕	(12.0)	－	[2.7]	ナデ	ナデ、ハケメ		褐(7.5YR4/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	－			
５号住	32-7	土師器	甕	Ｓ字甕	(12.0)	－	[1.8]	ナデ	ナデ		内-橙(7.5YR7/6) 外-明黄褐(10YR7/6)	密	白・赤色粒子多	良	10/－			内・外面摩滅
５号住	32-8	土師器	甕	台付甕	－	7.2	[14.1]	ナデ	ハケ後ミガキ、ナデ		明黄褐(10YR7/6)～黄橙(10YR7/8)	密	白・赤・黒色粒子	良	70/20			一部黒変　内・外面とも摩滅
５号住	32-9	土師器	甕		－	－	[11.3]	指ナデ、ハケメ	はっきりしない		内-橙(5YR6/6) 外-明赤褐(5YR5/6)	やや密	白色粒子多、赤・黒色粒子、１～３㎜位の礫	良	40/－			
５号住	32-10	土師器	甕	台付甕	－	－	[3.0]	ナデ、指頭圧痕	ハケメ		橙(5YR6/8)	やや密	白色粒子多、赤・黒色粒子、雲母	良	60/－			
５号住	32-11	土師器	器台		－	－	[3.9]	ナデ	ケズリ、ミガキ		橙(7.5YR6/6)	密	白色粒子多、赤・黒色粒子	良	60/－			
６号住	32-12	土師器	壺	有段口縁壺	(14.0)	－	[3.1]	ナデ	ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、赤色粒子大、雲母、小礫多	良	－			
６号住	32-13	土師器	壺		－	底径 6.6	[3.7]	ナデ	ハケメ後ヘラナデ	ナデ	内-黒褐(10YR3/1) 外-橙(7.5YR6/8)	密	白・黒・赤色粒子、小礫多	良	－			内面と底部が黒色　外面のハケメがかなり摩耗している
６号住	32-14	土師器	壺		－	底径 (5.0)	[2.3]	ハケメ	ナデ	ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、雲母	良	－			内外面かなり摩耗している　赤彩
７号住	32-15	土師器	壺	有段口縁壺	－	－	[5.1]	ナデ	ナデ		内-橙(5YR6/8) 外-橙(7.5YR6/6)	密	白・黒色粒子、赤色粒子大、小礫多	良	－			
６号土坑	32-16	陶器	壺	茶壺	－	－	[24.6]				にぶい黄(2.5Y6/3)	密	白・黒・赤色粒子	良	10/－	美濃	大窯期	祖母懐茶壺
７号土坑	33-1	縄文	深鉢		－	－	[3.1]	ナデ			褐(10YR4/4)	密	白・黒色粒子、雲母、小礫	良	－			ハの字状文　沈線文
14号土坑	33-2	土師器	壺	有段口縁壺	(15.0)	－	[5.1]	ナデ	ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・赤・黒色粒子、礫、小礫多	良	－			
14号土坑	33-3	土師器	甕		－	－	[2.8]	ナデ	ナデ		橙(7.5YR6/6)	密	白・黒・赤色粒子、雲母	良	－			
14号土坑	33-4	土師器	壺		－	底径 8.0	[2.1]	ナデ	ナデ、ヘラナデ		にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・黒・赤色粒子、雲母、小礫多	良	－			
19号土坑	33-5	縄文	深鉢		－	－	－	ナデ			にぶい黄褐(10YR5/4)	密	白・赤・黒色粒子	良	－			貼付文　列点文
遺構外　120-204	33-6	縄文	深鉢		－	－	[6.3]	ナデ	ナデ		明黄褐(10YR6/6)	密	白・赤・黒色粒子、雲母、小礫多	良	－			縄文
遺構外　129-203	33-7	縄文	深鉢		－	－	[4.7]	ナデ			明褐(7.5YR5/6)	密	白・黒色粒子、赤色粒子大、雲母	良	－			沈線文　列点文
遺構外　122-204 120-203	33-8	土師器	高坏		－	底径 2.6	[1.9]	ナデ	ナデ	ナデ	明褐(7.5YR5/6)	密	白・赤・黒色粒子、小礫	良	－			
遺構外　107-206	33-9	陶器	碗	丸碗	－	高台径 (5.2)	[2.5]				にぶい黄橙(10YR6/4) 釉-黒褐(10YR3/1)	密	白・黒色粒子	良	25/－	美濃	大窯１かⅡ期	鉄釉　トチン

第４表　出土遺物観察表(土製品)

1．法量(　　)は復元実測値、[　　]は現存値である。
2．残存率は、図示されたうちのもの／個体全体のうちのものを示す。また、これらの数値は目測によるものである。

遺構名	図版番号	種　別	法　量（cm・g）		整形技法			色　調	胎　土	残存率	備　考
			口(径)・底・高／長・幅・厚	重　量	内　面	外　面	底　部				
５号住	33-10	紡錘車	4.7・4.8・1.3	30.5		ナデ、ヘラケズリ		にぶい黄橙(10YR7/4)	白色粒子多、赤・黒色粒子	完形	摩滅顕著

第５表　出土遺物観察表(金属製品)

法量(　　)は復元実測値、[　　]は現存値である。

遺構名	図版番号	種別	法量			重量（g）	備考
			長さ・径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
８号土坑	33-11	古銭	径2.5			2.0	寛永通寶

第６表　出土遺物観察表(石器)

法量(　　)は復元実測値、[　　]は現存値である。

出土遺構	図版番号	種別	材質	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
５号住居	33-12	石鏃	黒曜石	18.0	15.7	3.2	0.5	
遺構外	33-13	石鏃	黒曜石	20.0	17.6	3.2	0.9	
２号住居	33-14	打製石斧	砂岩	79.8	50.7	15.0	55.0	
２号住居	33-15	砥石	細粒砂岩	[7.4]	2.4	1.4	[32.9]	

第4章　まとめ

本調査区は、市教育委員会調査区東側に隣接する地区で、中世の建物群に関連する施設の発見も期待された。

市教育委員会調査区とB区を挟んだA区の発掘調査は、B区に先立って行われ、残存状況は良好ではなかったが、中世に比定される掘立柱建物が2棟発見された。

しかし、B区では、一部において中世の造成面が確認されたものの、平坦に整地されたものではなく、地山の斜面傾斜に沿ったものであった。

本調査区で中世の遺構として断定できるものに、A区1号溝の延長である7号溝、6号土坑がある。

7号溝はA区1号溝と同じあり方をしており、溝底にピット状の掘り込みが確認された。7号溝（A区1号溝）上には、A区2号竪穴状遺構が構築されている。遺構内からは、古瀬戸の四耳壺、祖母懐の茶壺、白磁皿、北宋銭などが出土している。四耳壺は古瀬戸後期4期に比定されるものである。白磁皿は端反皿で15世紀後半代のものである。いずれも威信財の可能性があり、直ちに遺構の構築年代を示すものではないと考えた方がよいが、少なくとも16世紀代に比定できる遺構であると考えられる。この竪穴状遺構の覆土中には29号土坑が掘り込んでいる。土坑内からは、白磁の端反皿が2点出土している。15世紀後半のものと16世紀前半のものがみられ、古手のものは2号竪穴状遺構出土のものと類似した形態を示している。これらの遺物は、一般的集落遺跡から出土するものではないことから、建物群と何らかのかかわりをもつ遺構であると考えることもできるかもしれない。

この二つの遺構の下には1号溝が掘削されている。1号溝からは遺構の掘削時期を断定するような遺物の出土はみられなかったものの、2号竪穴状遺構は構築にあたって、1号溝上に褐色土を薄く張って貼り床状にしており、2号竪穴状遺構が1号溝より新しいことは明らかである。また、竪穴床面付近より出土した四耳壺は、1号溝のプラン上に多くが分布しているが、プランの外側にも破片が分布しており、竪穴状遺構が新しいとする根拠の補強になる。

2号竪穴状遺構の構築がいつであったのかという問題も残るが、16世紀前半代に比定される端反皿を出土した29号土坑に切られていたことから、16世紀半ば以降であると考えられ、特異な遺物であることを考慮するならば建物群との関連性をうかがわせ、同時期に存在したものと考えたい。1号溝もそれに近い時期の構築であるとすることができる。

D区の16号溝も1号溝の延長線上にあり同じく規模も大きいことから、同一の溝と判断され、発見された長さは165mほどとなることから、これだけの規模の掘削を伴う工事は、屋敷の建設を契機としたものにほかならないと考えられる。

また、屋敷に近い地点で確認された6土坑からは、祖母懐の茶壺の破片がまとまって出土している。市教育委員会調査区の建物群からは、祖母懐の茶壺をはじめとした茶道具が発見されており、6号土坑の茶壺も屋敷で使用されていたものが廃棄されたものであるといえよう。

建物群をもつ屋敷は、おおよそ市教育委員会調査地区の規模をもって収まっているようであるが、周辺には掘立柱建物や竪穴状遺構、溝などがあり、ある程度の広がりをもっていることが明らかとなった。

参考文献

伊藤正彦　1997「坂井南集落―藤井平から七里岩台地へ―」『坂井南遺跡Ⅲ』
閏間俊明　2010「隠岐殿遺跡②」『2009年度下半期　遺跡調査発表会要旨』　山梨県考古学協会
九州近世陶磁学会　2000『九州陶磁の編年』
韮崎市教育委員会ほか　1984『坂井南遺跡』
1985『中田小学校遺跡』
1987『中本田遺跡　堂ノ前遺跡』

1988a『坂井南』
1988b『前田遺跡』
1989『後田遺跡』
1990『北後田遺跡』
1991a『下横屋遺跡』
1991b『北下条遺跡』
1991c『宮ノ前第２遺跡　北堂地遺跡』
1992a『上本田遺跡』
1992b『宮ノ前遺跡』
1993a『宮ノ前第３遺跡』
1993b『山影遺跡』
1994『立石遺跡』
1995a『坂井南（大原）遺跡』
1995b『宮ノ前第４遺跡』
1996a『後田第２遺跡』
1996b『枇杷塚遺跡』
1996c『坂井堂ノ前遺跡』
1997a『後田堂ノ前遺跡』
1997b『坂井南遺跡Ⅲ』
1997c『宮ノ前５遺跡』
1998a『三宮地遺跡』
1998b『能見城跡』
1999a『下木戸第２遺跡』
1999b『上横屋遺跡』
1999c『史跡　新府城』　―環境整備事業にともなう発掘調査報告書Ⅰ―
2001a『下横屋第２遺跡』
2001b『史跡　新府城』　―環境整備事業にともなう発掘調査報告書Ⅱ―
2003a『下横屋遺跡Ⅲ』
2003b『下横屋遺跡Ⅳ』
2004『宿尻第２遺跡』
2005『下横屋遺跡第５地点』
2007『上横屋遺跡第３地点』
2007『坂井南遺跡Ⅳ』
藤澤良祐　2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『㈶瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』　第10輯
宮澤公雄　2010「隠岐殿遺跡①」『2009年度下半期　遺跡調査発表会要旨』　山梨県考古学協会
山梨県　1998『山梨県史』資料編１　原始・古代１　考古（遺跡）
山梨県　1999『山梨県史』資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）
山梨県　2004『山梨県史』資料編７　中世４　考古資料
山梨県教育委員会　1987『金の尾遺跡・無名墳（きつね塚）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告　第25集
山梨県教育委員会　1993『平野遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第78集
山梨県教育委員会　1993『東山北遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第79集
山梨県教育委員会　1993『宿尻遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第81集
横田賢次郎･森田勉　1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について　―形式分類と編年を中心にして―」『研究論集』４　九州歴史資料館

おわりに

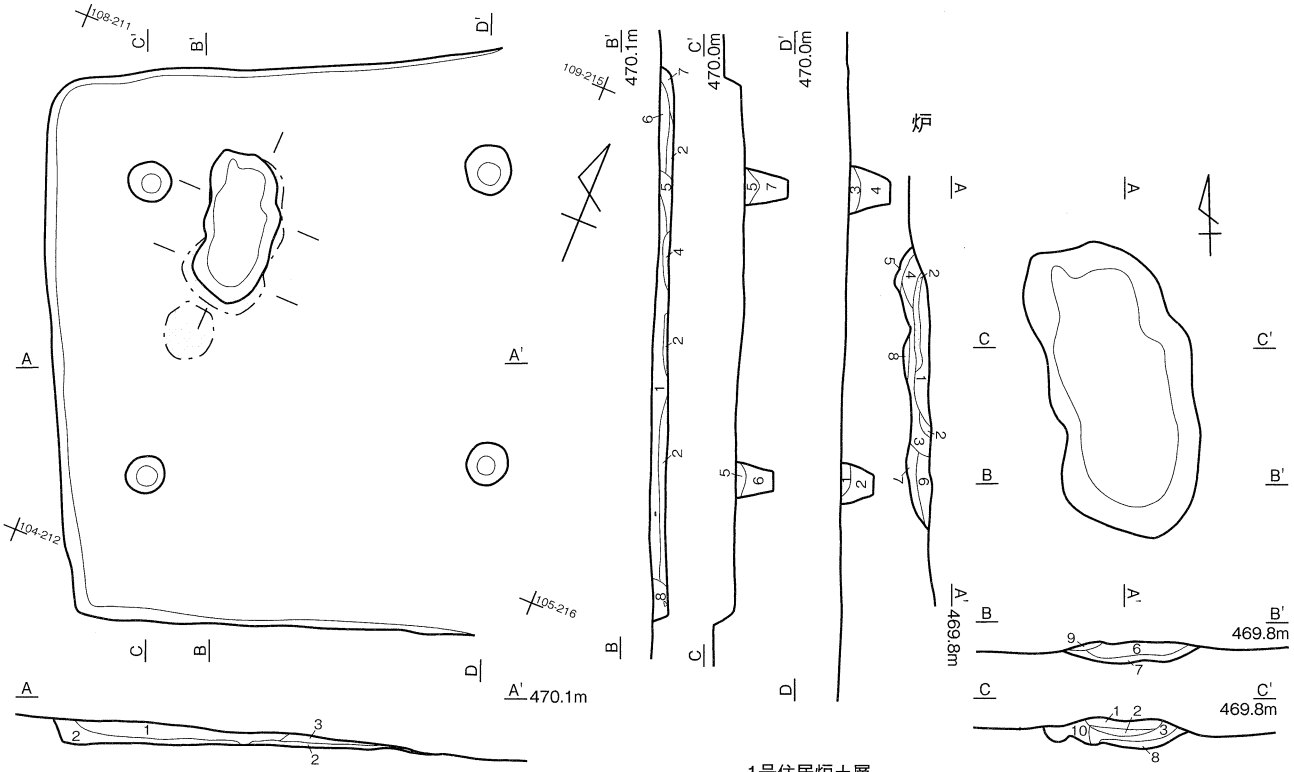
本調査区は、現況の農道の拡幅工事に伴う発掘調査であったために、Ａ・Ｃ・Ｄ区のような雑木の伐採作業から調査を開始するような作業は伴わない調査であった。

しかし、調査区の南側では、現況の農業用道路ということもあり、農作業に支障をきたさないような調査をしなければならなかった。表土掘削後、直ちに調査、測量、埋戻しの現状復元と慌ただしい調査地点もあった。

調査区の北側では、市教育委員会調査区に隣接しており、中世の遺構群が発見されることも期待されたが、建物群に関連するような遺構を発見することができなかった。

Ａ区の伐採作業は、暮も押し迫った2009年12月21日から実施している。本調査区の調査終了まで10ヶ月の長丁場の発掘調査であった。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書刊行に向けた整理作業にあたりご協力いただきました機関・各位、発掘・整理作業に従事していただいた方々に対しお礼申し上げます。



1号住居土層

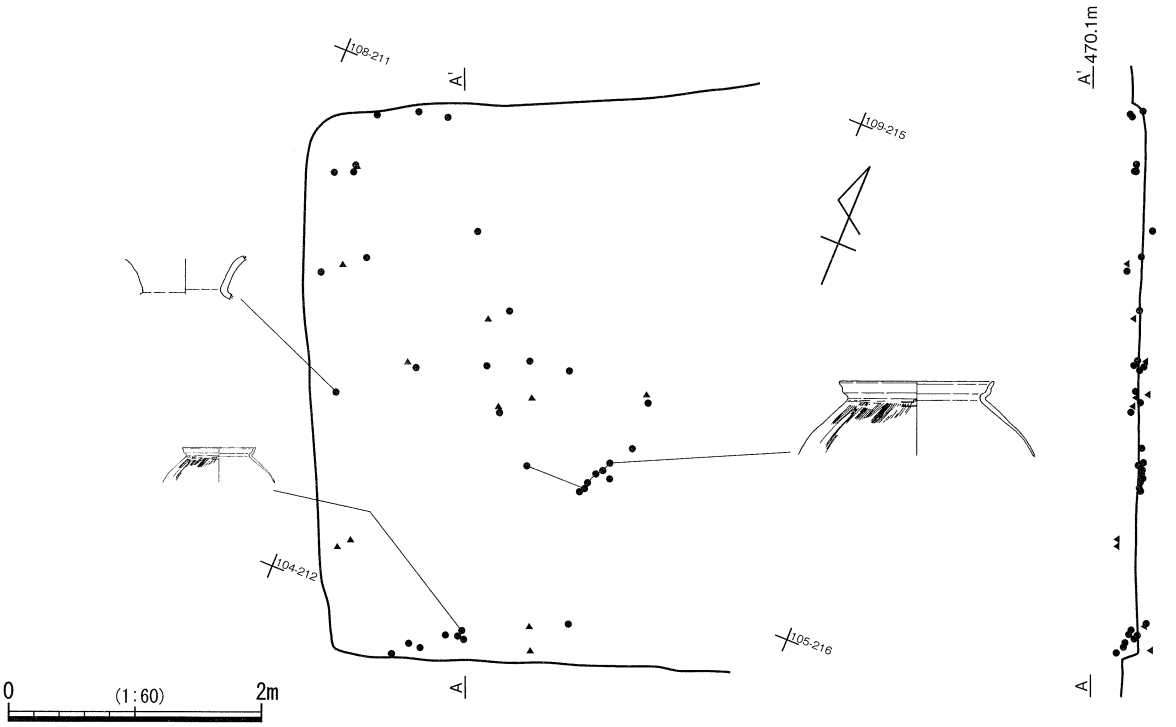
1層　黒褐色土層(10YR3/1)　暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)　黒褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)　暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
4層　黒褐色土層(10YR3/2)　焼土を少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
5層　黒褐色土層(10YR2/3)　焼土をわずか、暗褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。
6層　黒褐色土層(10YR3/2)　炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
7層　暗褐色土層(10YR3/3)　炭化物、黒褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
8層　黒褐色土層(10YR2/2)　暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。

1号住居柱穴土層

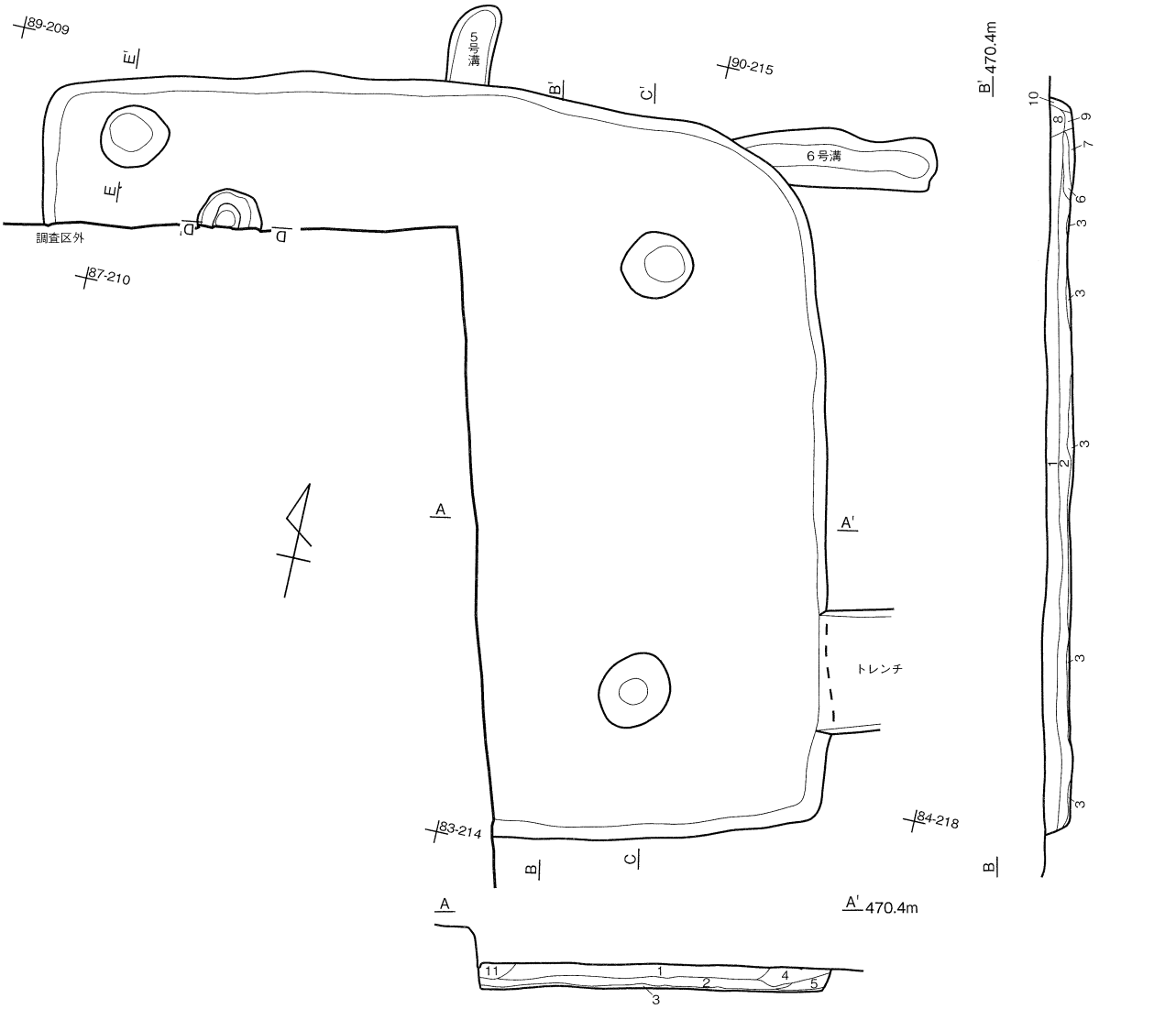
1層　黒褐色土層(10YR2/2)　暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)　黒褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)　暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
4層　暗褐色土層(10YR3/3)　暗褐色ブロック(10YR3/4)を多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。
5層　黒褐色土層(10YR2/3)　粘性に欠けるがしまりはある。
6層　暗褐色土層(10YR3/3)　粘性に欠けるがしまりはある。
7層　暗褐色土層(10YR3/4)　黒褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。

1号住居炉土層

1層　黒褐色土層(10YR2/2)　焼土を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　焼土層
3層　褐色土層(7.5YR4/3)　焼土を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
4層　褐色土層(7.5YR4/4)　焼土を多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。
5層　暗褐色土層(10YR3/4)　粘性に欠けるがしまりはある。
6層　褐色土層(7.5YR4/4)　炭化物をわずか、焼土を多量に含む。
粘性に欠けるがしまりはある。
7層　暗褐色土層(7.5YR3/3)　焼土を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
8層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　焼土を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
9層　黒褐色土層(10YR2/2)　焼土をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
10層　黒褐色土層(10YR3/2)　焼土を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。

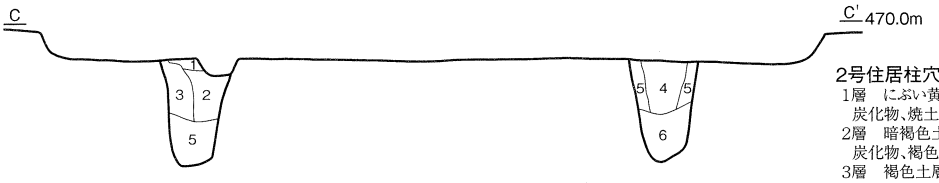


第６図　１号住居



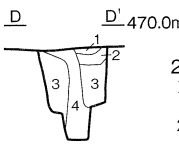
2号住居土層

1層　暗褐色土層(10YR3/3)　褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　黒褐色土層(10YR2/3)　炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
3層　暗褐色土層(10YR3/4)　褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
4層　暗褐色土層(10YR3/3)　黒褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。
5層　暗褐色土層(10YR3/4)　粘性に欠けるがしまりはある。
6層　暗褐色土層(10YR3/3)　褐色粒を多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。
7層　暗褐色土層(10YR3/4)　褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
8層　暗褐色土層(10YR3/3)　褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
9層　暗褐色土層(10YR3/3)　粘性に欠けるがややしまりはある。
10層　褐色土層(10YR4/4)　粘性に欠けるがしまりはある。
11層　黒褐色土層(10YR3/2)　暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。



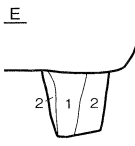
2号住居柱穴土層

1層　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)
炭化物、焼土をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
炭化物、褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにややある。
3層　褐色土層(7.5YR4/4)
粘性ややあり、しまりはある。
4層　暗褐色土層(10YR3/4)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性ややあり、しまりはある。
5層　褐色土層(10YR4/4)
粘性ややあり、しまりはある。
6層　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)
褐色ブロックを少量含む。粘性ややあり、しまりはある。



2号住居ピットD−D'土層

1層　暗褐色土層(10YR3/3)
焼土を多量に含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性、しまりともにある。
3層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
黒褐色ブロックを少量含む。粘性ややあり、しまりはある。
4層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性に欠けるがややしまりはある。

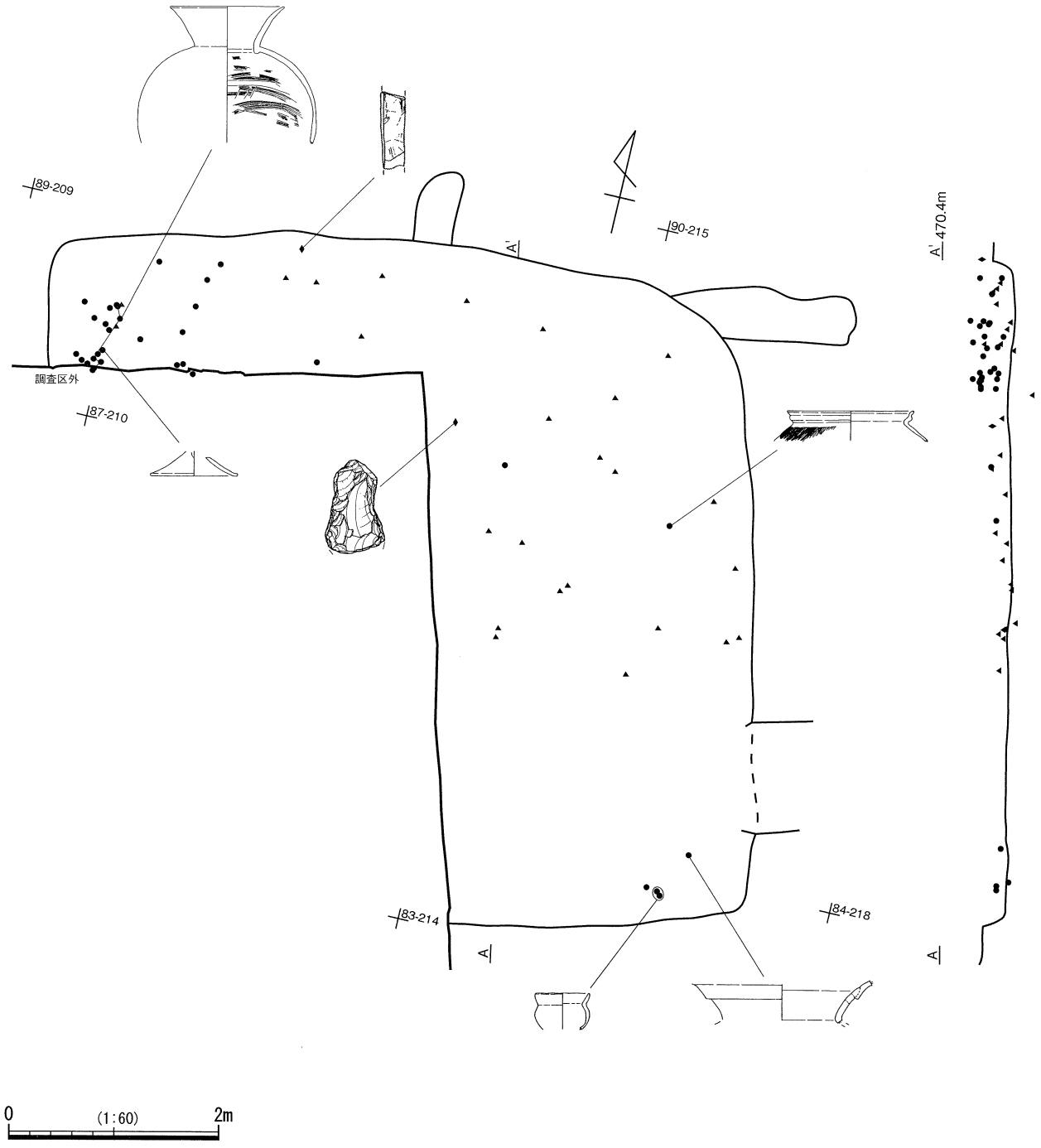


2号住居ピットE−E'土層

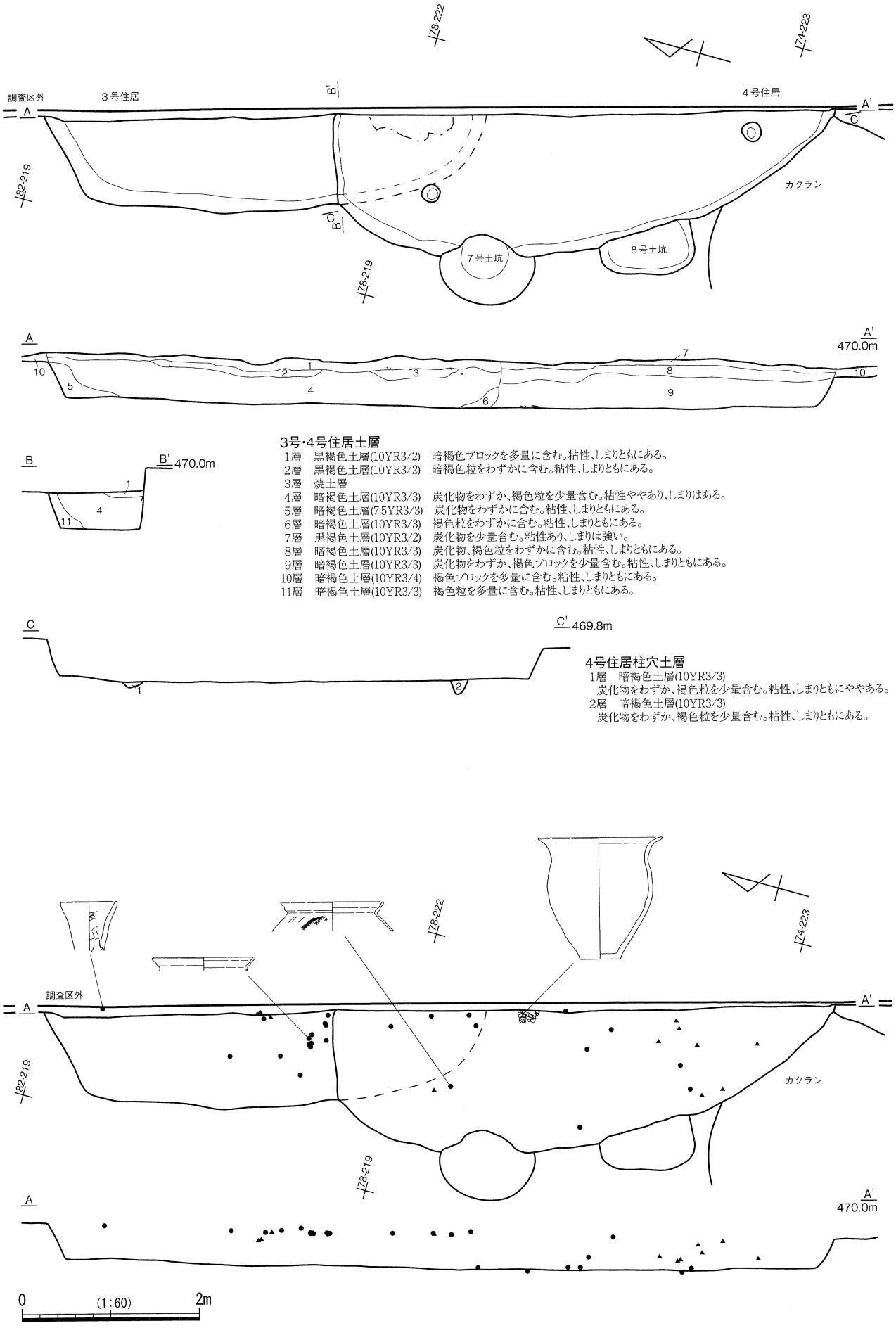
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
炭化物、褐色粒をわずかに含む。粘性ややあり、しまりはある。
2層　褐色土層(7.5YR4/3)
粘性、しまりともにある。

0　(1:60)　2m

第7図　2号住居(1)



第８図　２号住居（２）



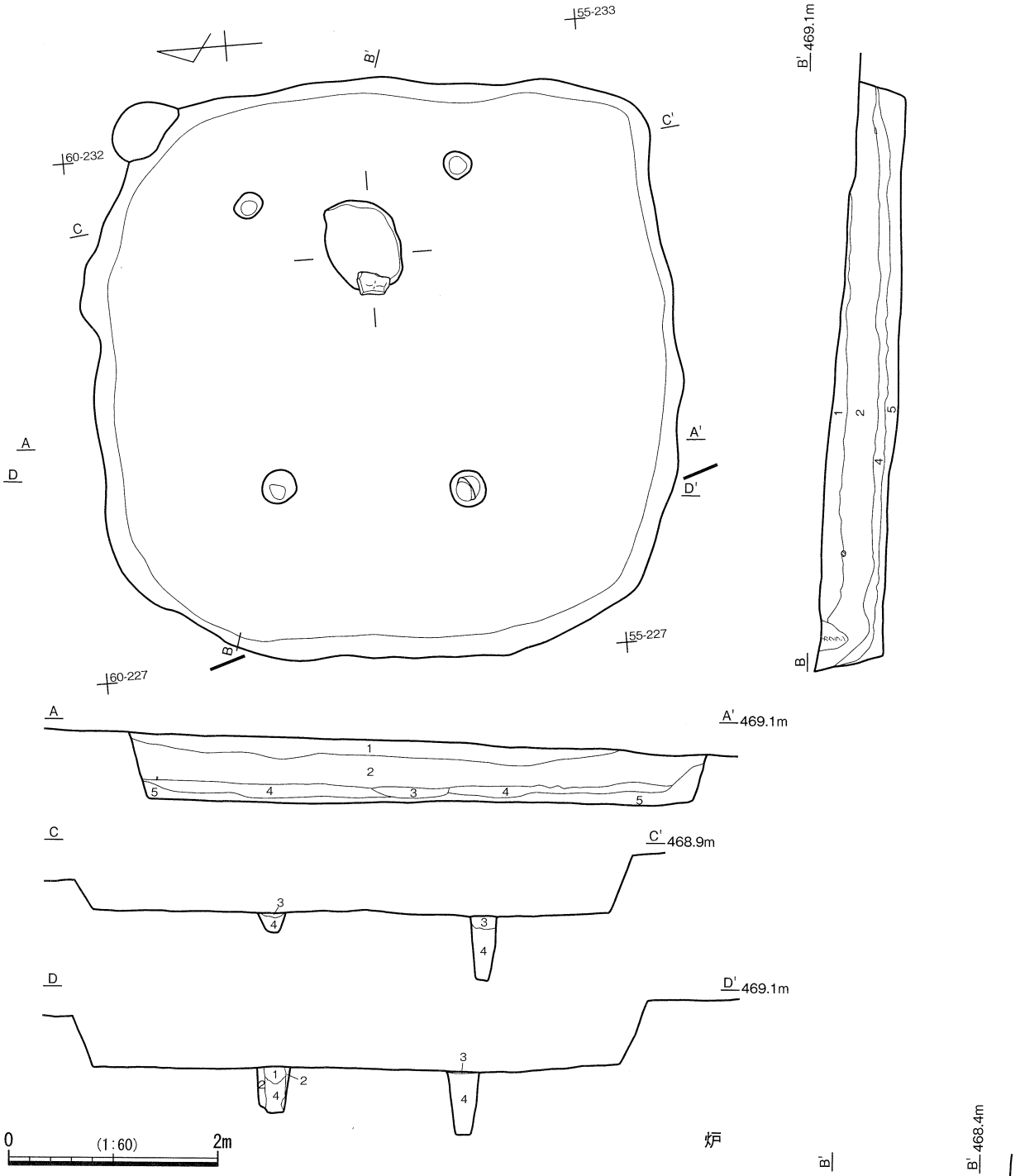
3号・4号住居土層

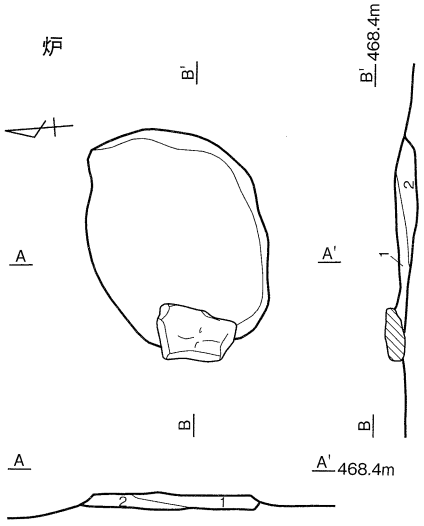
1層	黒褐色土層(10YR3/2)	暗褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともにある。
2層	黒褐色土層(10YR3/2)	暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
3層	焼土層	
4層	暗褐色土層(10YR3/3)	炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性ややあり、しまりはある。
5層	暗褐色土層(7.5YR3/3)	炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
6層	暗褐色土層(10YR3/3)	褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
7層	黒褐色土層(10YR3/2)	炭化物を少量含む。粘性あり、しまりは強い。
8層	暗褐色土層(10YR3/3)	炭化物、褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
9層	暗褐色土層(10YR3/3)	炭化物をわずか、褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともにある。
10層	暗褐色土層(10YR3/4)	褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともにある。
11層	暗褐色土層(10YR3/3)	褐色粒を多量に含む。粘性、しまりともにある。

4号住居柱穴土層

1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにややある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。

第９図　３・４号住居



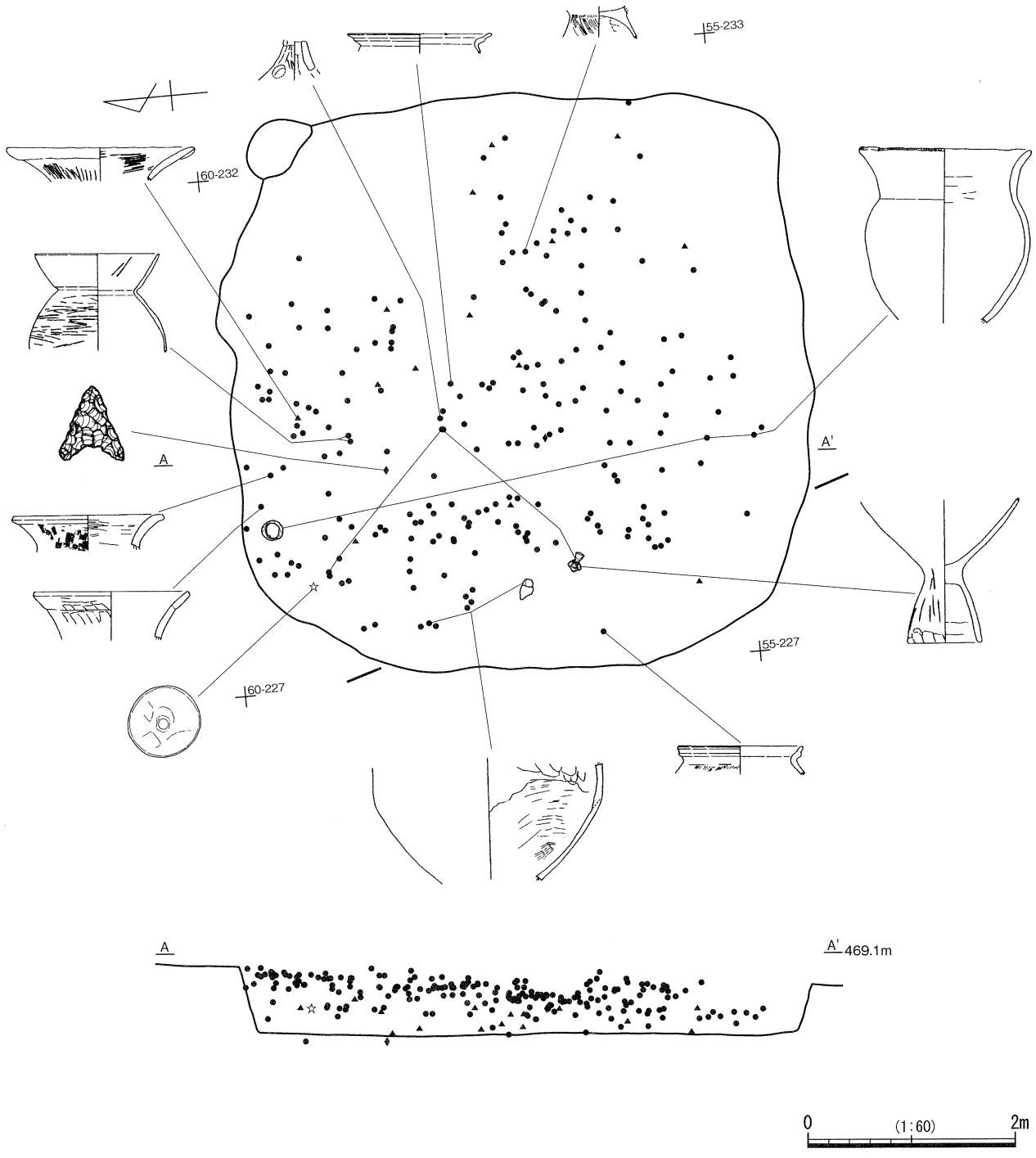


5号住居土層
1層　黒褐色土層(10YR2/2)　炭化物、焼土粒子を多く含む。粘性にやや欠けるがしまりは強い。
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/2)　炭化物を多量、焼土粒子を少量含む。粘性、しまりともに強い。
3層　焼土層
4層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　炭化物、焼土粒子をわずかに含む。粘性、しまりともに強い。
5層　褐色土(7.5YR4/4)　炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともに強い。

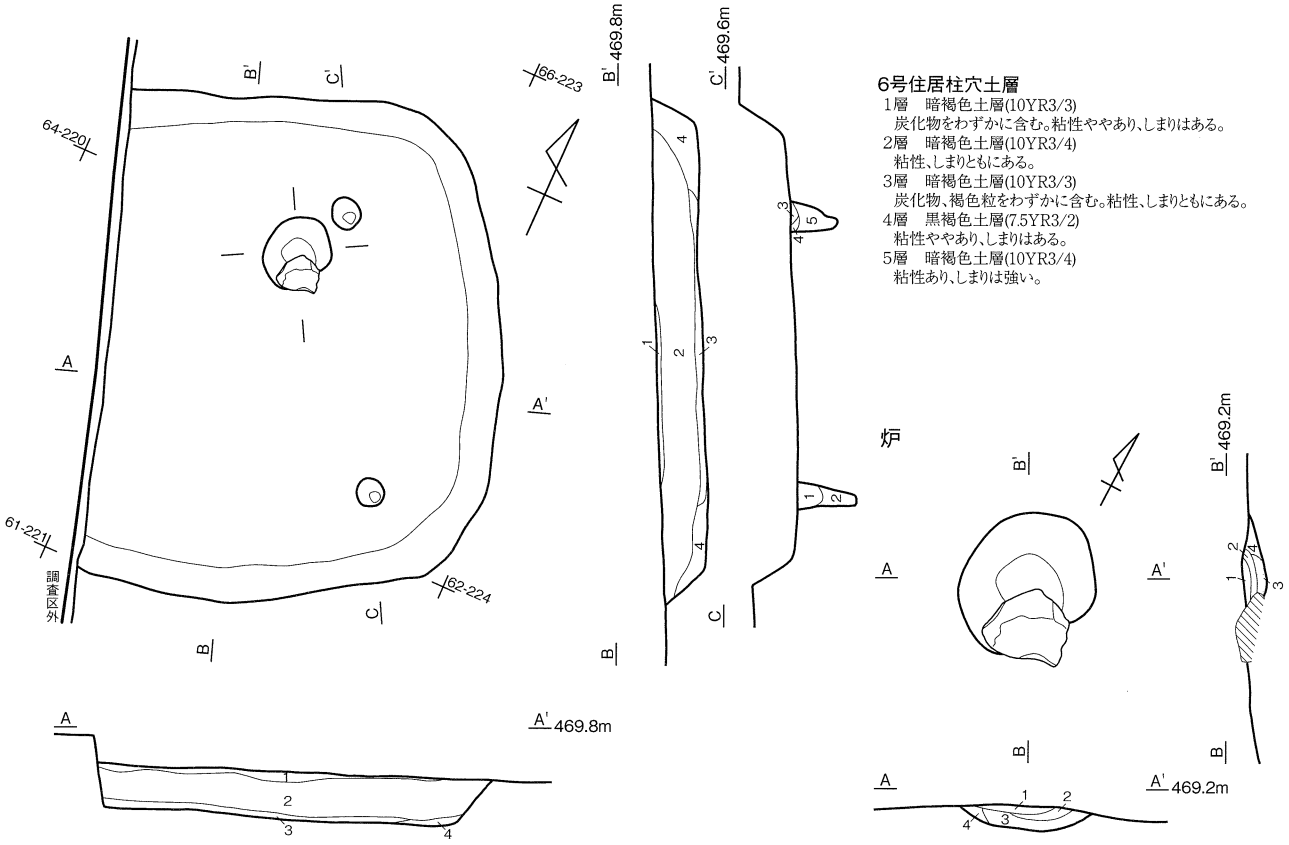
5号住居柱穴土層
1層　暗褐色土層(10YR3/4)　赤褐・白色粒子を多く含む。粘性、しまりともに強い。
2層　褐色土層(10YR4/4)　白色粘土ブロックを多く含む。粘性、しまりともに強い。
3層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　褐色土ブロック、白色粒子を多く含む。粘性、しまりとも強い。
4層　褐色土層(7.5YR4/4)　白色粒子を多く含む。粘性、しまりともに強い。

5号住居炉土層
1層　暗褐色土層(5YR3/6)　炭化物、焼土粒子を多量に含む。粘性にやや欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(7.5YR3/6)　炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともに強い。

第10図　5号住居(1)



第11図　5号住居(2)

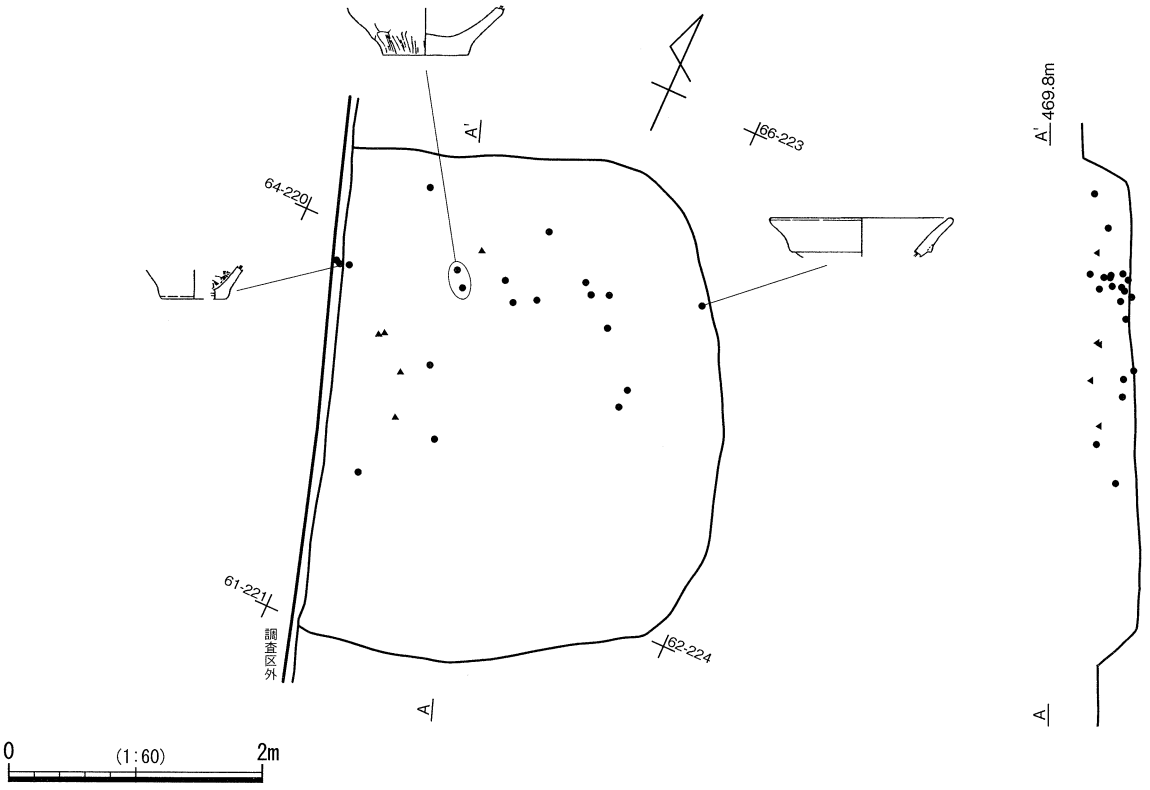


6号住居柱穴土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずかに含む。粘性ややあり、しまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性、しまりともにある。
3層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物、褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
4層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
粘性ややあり、しまりはある。
5層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性あり、しまりは強い。

6号住居土層
1層　黒褐色土層(10YR2/3)　カーボン、焼土粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　カーボン、焼土粒を多く含む。粘性あり、しまりは非常に強い。
3層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)　カーボン、赤褐色粒子をわずかに混入。粘性あり、しまりは非常に強い。
4層　暗褐色土層(7.5YR3/4)　黄褐・白色粒子を多く含む。粘性、しまりともに強い。

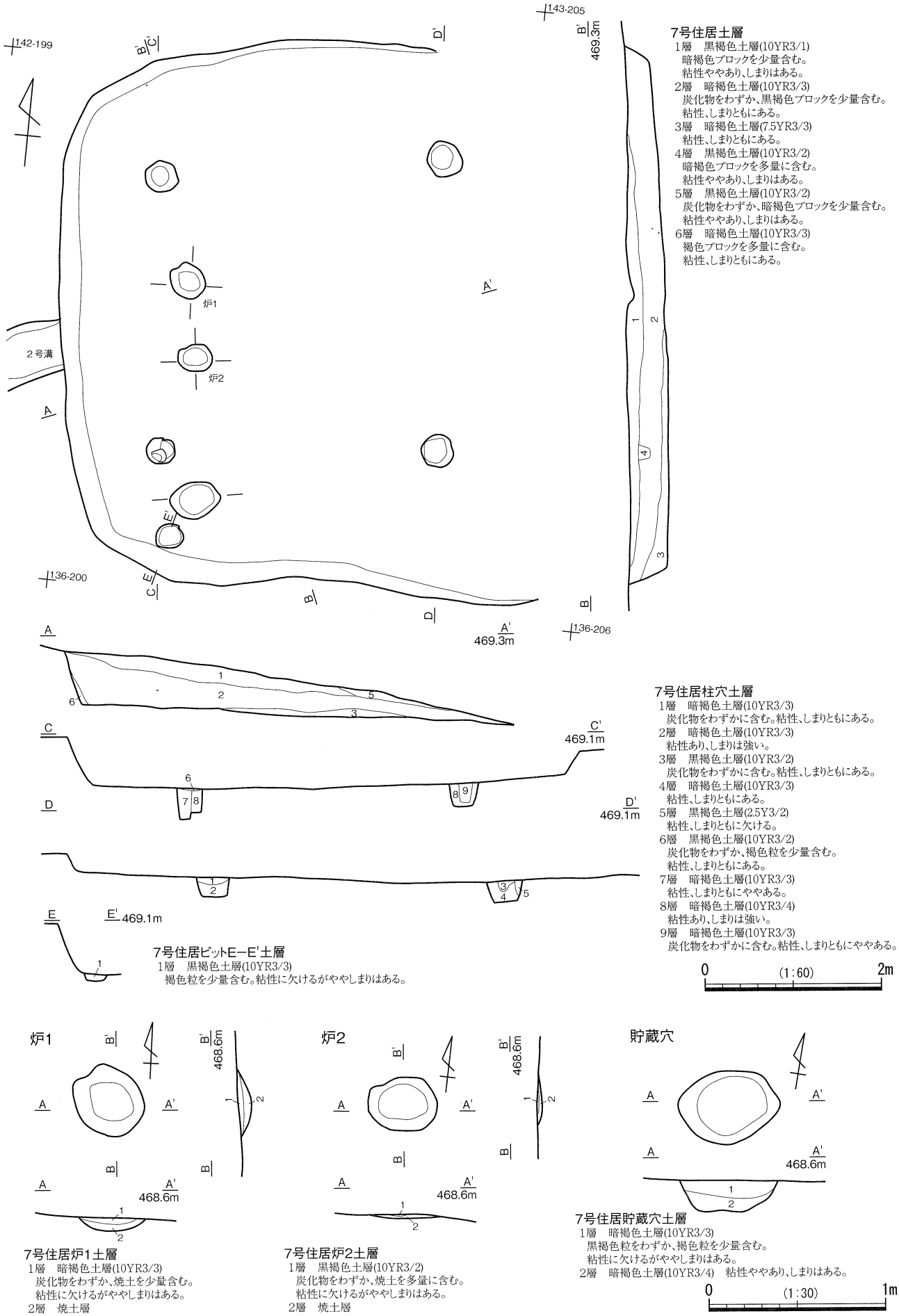
6号住居炉土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物を少量、焼土をわずかに含む。粘性あり、しまりは強い。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
焼土を多量に含む。粘性ややあり、しまりはある。
3層　焼土層
4層　暗褐色土層(10YR3/4)
炭化物を多量、焼土を少量含む。粘性ややあり、しまりはある。

0　(1:30)　1m



0　(1:60)　2m

第12図　6号住居



7号住居土層
1層　黒褐色土層(10YR3/1)
暗褐色ブロックを少量含む。
粘性ややあり、しまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、黒褐色ブロックを少量含む。
粘性、しまりともにある。
3層　暗褐色土層(7.5YR3/3)
粘性、しまりともにある。
4層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックを多量に含む。
粘性ややあり、しまりはある。
5層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずか、暗褐色ブロックを少量含む。
粘性ややあり、しまりはある。
6層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックを多量に含む。
粘性、しまりともにある。

7号住居柱穴土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性あり、しまりは強い。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
4層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性、しまりともにある。
5層　黒褐色土層(2.5Y3/2)
粘性、しまりともに欠ける。
6層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。
粘性、しまりともにある。
7層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性、しまりともにややある。
8層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性あり、しまりは強い。
9層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともにややある。

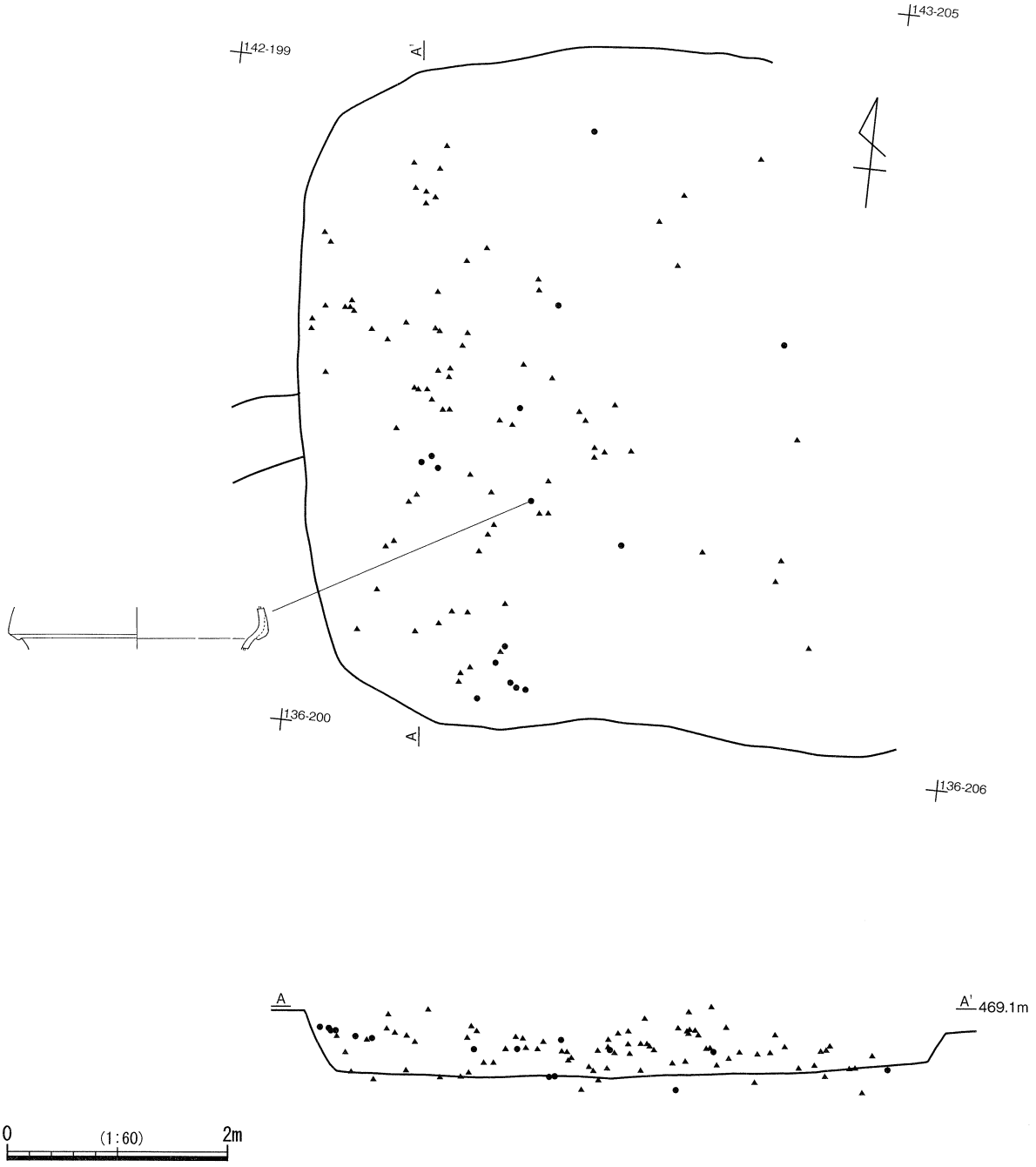
7号住居ピットE－E'土層
1層　黒褐色土層(10YR3/3)
褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。

7号住居炉1土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、焼土を少量含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　焼土層

7号住居炉2土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずか、焼土を多量に含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　焼土層

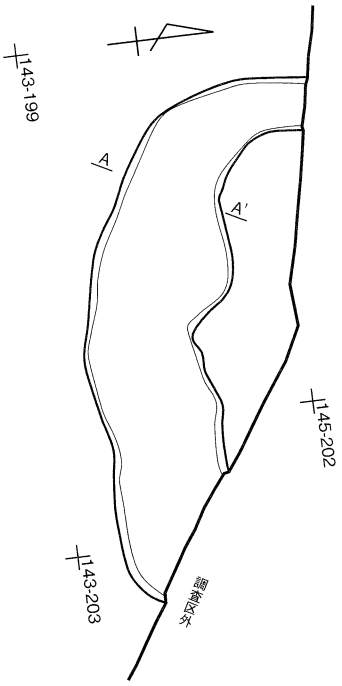
7号住居貯蔵穴土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色粒をわずか、褐色粒を少量含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　粘性ややあり、しまりはある。

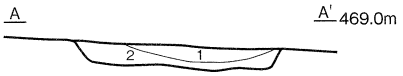
第13図　7号住居（1）



第14図　7号住居（2）

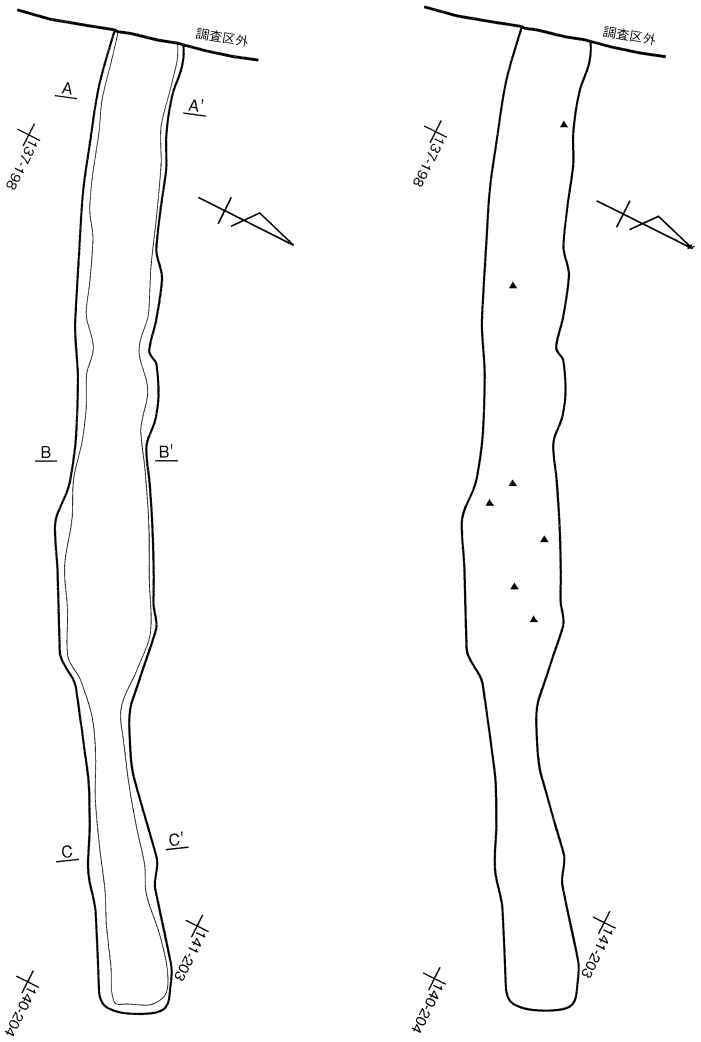
1号溝

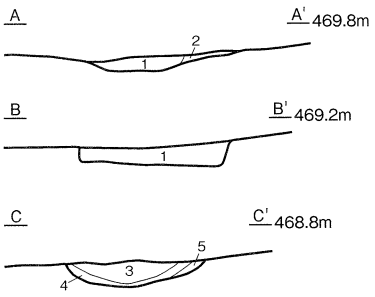




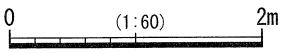
1号溝土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色土層(2.5Y3/3)
粘性に欠けるがややしまりはある。

2号溝

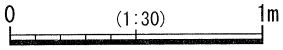




2号溝土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色粒、黒褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
4層　黒褐色土層(10YR3/1)
粘性に欠けるがややしまりはある。
5層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性に欠けるがややしまりはある。



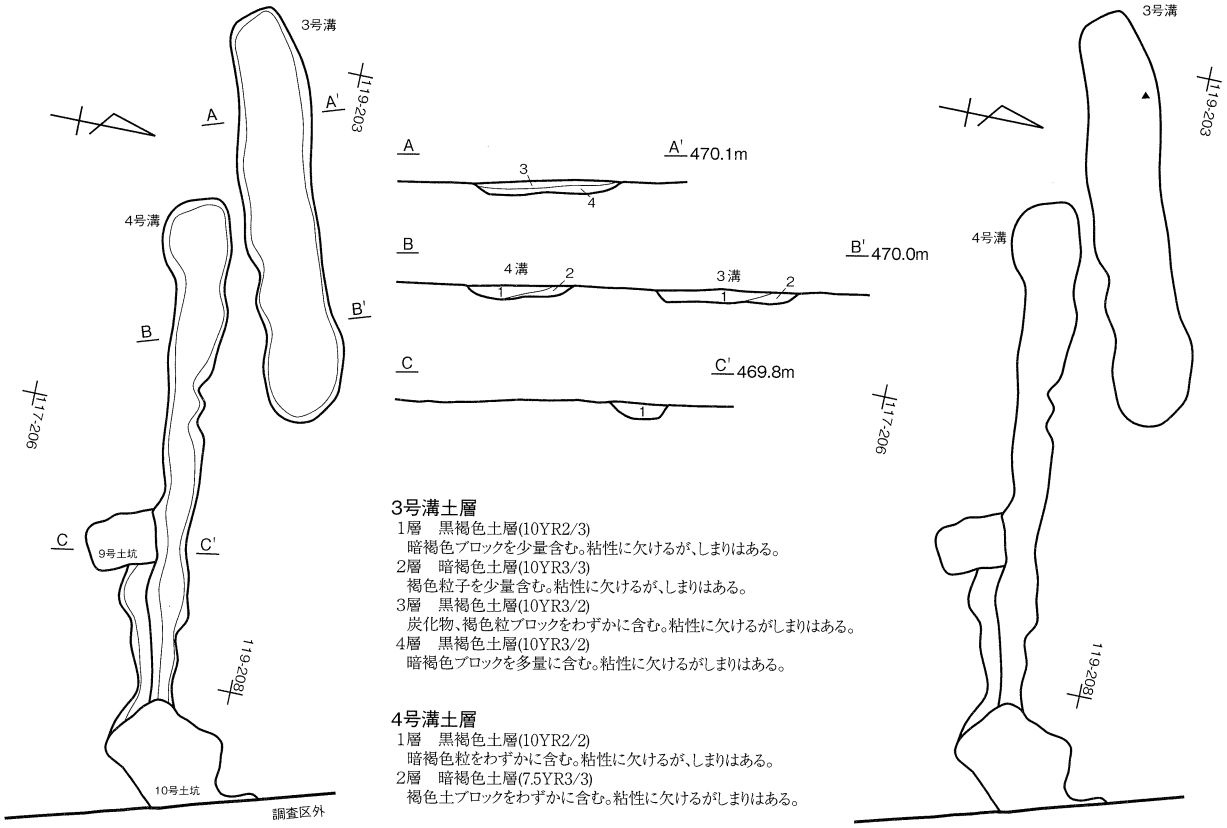
平面図



セクション図

第15図　溝(1)

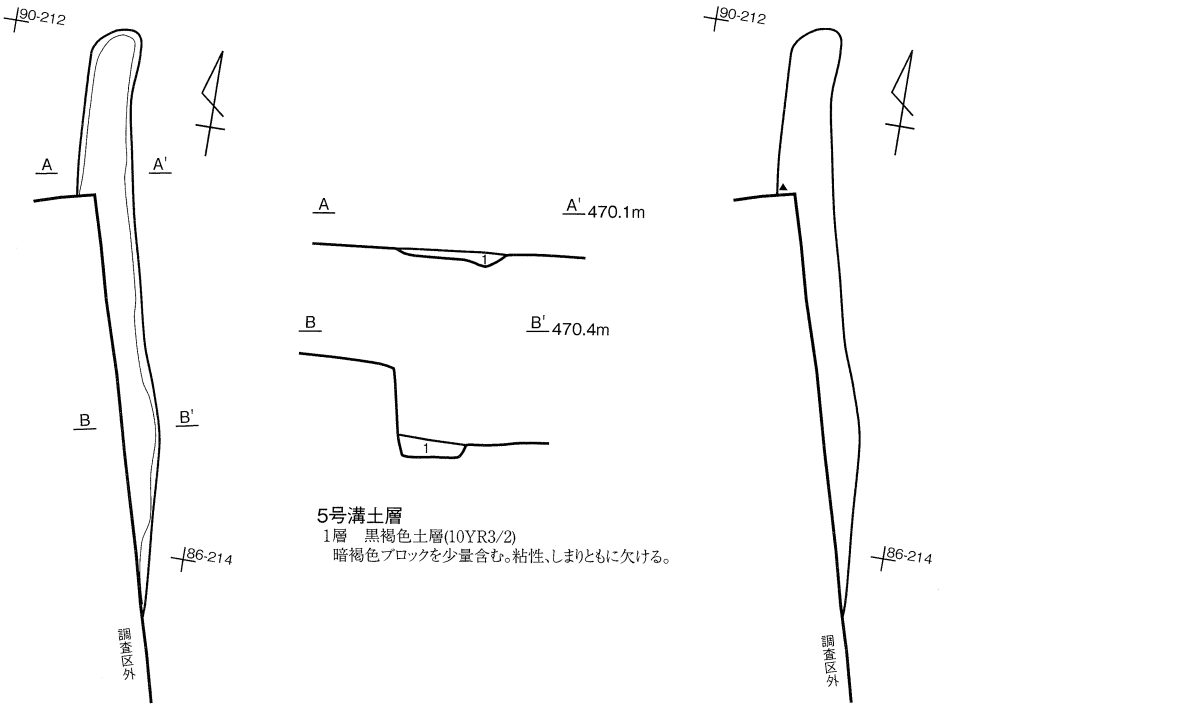
3・4号溝



3号溝土層
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
　暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
　褐色粒子を少量含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)
　炭化物、褐色粒ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
4層　黒褐色土層(10YR3/2)
　暗褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。

4号溝土層
1層　黒褐色土層(10YR2/2)
　暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるが、しまりはある。
2層　暗褐色土層(7.5YR3/3)
　褐色土ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。

5号溝

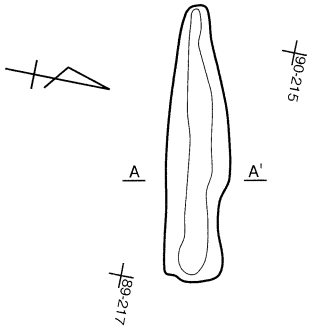


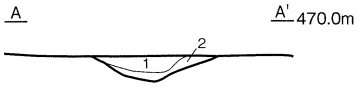
5号溝土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　暗褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。

0　(1:60)　2m
平面図
0　(1:30)　1m
セクション図

第16図　溝（2）

6号溝

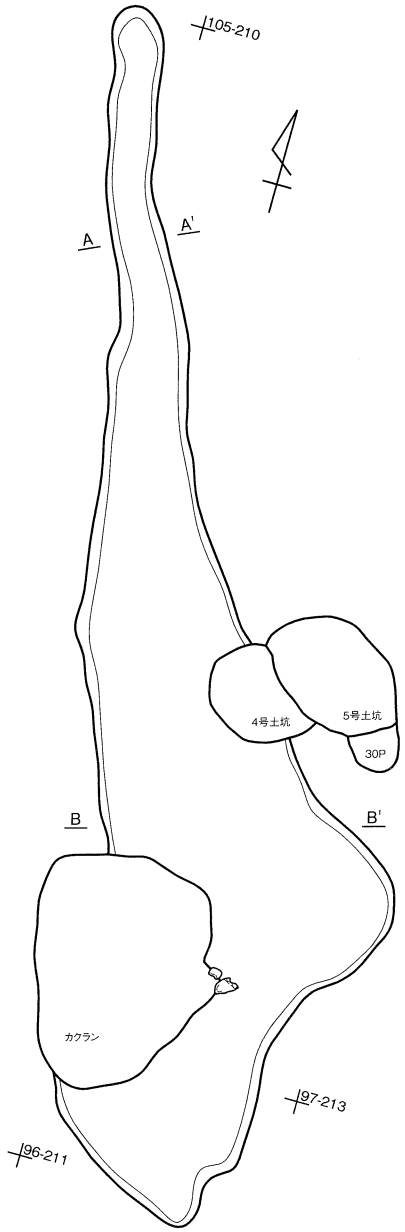


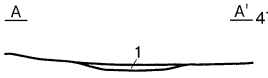


6号溝土層

1層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。

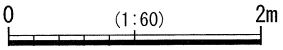
8号溝



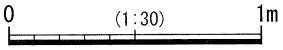


8号溝土層

1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。

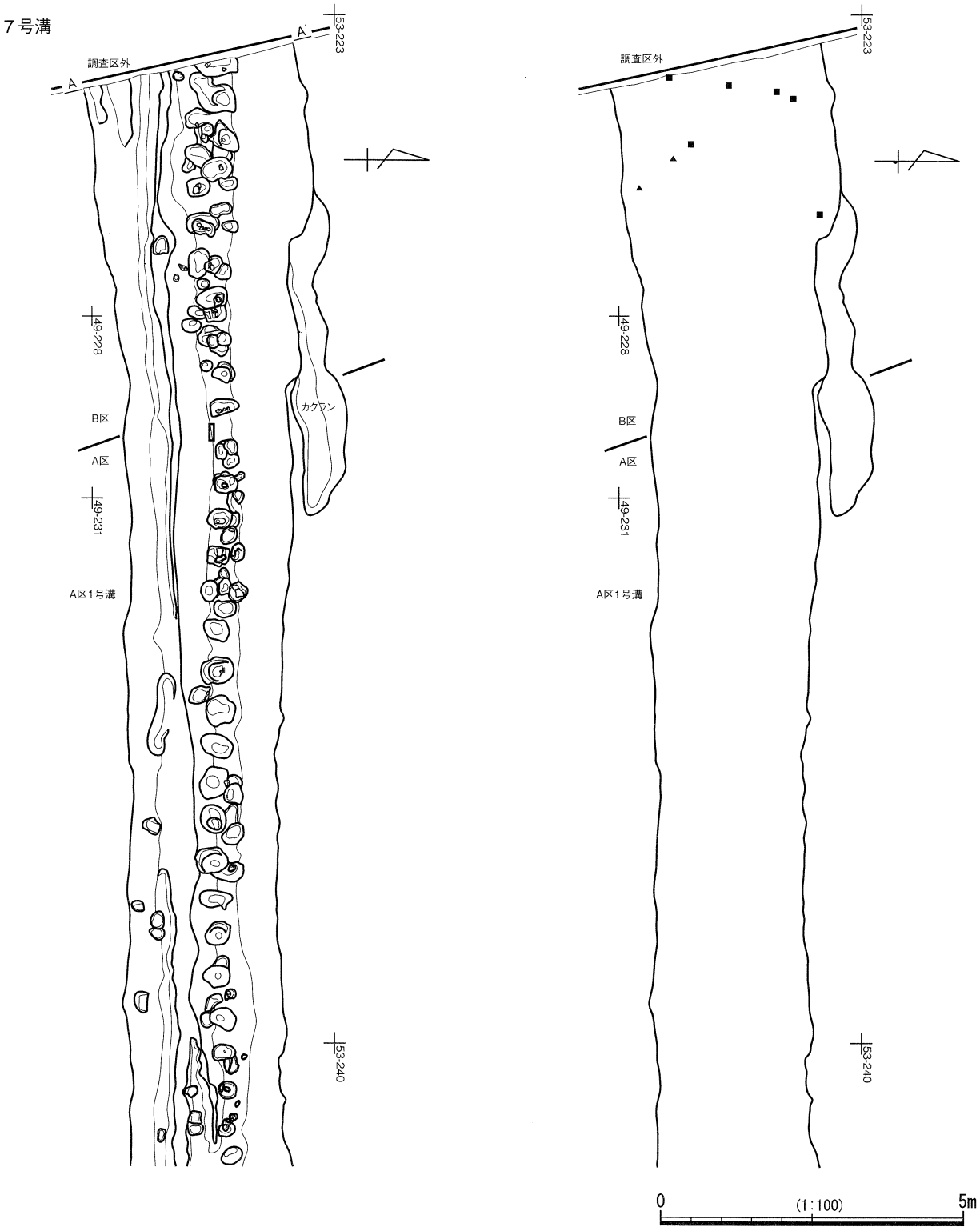


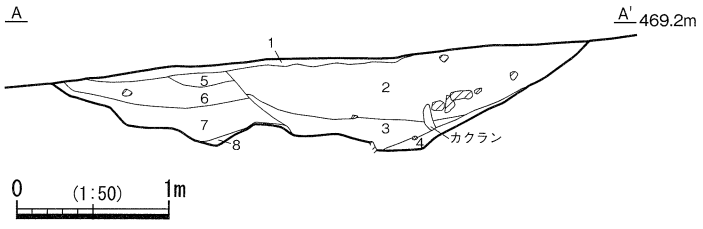
平面図



セクション図

第17図　溝(3)



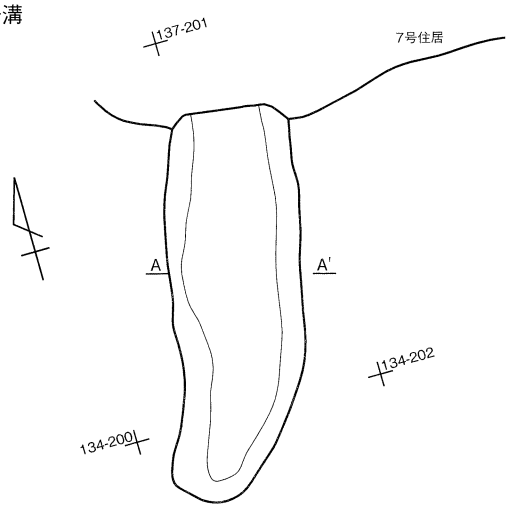


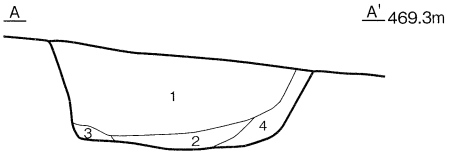
7号溝土層

1層　埋土層
2層　黒褐色土層(10YR3/2)
　炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。
3層　暗褐色土層(10YR3/3)
　炭化物をわずか、褐色粒を多量に含む。粘性、しまりともにある。
4層　暗褐色土層(10YR3/4)
　褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
5層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
　炭化物、暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
6層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
　炭化物、赤褐色粒をわずか、褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。
7層　黒褐色土層(10YR3/2)
　褐色粒を多量に含む。粘性、しまりともにある。
8層　暗褐色土層(10YR3/3)
　褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともにある。

第18図　溝（4）

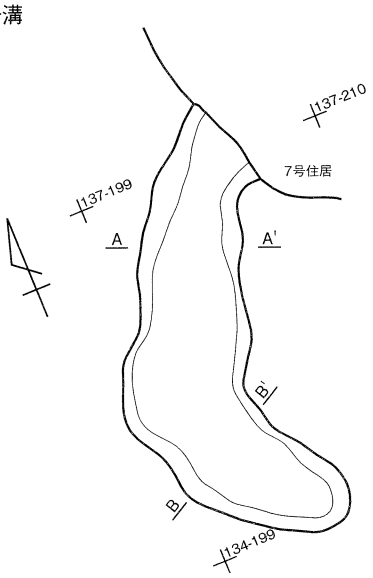
９号溝

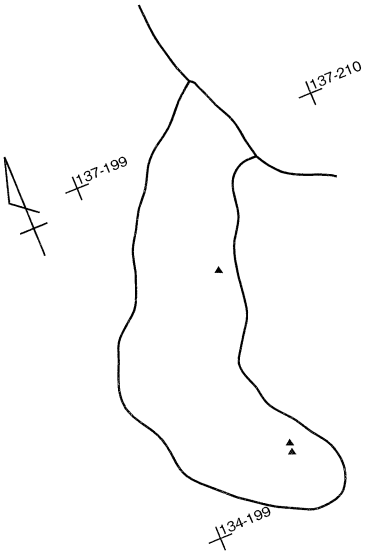


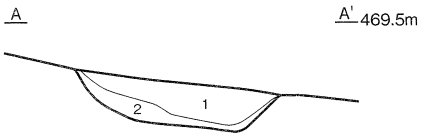


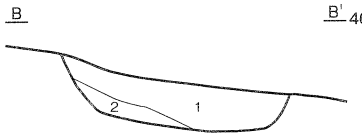
9号溝土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)　褐色粒をわずかに含む。粘性ややあり、しまりはある。
2層　黒褐色土層(10YR2/2)　褐色土ブロックを少量含む。
3層　暗褐色土層(10YR3/3)　褐色粒を少量含む。
4層　暗褐色土層(10YR3/4)　粘性、しまりともにある。

10号溝

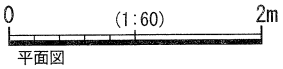




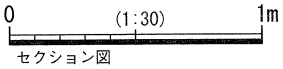




10号溝土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)　黒褐色ブロック、褐色粒をわずかに含む。
粘性ややあり、しまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　粘性、しまりともにある。

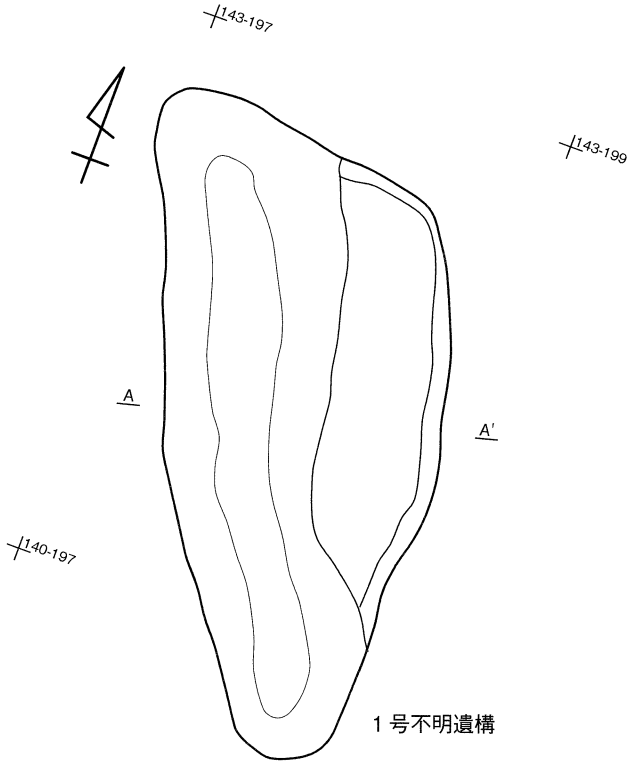


平面図

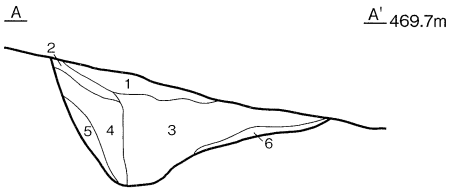


セクション図

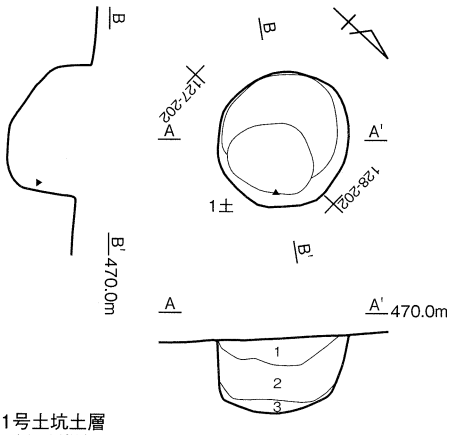
第19図　溝（５）



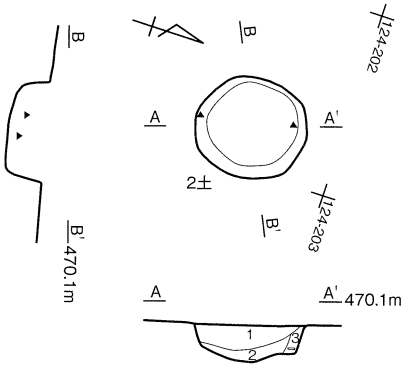
1号不明遺構



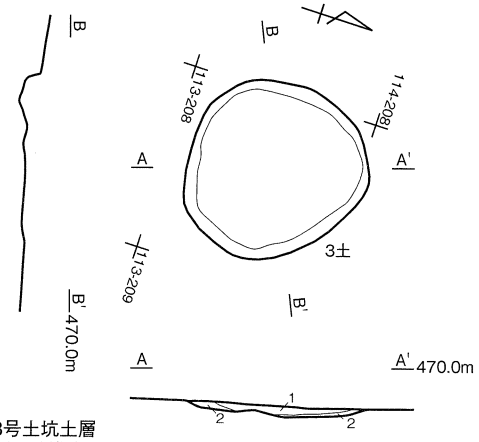
1号　不明遺構土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)　炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
2層　黒褐色土層(10YR3/2)　暗褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともにある。
3層　暗褐色土層(10YR3/3)　炭化物、黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
4層　黒褐色土層(10YR3/2)　炭化物をわずかに含む。粘性あり、しまりは強い。
5層　暗褐色土層(10YR3/3)　粘性あり、しまりは強い。
6層　暗褐色土層(10YR3/3)　褐色粒を少量含む。粘性あり、しまりは強い。



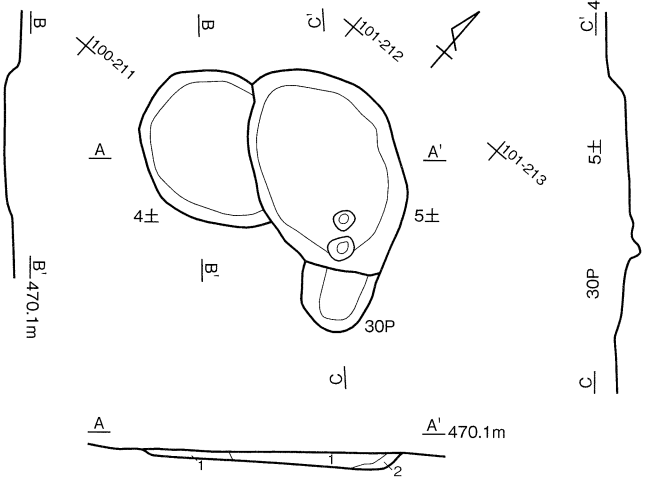
1号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずか、焼土を少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　黒褐色土層(2.5Y3/2)
炭化物をわずか、暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
3層　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色土層(2.5Y3/3)
褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともにややある。



2号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物、焼土をわずか、褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)　粘性に欠けるがややしまりはある。
3層　黒褐色土層(10YR2/3)　粘性に欠けるがややしまりはある。



3号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　黒褐色土層(2.5Y3/1)
暗褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがややしまりはある。

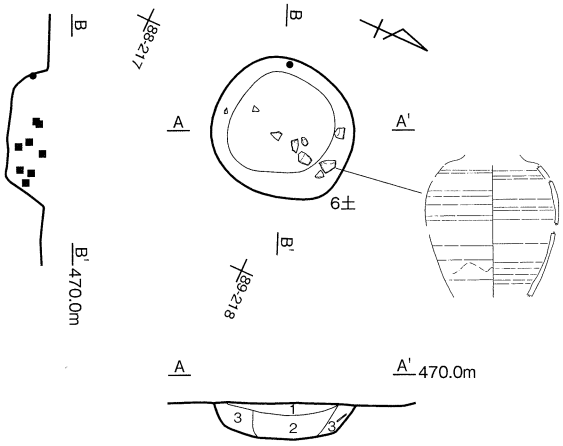


4号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物、焼土をわずか、褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。

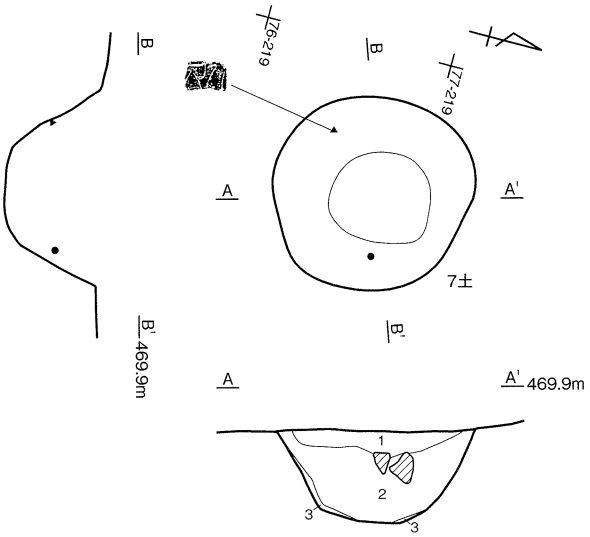
5号土坑土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性に欠けるがしまりはある。

0　(1:40)　1m

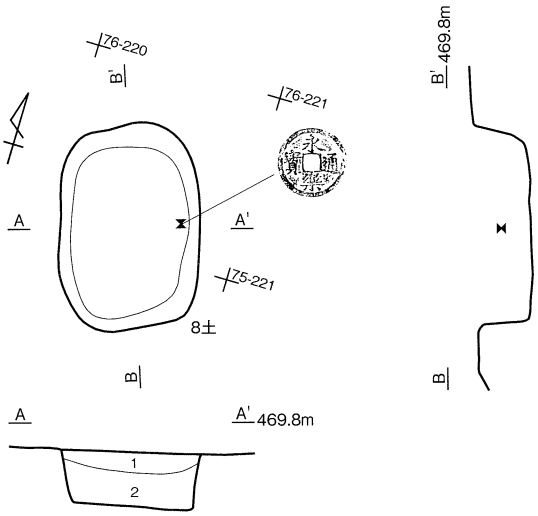
第20図　性格不明遺構・土坑・ピット(1)



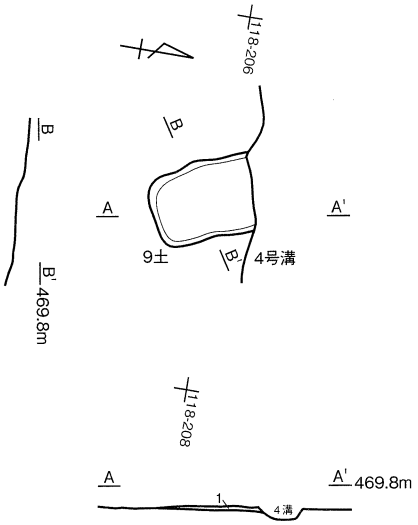
6号土坑土層
1層　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色土層(2.5Y3/3)
褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色粒を少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
3層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともに欠ける。



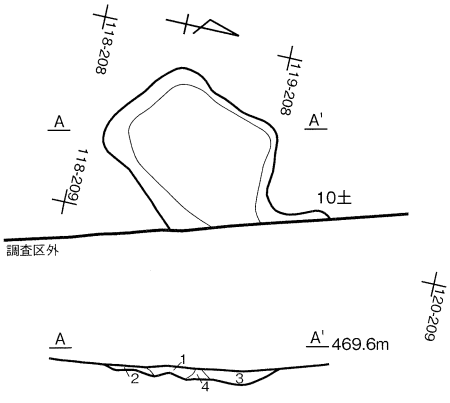
7号土坑土層
1層　黒褐色土層(2.5Y3/2)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　黒褐色土層(10YR3/2)
褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
3層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性に欠けるがしまりはある。



8号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR2/2)
炭化物をわずか、暗褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。



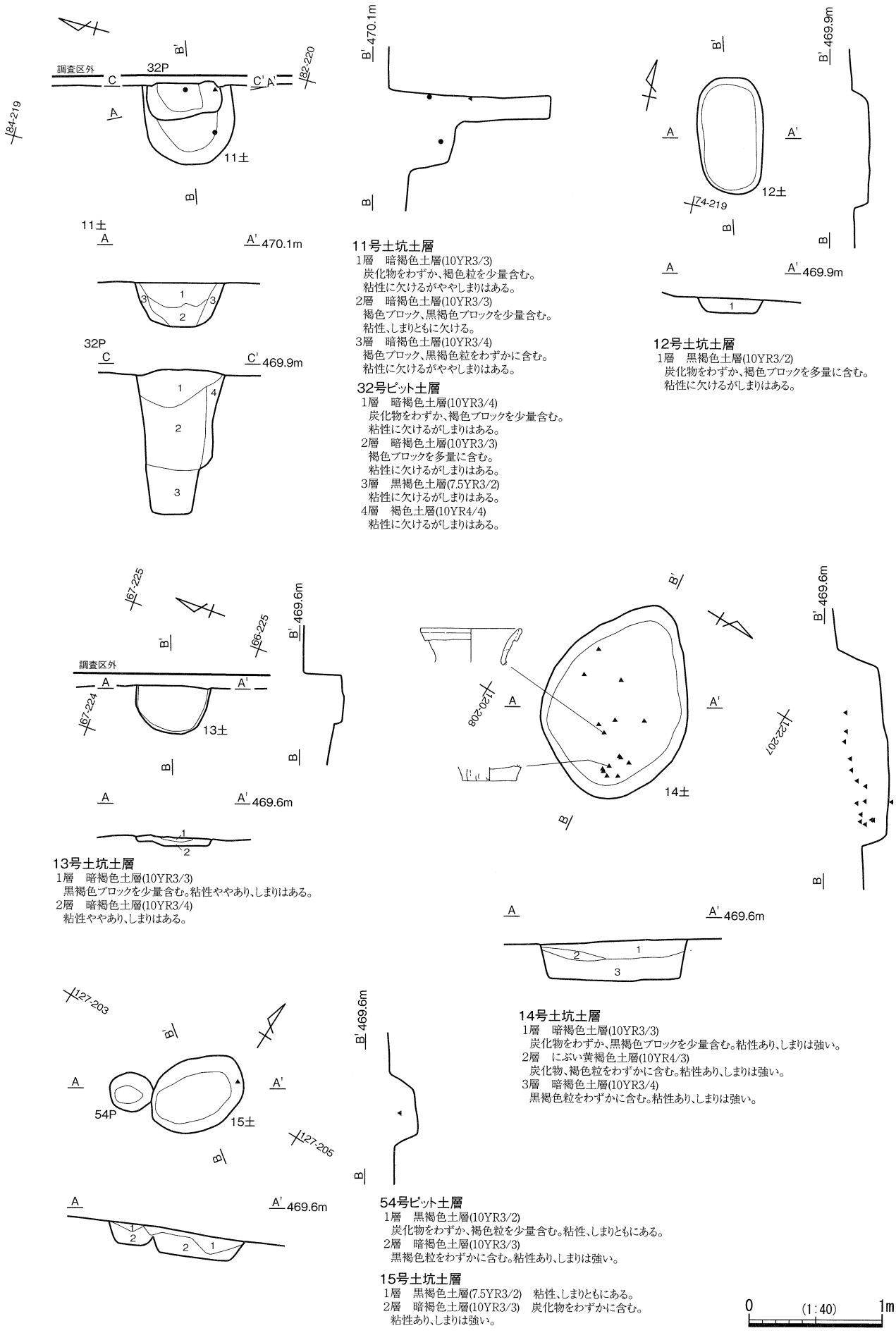
9号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。



10号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　黒褐色土層(2.5Y3/1)
粘性に欠けるがしまりはある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)
褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
4層　黒褐色土層(10YR3/1)
褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。

0　(1:40)　1m

第21図　土坑・ピット(2)



11号土坑土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロック、黒褐色ブロックを少量含む。
粘性、しまりともに欠ける。
3層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色ブロック、黒褐色粒をわずかに含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。

32号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
炭化物をわずか、褐色ブロックを少量含む。
粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックを多量に含む。
粘性に欠けるがしまりはある。
3層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
粘性に欠けるがしまりはある。
4層　褐色土層(10YR4/4)
粘性に欠けるがしまりはある。

12号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずか、褐色ブロックを多量に含む。
粘性に欠けるがしまりはある。

13号土坑土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色ブロックを少量含む。粘性ややあり、しまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性ややあり、しまりはある。

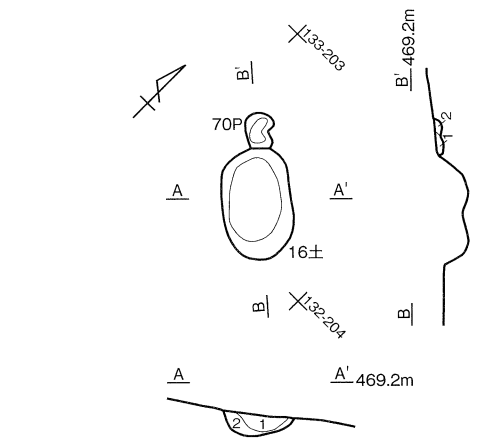
14号土坑土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、黒褐色ブロックを少量含む。粘性あり、しまりは強い。
2層　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)
炭化物、褐色粒をわずかに含む。粘性あり、しまりは強い。
3層　暗褐色土層(10YR3/4)
黒褐色粒をわずかに含む。粘性あり、しまりは強い。

54号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色粒をわずかに含む。粘性あり、しまりは強い。

15号土坑土層
1層　黒褐色土層(7.5YR3/2)　粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)　炭化物をわずかに含む。
粘性あり、しまりは強い。

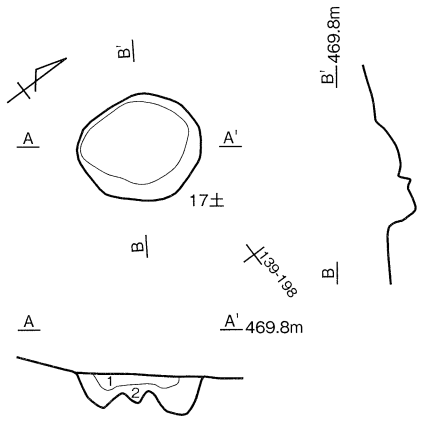
0　(1:40)　1m

第22図　土坑・ピット(3)

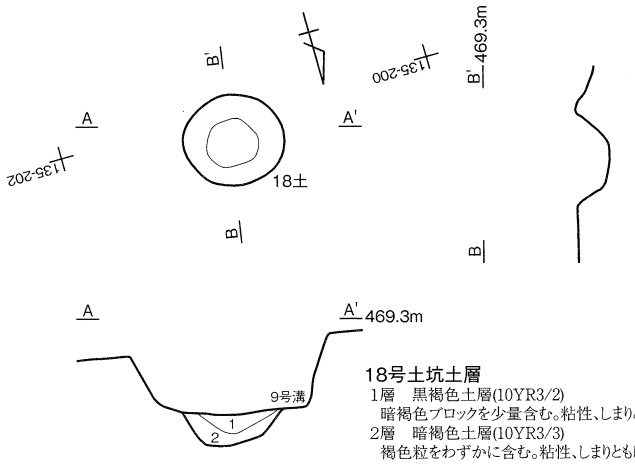


16号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)　暗褐色粒を多量に含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)　黒褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。

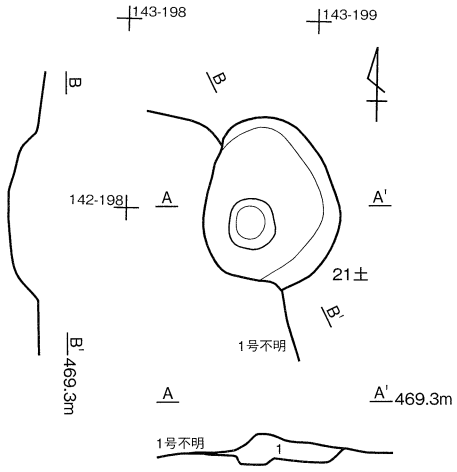
70号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)　粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)　黒褐色ブロックを多量に含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。



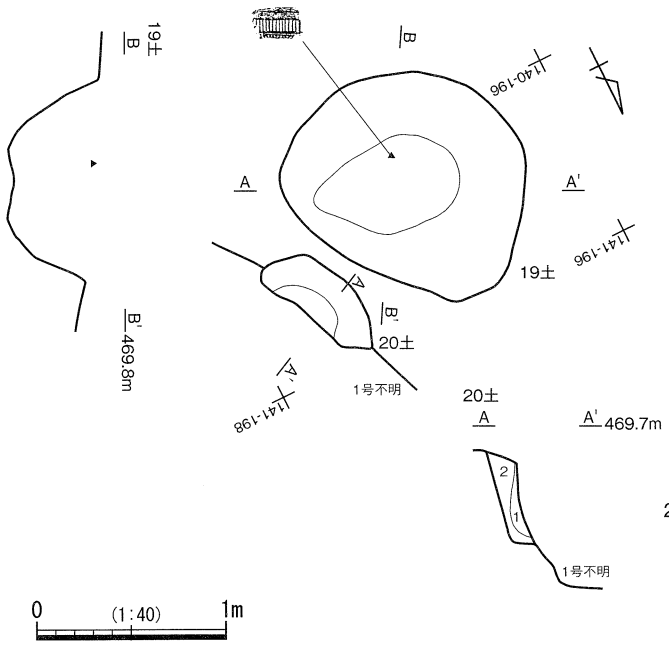
17号土坑土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物、褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。

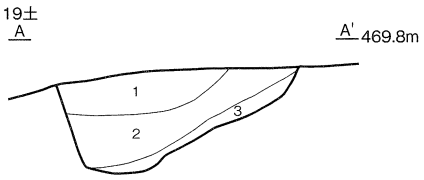


18号土坑土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。



21号土坑土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物、褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともにある。

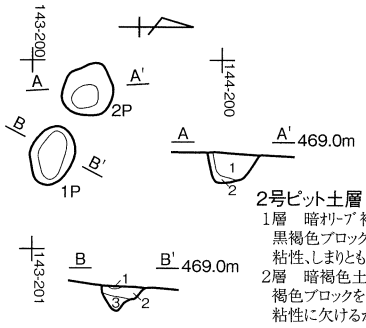




19号土坑土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色粒を少量、黒褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともにある。
2層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
3層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。

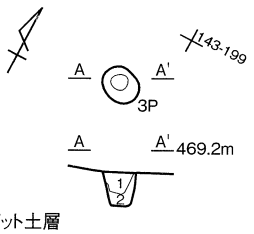
20号土坑土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
粘性、しまりともに強い。

第23図　土坑・ピット（4）

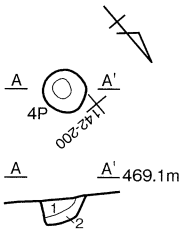


2号ピット土層
1層　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色土層(2.5Y3/3)
黒褐色ブロックを少量含む。
粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色ブロックを多量に含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。

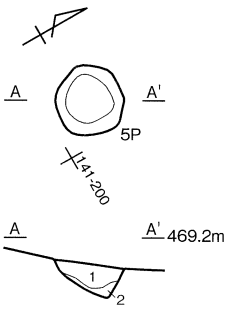
1号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/1)
粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色ブロックを少量含む。
粘性、しまりともに欠ける。
3層　黒褐色土層(7.5YR3/1)
粘性、しまりともに欠ける。



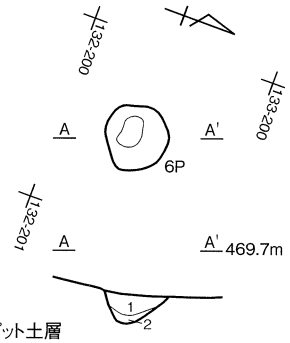
3号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色ブロックを少量含む。
粘性、しまりともに欠ける。



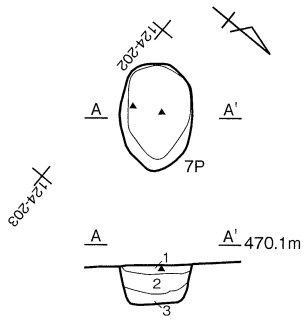
4号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR2/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともに欠ける。



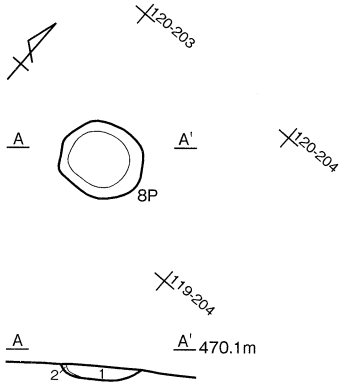
5号ピット土層
1層　黒褐色土層(7.5YR3/1)
暗褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性に欠けるがややしまりはある。



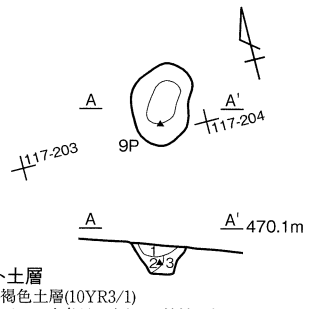
6号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/1)
粘性、しまりともに欠ける。
2層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともに欠ける。



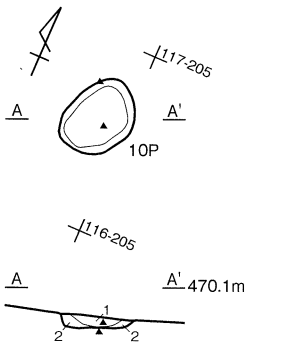
7号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　黒褐色土層(2.5Y3/2)
粘性に欠けるがややしまりはある。
3層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックをわずかに含む。粘性ややあり、しまりはある。



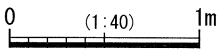
8号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性に欠けるがしまりはある。



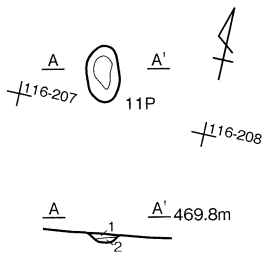
9号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/1)
暗褐色ブロックを多量に含む。 粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を多量に含む。粘性に欠けるがややしまりはある。



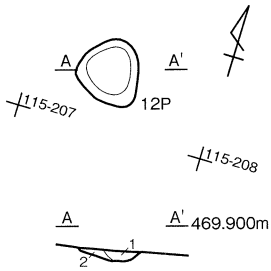
10号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性に欠けるがしまりはある。



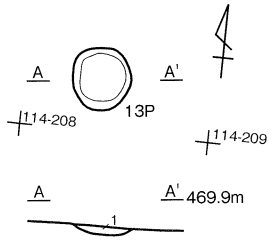
第24図　土坑・ピット（5）



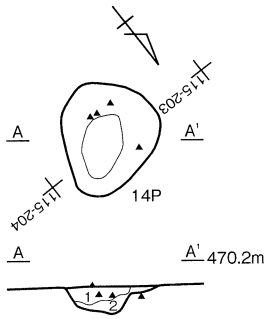
11号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/1)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。
2層　褐色土層(10YR3/4)
粘性に欠けるがしまりはある。



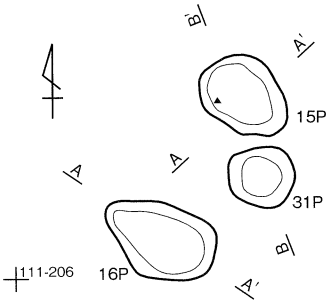
12号ピット土層
1層　黒褐色土層(7.5YR3/1)
暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。



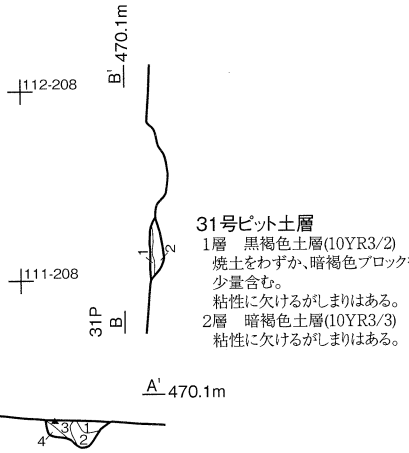
13号ピット土層
1層　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色土層(2.5Y3/3)
焼土、褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。



14号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色土ブロックを多く含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色粒子を多く含む。

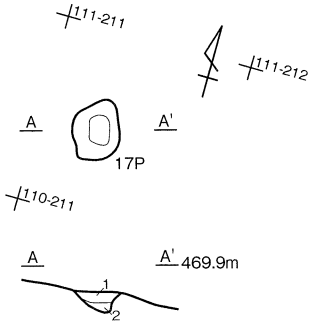


16号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
粘性、しまりともに欠ける。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。

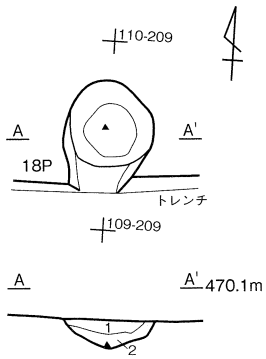


31号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
焼土をわずか、暗褐色ブロックを少量含む。
粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性に欠けるがしまりはある。

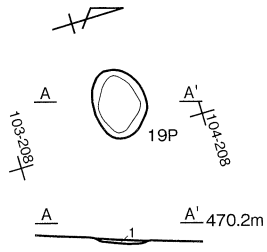
15号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色土ブロックを含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色粒子をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)
褐色土ブロック、褐色粒子を少量含む。
4層　暗褐色土層(10YR3/4)
黒褐色土ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともにある。



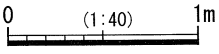
17号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/1)
炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともに欠ける。



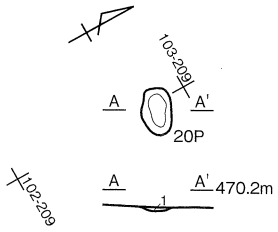
18号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。



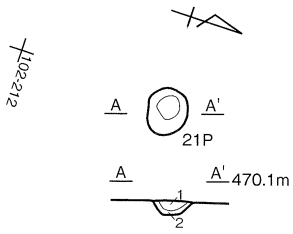
19号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。



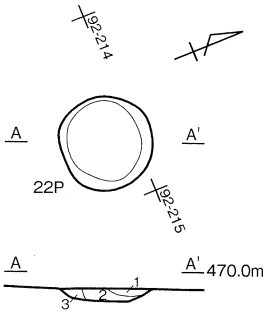
第25図　土坑・ピット（6）



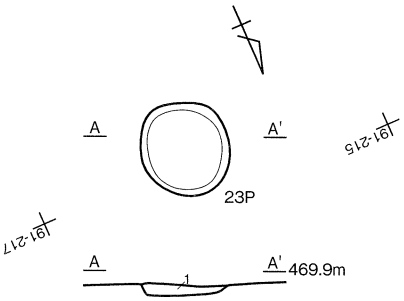
20号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
　粘性に欠けるがしまりはある。



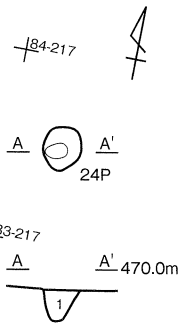
21号ピット土層
1層　黒褐色土層(2.5Y3/2)
　炭化物、褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
　粘性に欠けるがしまりはある。



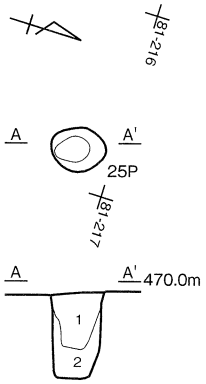
22号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　やや砂質。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
　黒褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
3層　暗褐色土層(7.5YR3/4)
　粘性に欠けるがしまりはある。



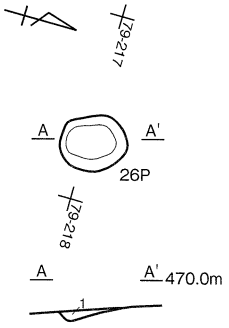
23号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
　褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともに欠ける。



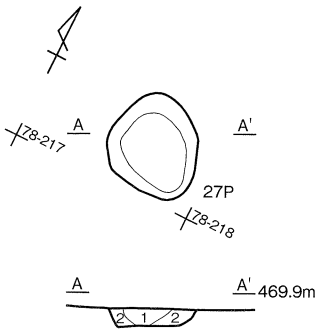
24号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
　褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。



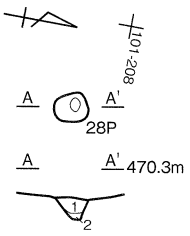
25号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
　粘性に欠けるがしまりはある。



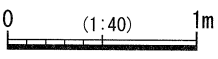
26号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
　粘性は無いがしまりはある。



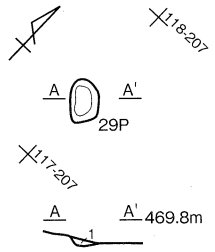
27号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
　炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
　粘性に欠けるがしまりはある。



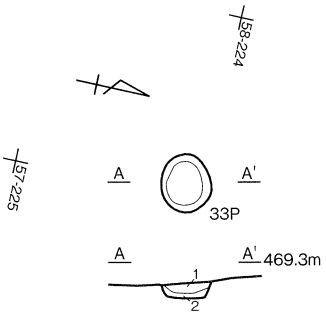
28号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
　炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともに無い。
2層　にぶい黄褐色土層(10YR4/3)
　粘性は無いがしまりはある。



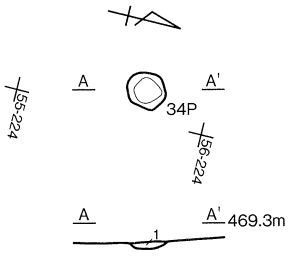
第26図　土坑・ピット（7）



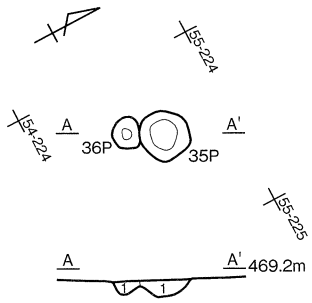
29号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性は無いがややしまりはある。



33号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR2/3)
赤褐色粒子、黄褐色土ブロックを多く含む。粘性、しまりともにある。
2層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
黄褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともにある。

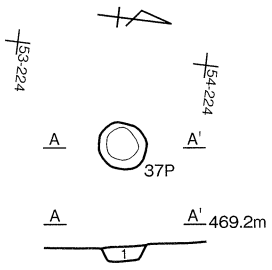


34号ピット土層
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
カーボン、黄褐色粒子を含む。粘性、しまりともにある。

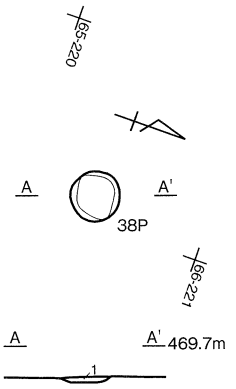


35号ピット土層
1層　黒褐色土層(7.5YR2/2)
カーボン、赤褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともに強い。

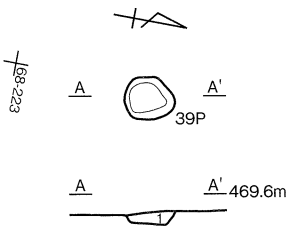
36号ピット土層
1層　極暗褐色土層(7.5YR2/3)
赤褐色粒子をわずかに含む。粘性、しまりともに強い。



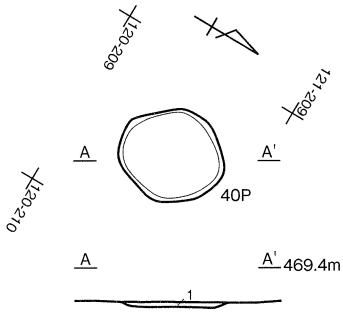
37号ピット土層
1層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
黄褐色土ブロックを多く含む。粘性、しまりともに強い。



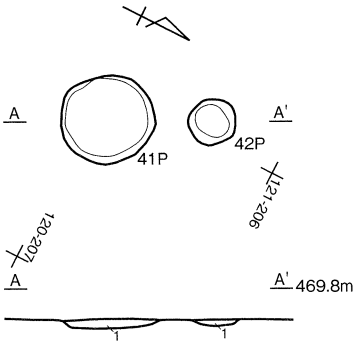
38号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
炭化物をわずか、褐色ブロックを少量含む。
粘性に欠けるがしまりはある。



39号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色粒を少量含む。粘性ややあり、しまりはある。

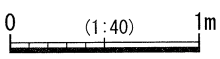


40号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。

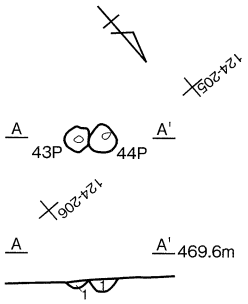


41号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物、黒褐色ブロックをわずか、褐色粒を多量に含む。
粘性に欠けるがしまりはある。

42号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずか、褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。

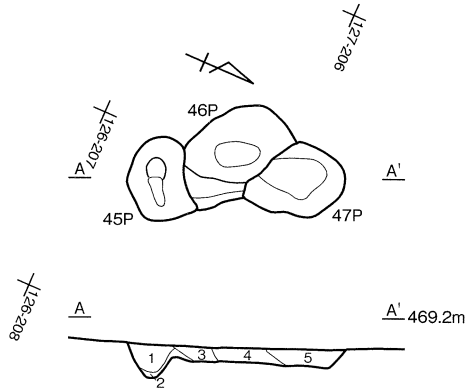


第27図　土坑・ピット（8）

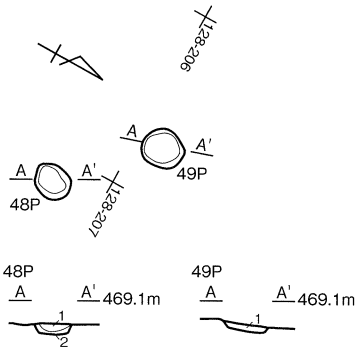


43号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　暗褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。

44号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/4)
　黒褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。

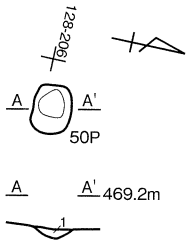


45･46･47号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　炭化物をわずか、暗褐色ブロックを少量含む。
　粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
　黒褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともにある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)
　暗褐色ブロックを多量に含む。粘性ややり、しまりはある。
4層　黒褐色土層(10YR3/2)
　暗褐色粒を少量含む。粘性ややあり、しまりはある。
5層　黒褐色土層(10YR2/2)
　暗褐色ブロックをわずかに含む。
　粘性に欠けるがややしまりはある。

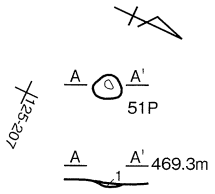


48号ピット土層
1層　暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色土層(2.5Y3/3)
　炭化物、暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
　粘性、しまりともにある。

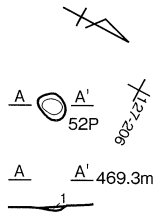
49号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　炭化物をわずか、褐色粒を多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。



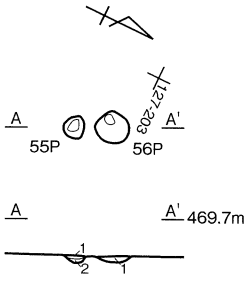
50号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
　褐色ブロックを少量含む。粘性ややあり、しまりはある。



51号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
　粘性ややあり、しまりはある。

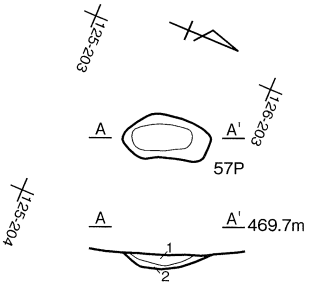


52号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
　褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。

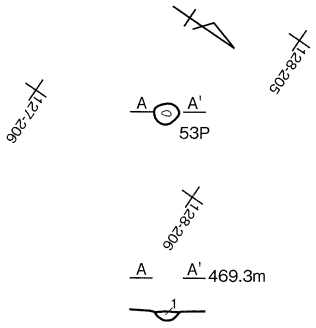


55号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
　粘性、しまりともにある。

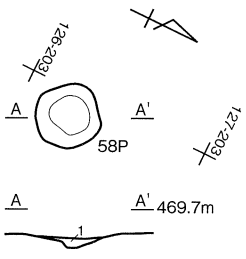
56号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。



57号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　褐色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
　粘性、しまりともにある。



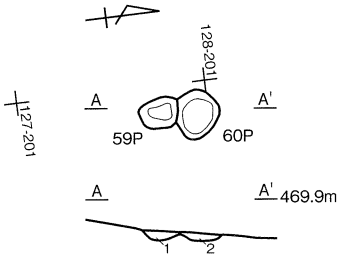
53号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/2)
　炭化物をわずか、褐色粒を多量に含む。粘性、しまりともにある。



58号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
　暗褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともにある。

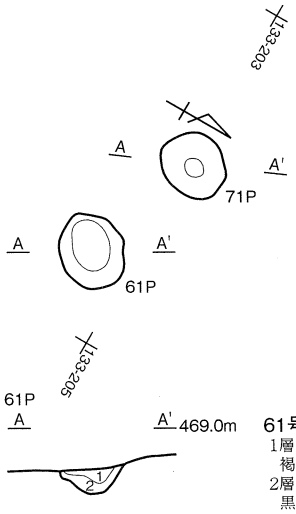
0　(1:40)　1m

第28図　土坑･ピット(９)



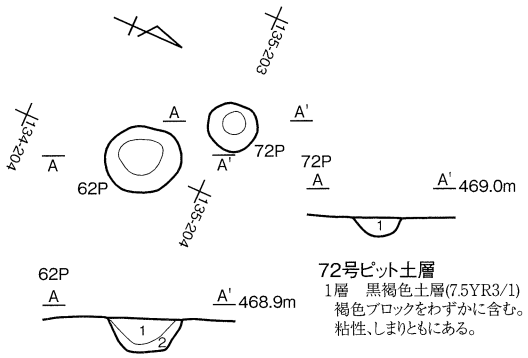
59号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずか、暗褐色ブロックを少量含む。粘性、しまりともにある。

60号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともにある。



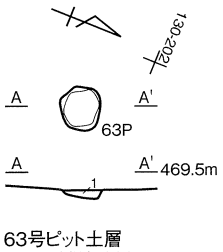
71号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともにややある。

61号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
褐色ブロックをわずかに含む。粘性ややあり、しまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。

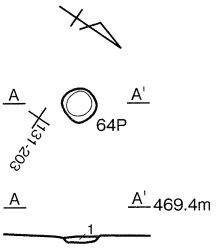


72号ピット土層
1層　黒褐色土層(7.5YR3/1)
褐色ブロックをわずかに含む。
粘性、しまりともにある。

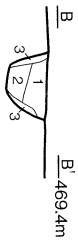
62号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性あり、しまりは強い。



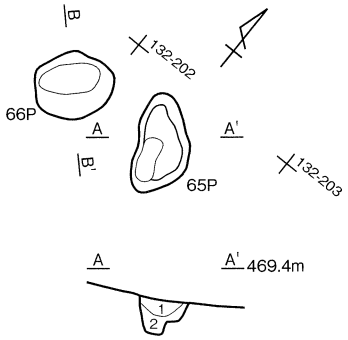
63号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
黒褐色ブロックを多量に含む。
粘性に欠けるがしまりはある。



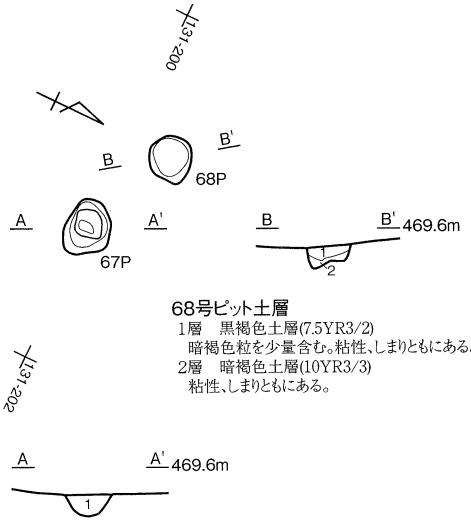
64号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
褐色粒を少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。



66号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR2/2)
暗褐色ブロックを少量含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。
2層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックを多量に含む。
粘性に欠けるがややしまりはある。
3層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性、しまりともにある。



65号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
粘性、しまりともにある。

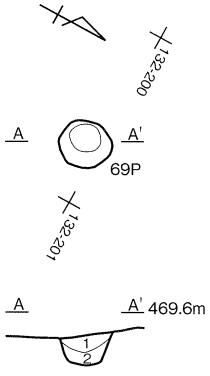


68号ピット土層
1層　黒褐色土層(7.5YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/3)
粘性、しまりともにある。

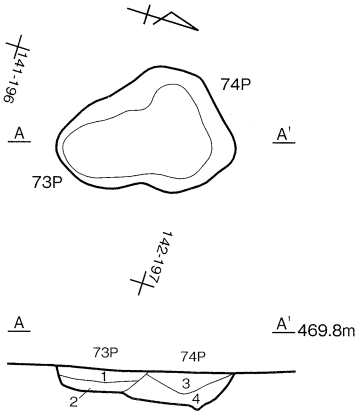
67号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
暗褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。

0　(1:40)　1m

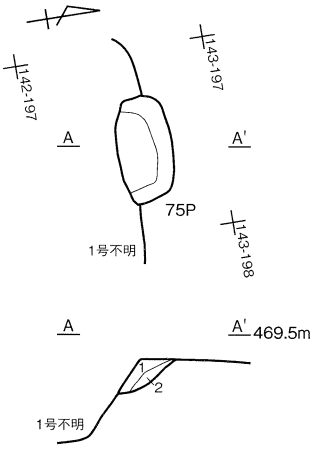
第29図　土坑・ピット(10)



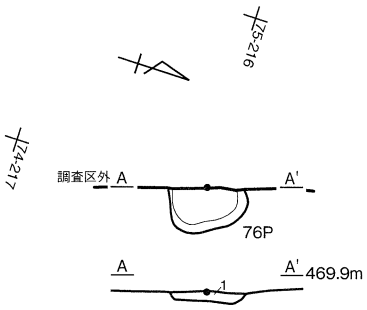
69号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
暗褐色粒を少量含む。粘性、しまりともにある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
黒褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。



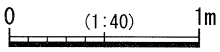
73･74号ピット土層
1層　黒褐色土層(10YR3/2)
炭化物をわずかに含む。粘性、しまりともにややある。
2層　暗褐色土層(7.5YR3/3)
粘性、しまりともにある。
3層　黒褐色土層(10YR3/2)
粘性に欠けるがしまりはある。
4層　暗褐色土層(10YR3/3)
褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。



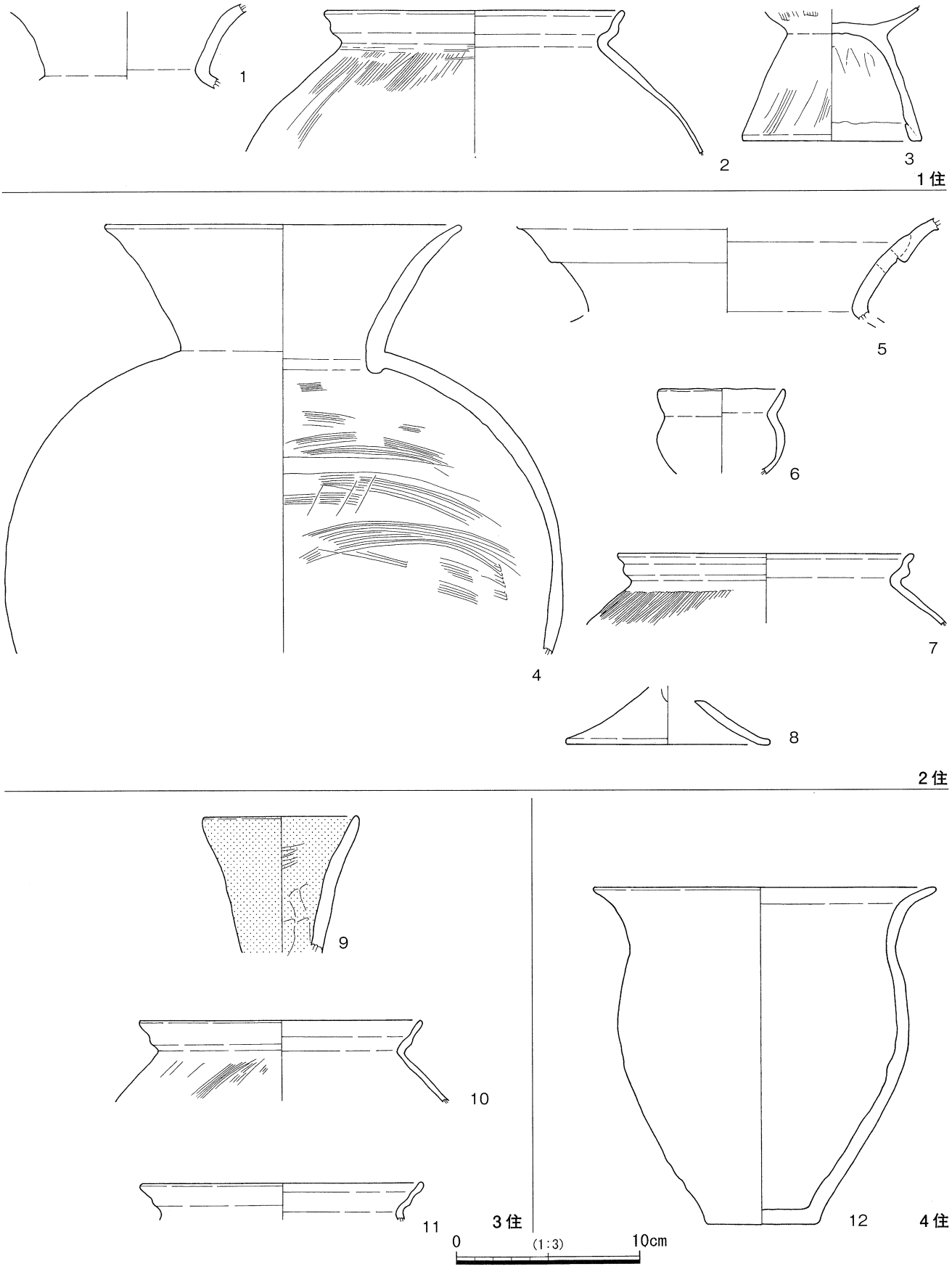
75号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物をわずかに含む。粘性ややあり、しまりはある。
2層　暗褐色土層(10YR3/4)
黒褐色ブロックをわずかに含む。粘性、しまりともにある。



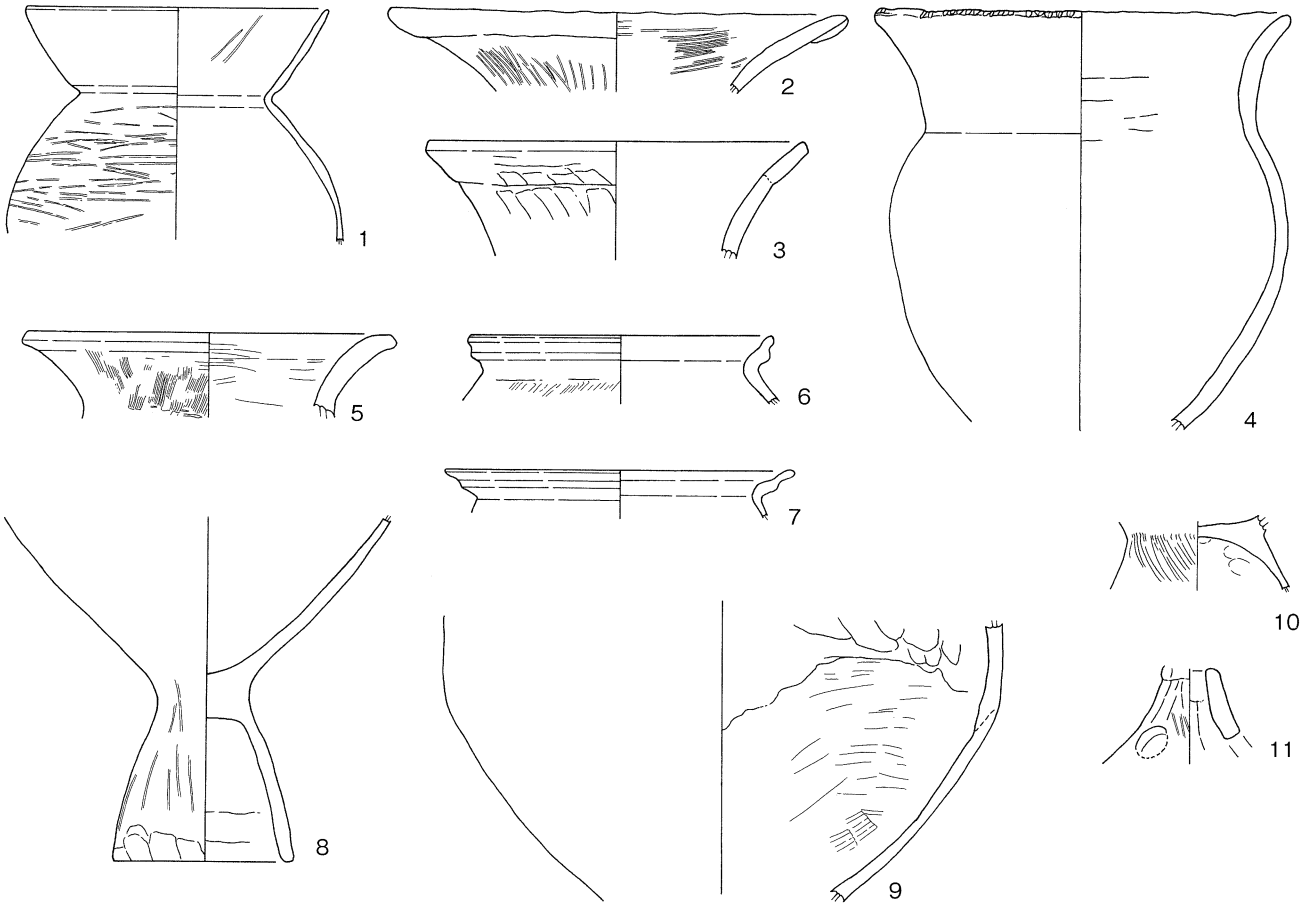
76号ピット土層
1層　暗褐色土層(10YR3/3)
炭化物、褐色粒をわずかに含む。粘性、しまりともにある。

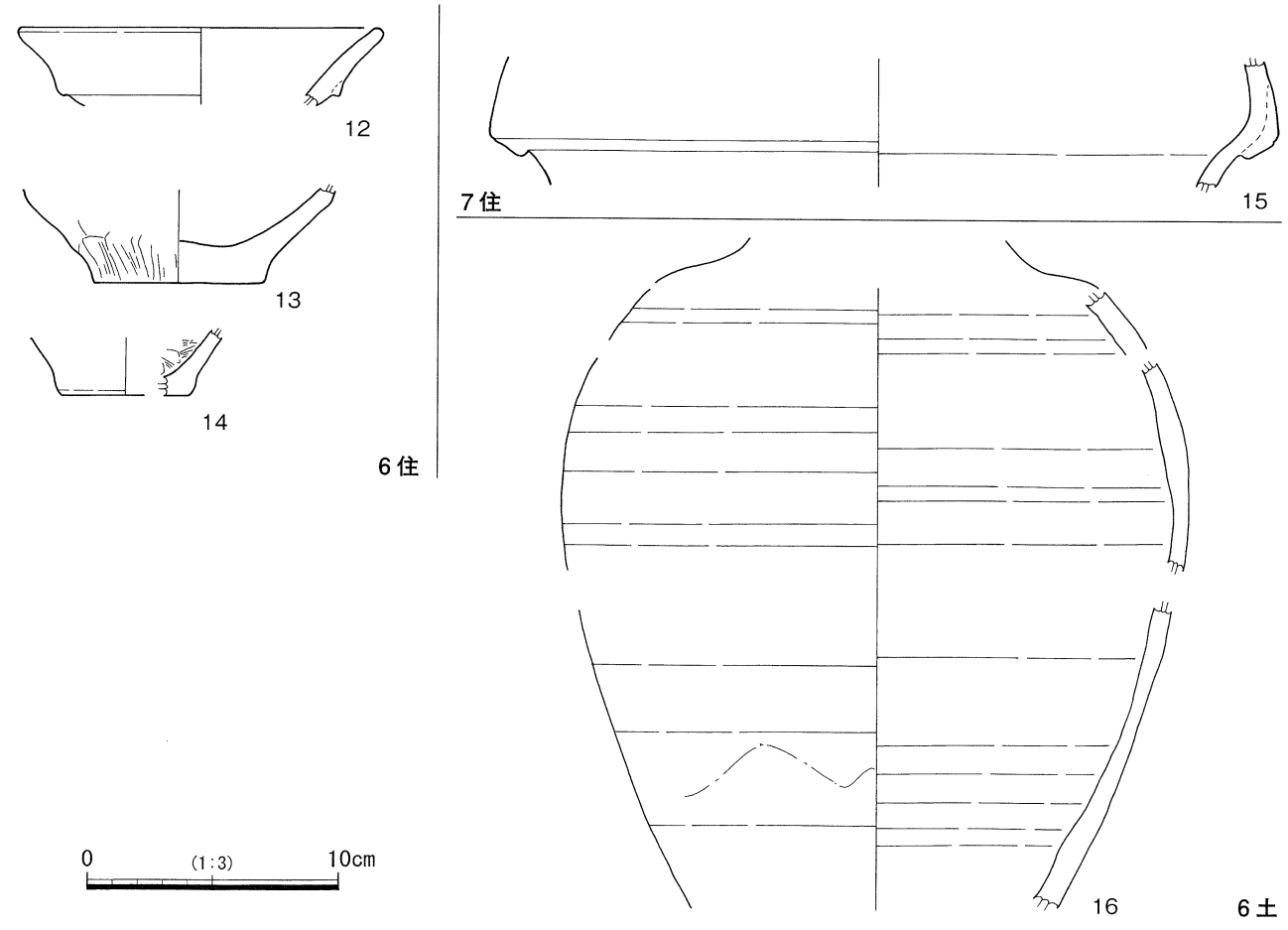


第30図　土坑・ピット(11)

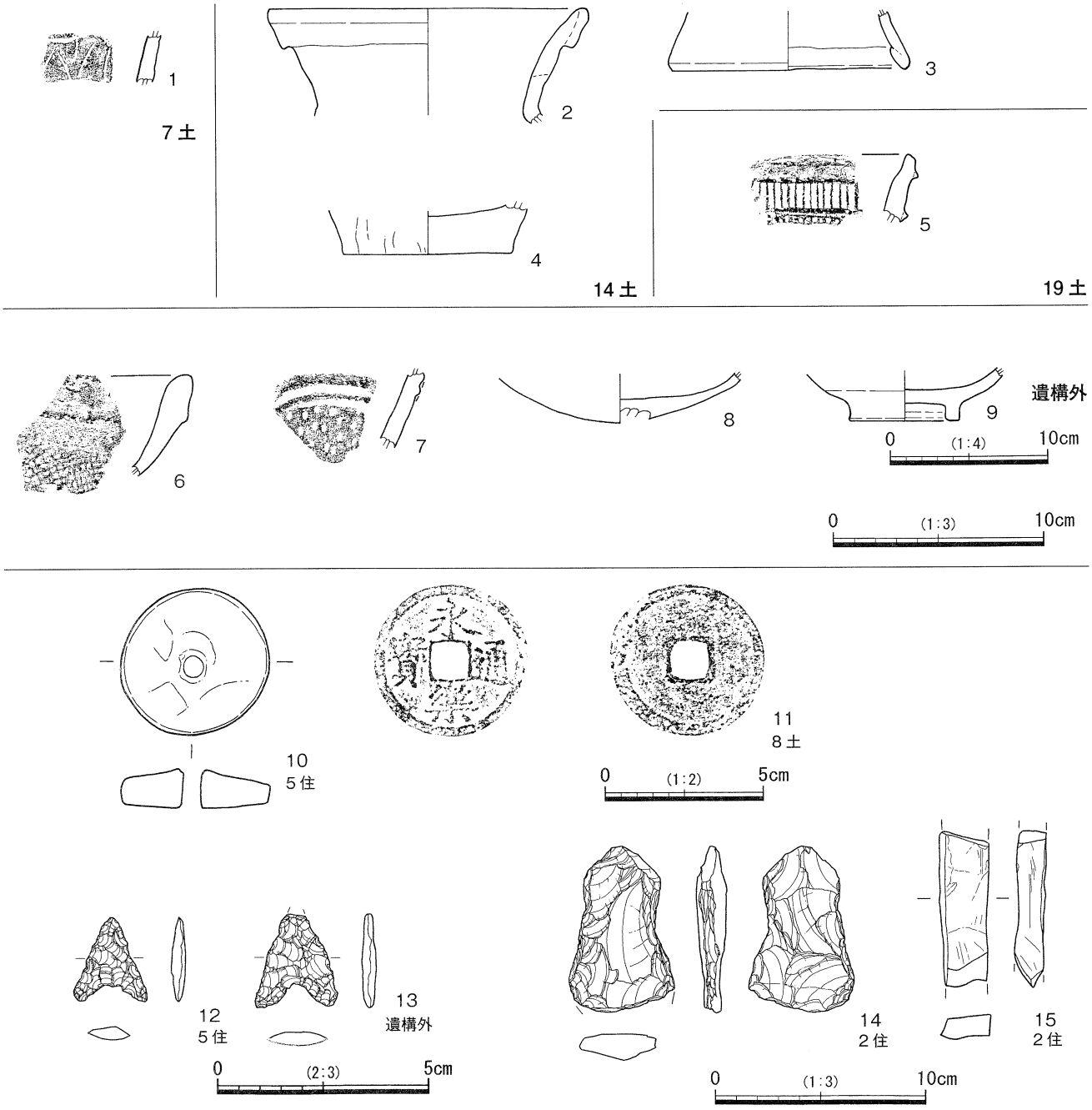


第31図　出土遺物（1）





第32図　出土遺物（2）


1
7土
2
3
4
14土
5
19土
6
7
8
9
遺構外
0 (1:4) 10cm
0 (1:3) 10cm
10
5住
11
8土
0 (1:2) 5cm
12
5住
13
遺構外
0 (2:3) 5cm
14
2住
15
2住
0 (1:3) 10cm

第33図　出土遺物（3）

1. 表土剥ぎ(1)

2. 表土剥ぎ(2)

3. 1 号住居

4. 1 号住居　炉

5. 1 号住居　遺物出土状況(1)

6. 1 号住居　遺物出土状況(2)

7. 1 号住居　遺物出土状況(3)

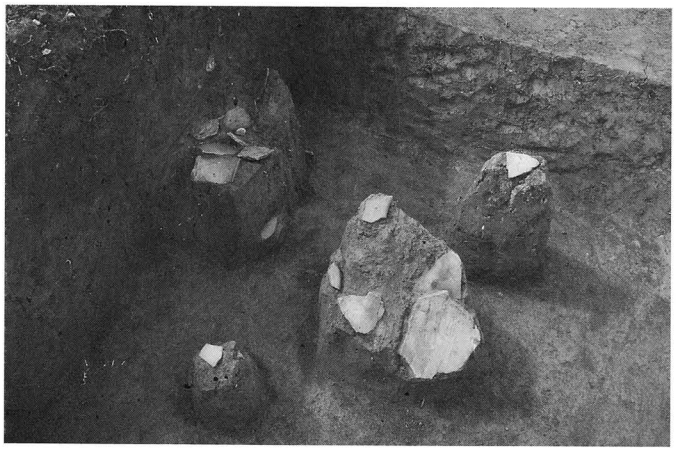
8. 2 号住居

図版２

1. ２号住居　遺物出土状況(1)

2. ２号住居　遺物出土状況(2)

3. ２号住居　遺物出土状況(3)

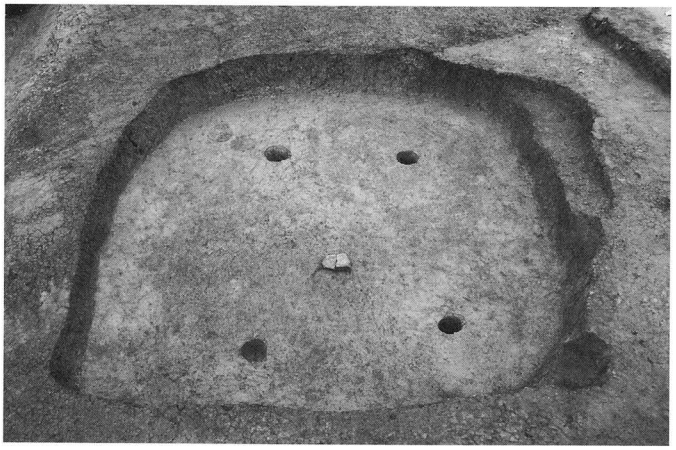


4. ２号住居　遺物出土状況(4)

5. ３号住居

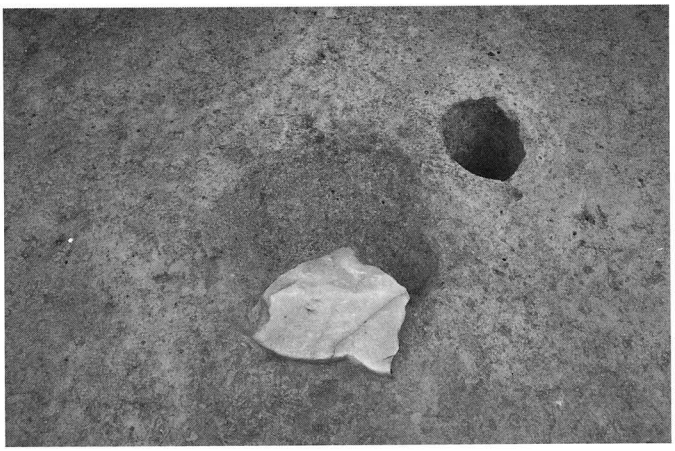
6. ４号住居

7. ４号住居　遺物出土状況

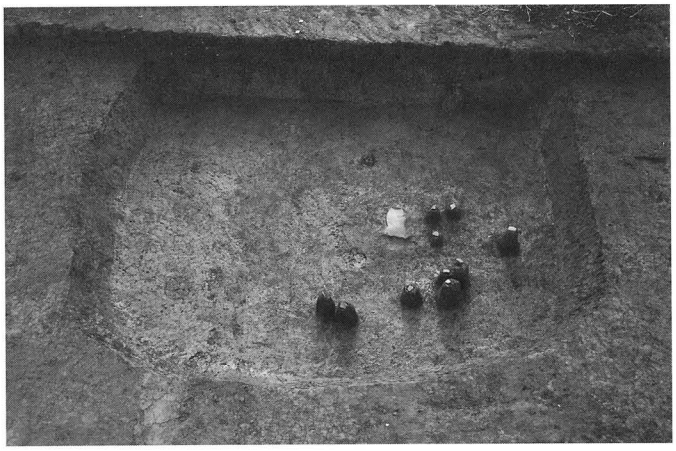


8. ５号住居

1．６号住居



2．６号住居　炉

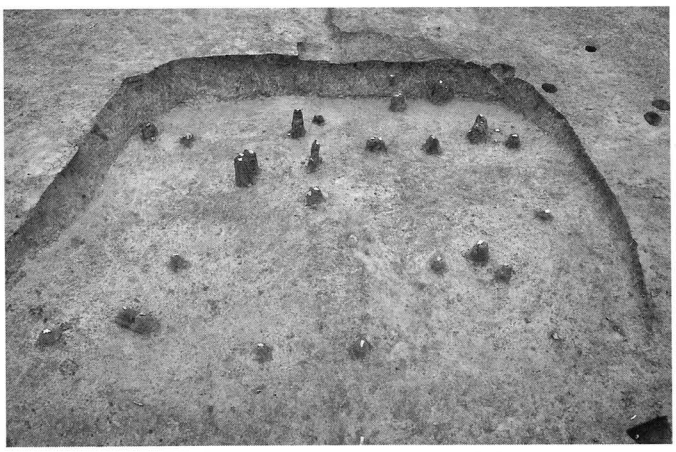


3．６号住居　遺物出土状況(1)

4．６号住居　遺物出土状況(2)

5．７号住居

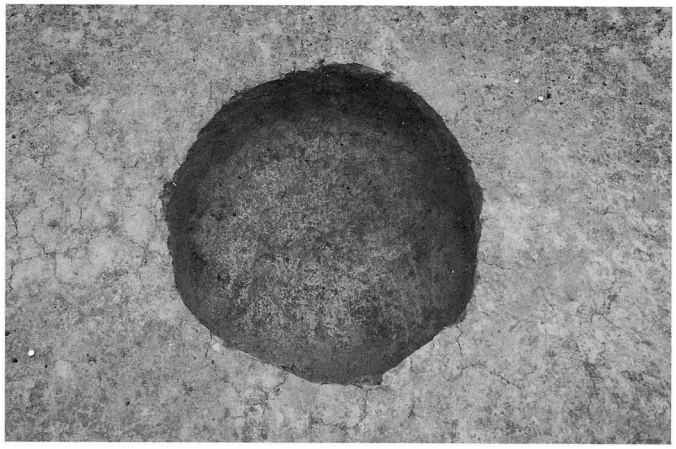
6．７号住居　炉



7．７号住居　遺物出土状況(1)

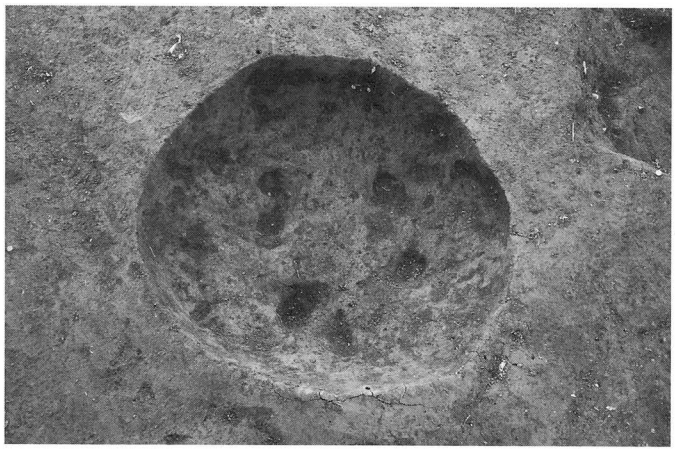
8．７号住居　遺物出土状況(2)

図版４

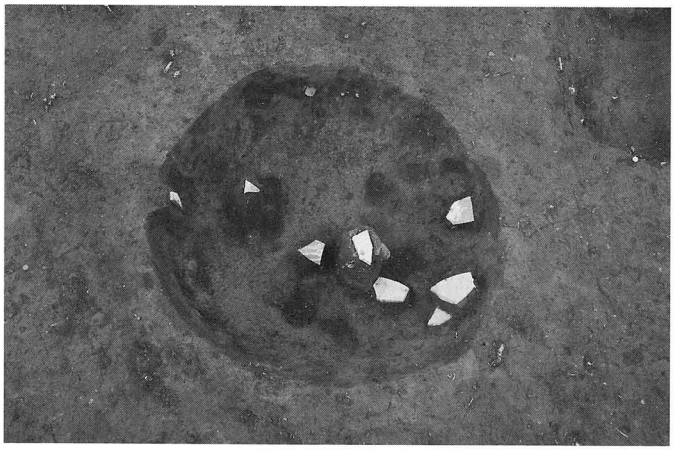


1. １号土坑

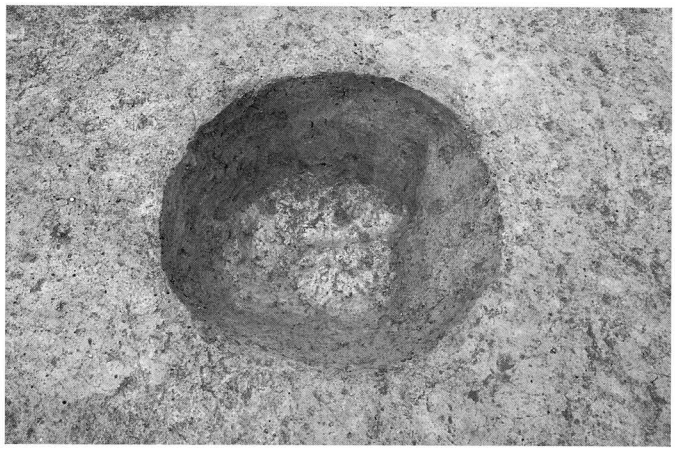
2. ２号土坑



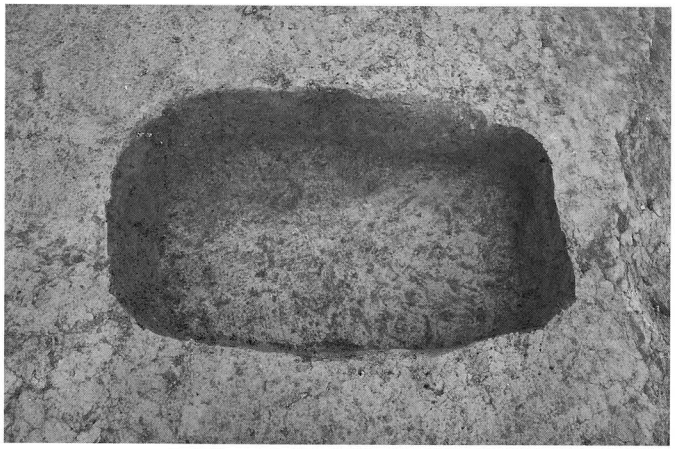
3. ６号土坑



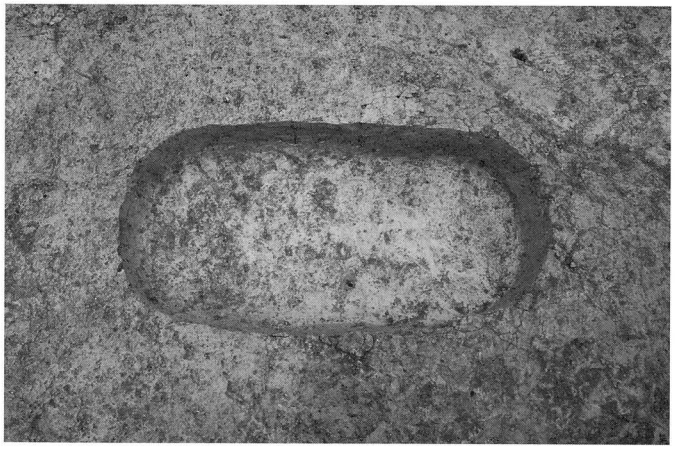
4. ６号土坑　遺物出土状況



5. ７号土坑



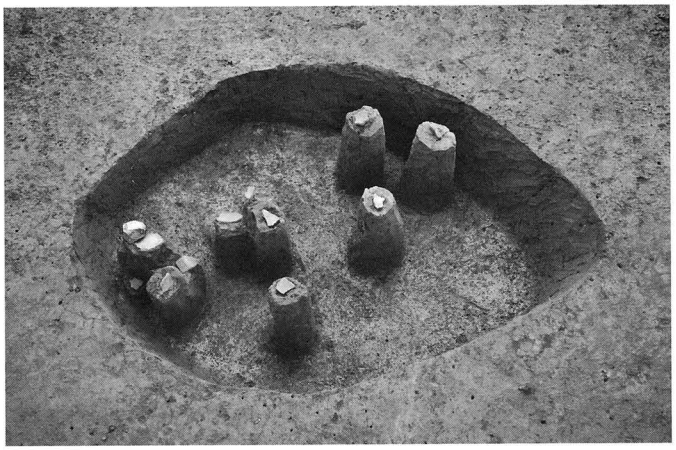
6. ８号土坑



7. 12号土坑

8. 13号土坑

1. 14号土坑



2. 14号土坑　遺物出土状況

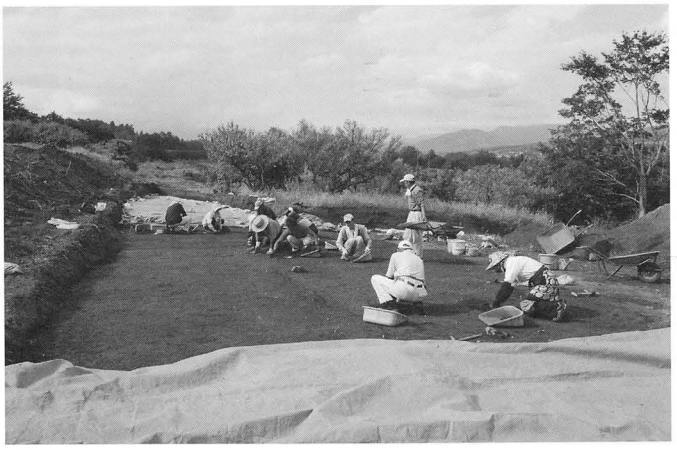
3. １号溝

4. ２号溝

5. ３・４号溝

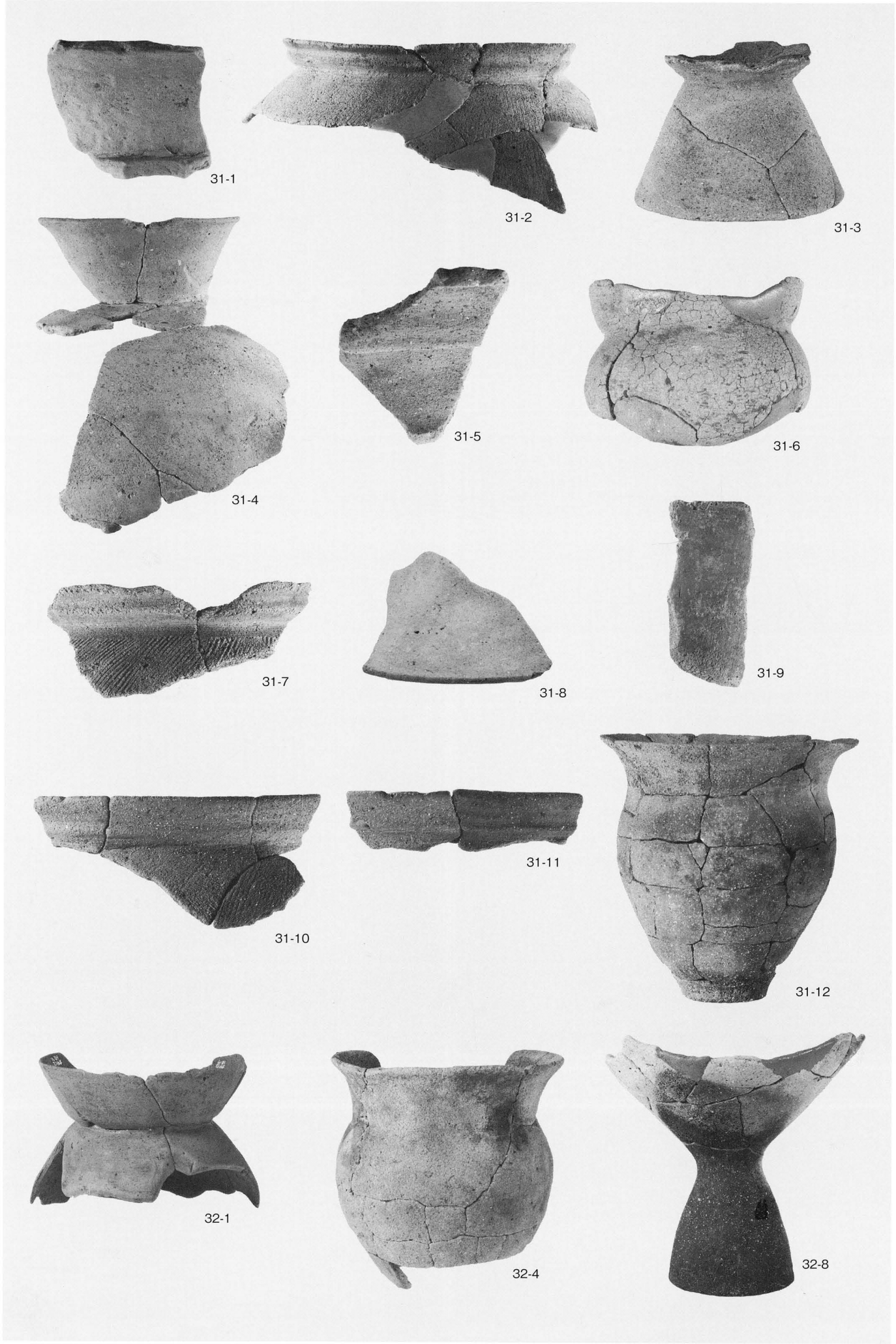
6. ７号溝

7. ７号溝内ピット



8. 調査風景

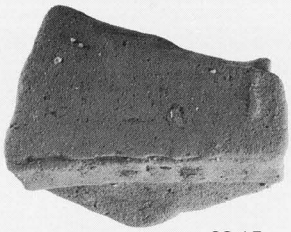
図版 6

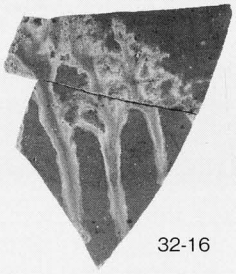


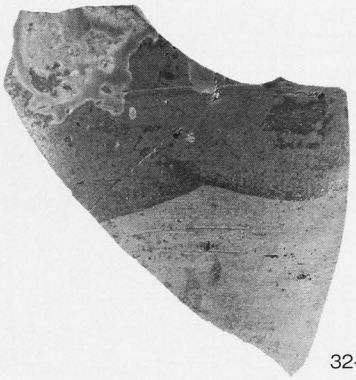
32-12

32-13

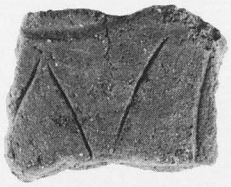
32-14


32-15


32-16


32-16

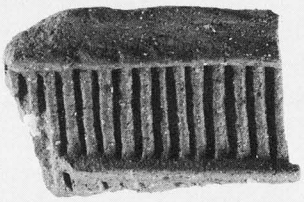
32-16

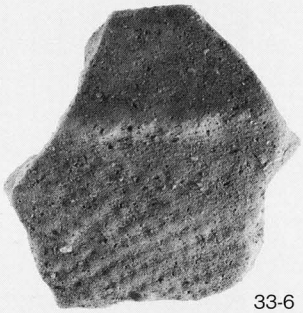

33-1

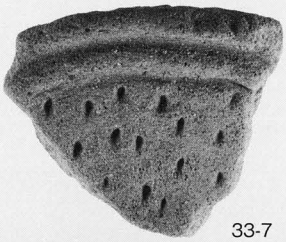
33-2

33-3

33-4

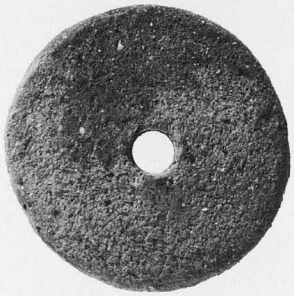

33-5


33-6


33-7

33-8

33-9


33-10

33-11

33-12

33-13

33-14

33-15

隠岐殿遺跡Ⅲ報告書抄録

ふりがな		おきどのいせきⅢ
書名		隠岐殿遺跡Ⅲ
副書名		中田町中条地区畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
著者名		宮澤公雄
発行者		山梨県中北農務事務所・韮崎市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所
編集機関		財団法人山梨文化財研究所
住所・電話		〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441
印刷日		2011年３月25日
発行日		2011年３月31日
所在地		山梨県韮崎市中田町
地図名		25,000分の１地形図 韮崎
位置		北緯35度44分29秒、東経138度25分48秒
標高		468m
市町村コード		19207
調査原因		畑地帯総合整備事業
調査期間		2009年８月26日～2009年10月13日
調査面積		667㎡
遺跡概要	主な時代	縄文時代～中世
	主な遺構	弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡、中世の土坑・溝跡
	主な遺物	弥生時代後期の土器、古墳時代前期の土師器、中世陶器
	特殊遺構	溝跡

隠岐殿遺跡Ⅲ

―中田町中条地区畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成23年３月31日 発行

編集・発行 山梨県中北農務事務所
〒407-0024 山梨県韮崎市本町4-2-4 TEL 0551-23-3771

韮崎市教育委員会
〒407-8501 山梨県韮崎市水神131-1 TEL 0551-22-1111

財団法人山梨文化財研究所
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566 TEL 055-263-6441